

I 23年度自己点検評価報告書 総括表

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1) 収蔵品の収集

【中期目標】国の文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機構の設置する博物館各館の役割・任務に沿って収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受け入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実と保全を図ること。				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(1)－1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。		○購入、寄贈・寄託の受け入れにより、各館の特色に沿った体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。		
【22年度評価における主な指摘事項】				
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
1111	(1)－1 適時適切な収集 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。	(1)－1 適時適切な収集 【東京国立博物館】 本年度の購入物件はない。運営費交付金が削減された状況で、東洋館の再開館に必要な演示具・備品等の取得や収蔵品の再配置に予算を振り向けざるを得なかったため、購入費の捻出が困難であった。	F	要注意
	1112 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。	【京都国立博物館】 ・博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品 13 件を購入した。従来から所蔵する優れた一括資料のうち、須磨コレクションの中国近代書画に絵画 4 件を加え、長尾雨山関係資料に絵画 1 件、書跡 2 件を加えた。その他に近世絵画 2 件、金工 1 件、染織部門	A	順調

1113	(奈良国立博物館) 仏像、仏画、経典・仏教関係書跡等、仏教工芸、仏教考古資料の中から重点的に購入する。	の小袖の系統的収集を充実させる 2 件、人形 1 件を購入した。 ・内訳：絵画 7 件、書跡 2 件、金工 1 件、染織 3 件 ・決算額 48,422,500 円 【奈良国立博物館】 購入により 4 件の文化財が新たな収蔵品として加わった。 ・絵画 紙本墨画渡唐天神像 1 幅 江戸時代(17 世紀) ・彫刻 木造阿弥陀如来坐像 1 軀 平安時代(9～10 世紀) ・書跡 紙本墨書万昆嶋主解 1 枚 奈良時代 天平宝字 2 年(758) ・書跡 紙本墨書足利義満書状案 1 幅 南北朝時代(14 世紀) 決算額は 102,250,000 円。	A	順調
	1114 (九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。	【九州国立博物館】 ・当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集する一方で、日本の王朝文化を象徴する作品として、優れた文化財を 17 件購入した。 ・購入 17 件 (内訳：絵画 3 件、書跡 3 件、彫刻 1 件、染織 2 件、考古 1 件、歴史資料 7 件) 決算額： 569,350,000 円 ・編入 2 件 (内訳：絵画 1 件、考古 1 件)	A	順調
1121	(1)－2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用 (4 館共通) 1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。	(1)－2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用 【東京国立博物館】 1) 作品の寄贈については 7 名の所蔵者から、151 件の文化財を受け入れた。 絵画：12 件、書跡：33 件、陶磁：1 件、漆工：22 件、東洋書跡：44 件 東洋陶磁：34 件、東洋漆工：5 件 ・新規寄託品は 7 件あった。 ・登録美術品の、増減はなかった。	A	順調
1122		【京都国立博物館】 (寄贈) ・寄贈は 24 件で、寄贈者は 7 人であった。 内訳：絵画 11 件、陶磁 4 件、漆工 2 件、染織 7 件 (寄託) ・新規寄託は 93 件。展示館の建て替え工事のため、当面平常展示において活用することはできないが、研究資料として、また特別展覧会での活用が見込まれる。 内訳：絵画 50 件、書跡 7 件、彫刻 7 件、金工 9 件、陶磁 11 件、漆工 2 件、染織 3 件、考古 4 件	A	順調
1123		【奈良国立博物館】 1) 寄贈の受け入れはなかった。寄託については、新規に 9 人の所蔵者から 12 件の作品の文化財を受け入れた。 絵画：3 件(絹本着色釈迦三尊十六善神像 1 幅 / 奈良県指定文化財 仏涅槃図 1 幅 / 奈良県指定文化財 阿弥陀聖衆來迎図 1 幅)	A	順調

1124		彫刻:1件(木造薬師如来坐像 1 軀) 書跡:5件(生馬大明神縁起 1 巻 / 生馬八幡宮略縁起 1 巻 / 紺紙金字大般若経卷第五百八十六 1 巻 / 国宝 法華経(一品経) 寿量品・法師功德品 2 巻 / 重要文化財 大般若経(安倍小水麻呂願経) 142 巻) 工芸:3件(重要文化財 金銅蓮華形磬 1 面 / 銅蓮華形柄香炉 1 柄 / 金銅能作性塔 1 基) 【九州国立博物館】 1) 寄贈 1 件(内訳:金工 1 件) 新規寄託 17 件(内訳:絵画 9 件、書跡 1 件、彫刻 1 件、染織 1 件、考古 5 件)	A	順調
------	--	---	---	----

(2) 適切な管理保存

【中期目標】 収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、収蔵品と人の安全を守る施設・設備の整備を図ること。				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。		○収蔵品を適切に保存・管理するための、写真・管理データを蓄積すること。 ○展示場、収蔵庫の老朽化対策や温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施すること。		
(2)-2 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。		【22 年度評価における主な指摘事項】 ○保存カルテや調書の作成は、地味で目立たない仕事であるが、博物館機能上、重要な業務であり、今後も計画的に実施していくべきである。 ○保存・活用のための展示環境等についても、文化財の次世代への継承を目的とした計画が実施されるとともに、収蔵環境に関するデータの解析がなされ、それが改善へとフィードバックされており、継続した対応を期待する。		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(2)-1 収蔵品の管理・保存 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (4 館共通) 1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。	(2)-1 収蔵品の管理・保存		

1211	(東京国立博物館) 1) 列品存在確認作業(棚卸)を継続して計画的に実施する。	【東京国立博物館】 (4 館共通) 1) 本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として 1,187 件の保存カルテを作成し、蓄積した。 (東京国立博物館) 1) 平成 20 年度末から実施している、収蔵品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。 2) 旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進めた。	A	順調
1212	2) 歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進める。	【京都国立博物館】 ・旧収蔵庫から東収蔵庫に収蔵品を移動して4年が経過しており、箱に納入されていない文化財に関して保存状態を点検し、必要な手入れを行った。 ・半年おきに定期的に実施している寄託品の期間継続に伴う点検を実施した。 (4 館共通) 1) 貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテについて、今年度は249件を作成した。	A	順調
1213	(奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的保存を図る。	【奈良国立博物館】 (4 館共通) 1) 保存カルテの作成 ・保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成・保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、130 件を順調に作成した。 ・保存カルテのコンディション評価欄に記入された A～E の 5 段階評価についてデータを集計し、現在構築中の館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。 (奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所の運用 ・学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の 3 工房代表者との懇談会である今年度第 1 回目の文化財保存修理所協議会を 6 月 8 日(水)に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。 ・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を、3 回実施した。	A	順調

1214	(九州国立博物館) 1) 博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存を図る。	【九州国立博物館】 (4 館共通) 1) 収蔵品および修理完了資料を中心とした保存カルテを作成した。 (九州国立博物館) 1) 展示品を中心に X 線 CT スキャナ、三次元計測装置や三次元プリンタを用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は文化財の予防的保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設 1～6 を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。	A	順調
1221	(2)-2 施設の環境整備 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 (4 館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P M (総合的有害生物管理) の徹底を図る。 (東京国立博物館) 1) 東洋館の耐震補強改修工事に伴う展示環境の整備を図り、よりよい展示を目指す。 2) 本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。 3) 収蔵品の保存と展示に関する環境について全館の視野にたつて調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 4) 展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。 5) 収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。 6) 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。	(2)-2 施設の環境整備 【東京国立博物館】 (4 館共通) 1) 収蔵庫など 441 地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 (東京国立博物館) 1) 東洋館収蔵庫の工事完了に伴い、内部の空気成分の調査を行うとともに、空調運転による環境改善を図った。 2) 本館地下1階特8収蔵庫を屏風及び掛け軸など絵画専用倉庫として整備した。本館地下1階植輪収蔵庫に空気清浄機を導入し、ホルムアルデヒドなどアルデヒド類の軽減を図った。 3) 収蔵庫及び展示室など432地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。これらのデータの解析・評価に基づき、平成館特別展示室の温室度環境を改善するための空調時間延長等の実験を実施し、効果を検証した。 4) 東洋館既存収蔵庫内の収納棚に対して落下防止対策の設置を検討し、設置した。 5) 収蔵庫、展示室など169箇所の温湿度に關し、3段階に環境を分類(クラスⅠ、Ⅱ、要注意)した平成23年次報告書を作成した。 6) 文化財の梱包に頻繁に使用される緩衝材が輸送中の振動・衝撃を伝達する際に現れる特性について、発泡ポリエチレン(サンテックフォーム)について引き続き調査を行った。また作品の借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に關し4件(北京故宮展における輸送など)の輸送状態を調査した。	A	順調
1222	(京都国立博物館) 1) 引き続き、平常展示館建替工事を実施する。 2) 平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の充実を図る。 3) 特別展示館(重要文化財 旧帝国京都博物館本館)の耐震調査の結果を基に、地震対策を具体的に検討する。 4) 特別展示館の環境及び当該地域の気象を勘案し、文化財への負荷を減らすことを目的とした空調のミニマムインターベンション(最小限の干渉)運用の向上を図る。	【京都国立博物館】 (4 館共通) 1) I P M の徹底について、収蔵庫の生物生息及び温湿度状況を把握するため、継続的なモニタリングと定期的な調査を行った。東収蔵庫の環境を維持するために、清掃を行った。 (京都国立博物館) 1) 平常展示館建て替え工事は25年度中間館に向けて進んでおり、24年度4月中に上棟予定である。 2) 東収蔵庫各収蔵室の清掃、空調フィルタの交換等を行うとともに、継続的な生物環境調査を行った。また、中央制御室における収蔵庫の温湿度管理に加えて、東収蔵庫の各収蔵庫の代表温湿度の記録をデータロガーによって継続的に行った。 3) 委員会にて承認された特別展示館耐震補強方針について文化庁と協議を行ない免震化計画に対する理解を得た。 4) 温湿度設定を状況に応じて調整することにより、冬季の展示場を除いて保存環境の改善を行った。	A	順調
1223	(奈良国立博物館) 1) 展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線 LAN によるデータ管理システムを更に充実させる。 2) 展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 3) 収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。	【奈良国立博物館】 (4 館共通) 1) ・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかわる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを1ヶ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。 ・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。 ・収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的の実施した。 (奈良国立博物館) 1) 展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線 LAN によるリアルタイムの温湿度管理システムを導入し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応することを可能とした。 2) ・展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線 LAN 温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して報告書を作成した。 ・正倉院展終了直後の 11 月 15 日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともに行った。 3) 展示室内の温湿度については無線 LAN 温湿度管理システムにより 24 時間リアルタイムで状況を把握した。収蔵庫及び文化財保存修理所各工房内については、ロガータイプの温湿度センサーを各 5 箇所程度設置し、定期的にデータの回収、分析を行うことによって温湿度の変化を把握した。	A	順調

1224	(九州国立博物館) 1) 館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。 2) 全館的視野に立った陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。	【九州国立博物館】 (4 館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P M の徹底を図った。文化財搬入に際し、I P M メンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺菌処理を実施した。 (九州国立博物館) 1) 常設展示室 70、特別展示室約 30、収蔵庫 30 箇所に温湿度計を設置し、環境データを解析した。また、空気質やダストを調査して収蔵環境の改善を行った。 2) 環境データを解析することで、極めて安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。	A	順調
------	---	--	---	----

(3) 計画的な修理

【中期目標】 収蔵品の保存技術の向上に努めること。				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(3)-1 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。 (3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。 (3)-3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。		○緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施すること。 ○文化財保存修理所の整備・充実のための取組を行うこと。 ○計画的な収蔵スペースの確保及び調査研究のための基本設備充実に向けた取り組みを行うこと。 【22 年度評価における主な指摘事項】 ○アソシエイトフェローの配置が効果を上げ、修理実績を増やすことにつながったと評価できるが、本来は十二分な専任の修復スタッフを配置する必要があり、そうした人材も育成すべきである。		
処理番号	年度計画	主な実績		自己評価 年度 中期
	(3)-1 収蔵品の修理 ① 計画的な修理及びデータの蓄積 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4 館共通) 1) 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから 73 件程度（東京：40、京都：10、奈良：8、九州 15）の本格修理を実施する。	(3)-1 収蔵品の修理 ① 計画的な修理及びデータの蓄積		

1311-1	(東京国立博物館) 1) 引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2) 保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。（70 件程度）	【東京国立博物館】 (4 館共通) 1) 紙本などの修理技術者として保存修復課に 3 名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対応)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために 947 件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから 106 件の本格修理を実施した。うち重要文化財 1 件は寄付金による本格修理である。 (東京国立博物館) 1) 修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む 79 件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期計画策定を行った。 2) データベース構築のために 22 年度に本格修理を実施した 139 件の内、修理が完了した 114 件の修理内容についてデジタル化を実施した。東京国立博物館文化財修理報告書Ⅹを刊行した。	A	順調
1312-1		【京都国立博物館】 (4 館共通) 1) ・館費による修理に加えて、外部資金の導入を図り、財団の修理助成による助成金を 2 件得た。また、個人から当館に寄せられた文化財修復のための寄付金を有効に用いた。 ・修理請負候補者の選定にあたっては、公平性、透明性ととともに、企画競争の内容がより技術力主体の競争となるよう、企画書の内容を改訂した。 ・修理請負候補者選定の公平性、専門性を高めるため、外部委員を増やした。 実績 10 件 内訳は絵画 1 件、書跡 4 件、彫刻 1 件、漆工 2 件、染織 1 件、考古 1 件。 (京都国立博物館) 1) 引き続き文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図った。	A	順調
1313-1	(京都国立博物館) 1) 文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。	【奈良国立博物館】 (4 館共通) 1) ・館蔵品修理 11 件のうち、新規 6 件、継続事業 5 件を実施した。 内訳 絵画 3 件 (※うち国宝 紙本墨画淡彩山水図 1 件は 2 ヶ年継続事業の 2 年目。重要文化財絹本着色十王図 1 件は 3 ヶ年継続事業の 1 年目) 書跡 2 件 (※うち重要文化財 紺紙金字一字宝塔法華経 1 件は 2 ヶ年継続事業の 1 年目) 彫刻 1 件 考古資料 5 件 (※うち二塚古墳出土遺物 1 件は 3 ヶ年継続事業の 3 年目、珠城山 1 号墳出土遺物以下 3 件は 2 ヶ年継続事業の 2 年目) ・年度内に 9 件が完了した。	A	順調

1314-1	(奈良国立博物館) 1) 修理の中長期的計画を策定する。 2) 修理資料のデータベース化に備えて、継続して年度毎の修理データを蓄積する。 3) 寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。 (九州国立博物館) 1) 博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。 2) 修理資料のデータベース化の調査を実施する。	(奈良国立博物館) 1) 平成 22 年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、計画通りに館蔵品修理を実施している。 2) 前年度に引き続き、当館紀要『鹿園雑集』14 号(平成 24 年 3 月刊行)に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧(平成 22 年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理し、データベース化を進めた。 3) 寄託品 3 件について財団からの助成を受けて修理を実施した。 【九州国立博物館】 (4 館共通) 1) 館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財 32 件(本格修理 19 件、応急修理 13 件)を修理した。 (九州国立博物館) 1) 九州をはじめとする館外所蔵者負担による文化財修理 19 件のために、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。館費による修理とあわせて 51 件の修理を実施した。(施設内修理 47 件、施設外修理 4 件 合計 51 件)また、漆工修理作品の増加に伴い、漆風呂を 1 台新調した(3 台目)。 2) 修理報告書および修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。	A	順調
1311-2	② 科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4 館共通) 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光 X 線分析、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	② 科学的な技術を取り入れた修理 【東京国立博物館】 (4 館共通) 1) 絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を 1 件(B-3161 偈頌)実施し、本紙の保存に関して検討を行った。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光 X 線分析 7 件(TJ-2898 刻文匾など)、X 線透過撮影 13 件(C-20 菩薩立像、A-1459 花車図屏風など)、高精細デジタルスキャナーによる可視・赤外域の撮影 3 件(A-1069 檜図屏風、TA-363 五龍図巻など)、テラヘルツ波分析 1 件(A-1069 檜図屏風)の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。 【京都国立博物館】 (4 館共通) 1) 当館が所蔵する「紺紙銀字華嚴經断簡(二月堂焼経)」を同館文化財保存修理所の(株)光影堂において修理を行った。本紙料紙および裏打紙は楮繊維、表紙は雁皮繊維という紙繊維組成検査を踏まえて紺紙を作成し補修を行った。 2) 続いて銀文字部分に対して、顕微鏡観察、X 線透過撮影、蛍光 X 線分析を行い、本紙から脱落した銀泥の薄片に対して走査電子顕微鏡(SEM)観察と分析により、銀泥粒子の詳細を探った。修理工程は、卷子装の解装、本紙の汚れ除去、旧裏打紙及び旧補修紙の除去、本紙欠失箇所への補修、裏打(3 層)後、卷子装 1 巻に仕立てた。	A	順調
1313-2		旧裏打紙及び旧補修紙を除去した段階で、学芸部が銀字部分の科学的調査を実施した結果、文字はすべて銀で書かれており、本経を「プラチナ経」と呼ぶことはふさわしくないことがわかった。 【奈良国立博物館】 (4 館共通) 1) 館蔵紺紙金字一字宝塔法華経〈巻第三、第五〉、館蔵法華経巻第二(蝶島下絵料紙)の修理に際して料紙の繊維分析を実施し、補紙として用いる紙の仕様を決定した。 2) ・館蔵春日宮曼荼羅の修理に際し、当館光学調査室の機器を用いて肌裏に残る顔料の蛍光 X 線分析を実施した。 ・寄託品の海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼荼羅の修理に際し、ポリライトを用いて画面の蛍光画像調査を実施し、補絹の状態確認を行った。 (奈良国立博物館) 1) 当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品 2 件について、京大大学生存圏研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『鹿園雑集』第 14 号に掲載した。 2) 古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料 5 件の修理に際し、X 線撮影及び蛍光 X 線による材料分析を実施し、修理方針の決定に役立てた。	A	順調
1314-2	(奈良国立博物館) 1) 木造作品について、可能なものは木材樹種同定の調査を行い、作品の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 古墳出土の甲冑片、武器等鉄製品、木造彫刻などの X 線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	【九州国立博物館】 (4 館共通) 1) 群童遊戯図屏風、徳川家康交趾渡海朱印状等の紙本作品 9 件について繊維同定を行った。 2) ・羅漢図、奈良国立博物館所蔵諸宗祖師像の絵画 2 件について顕微鏡観察と蛍光 X 線分析、エミシオグラフィー撮影を行ない、使用された絵の具の調査を行った。 ・重要文化財亀甲地螺鈿鞍、重要文化財孔雀鎔金経箱、重要文化財菊時絵手箱の漆工品 3 件について C T 撮影を行い内部構造と損傷状況を調査した。紫外線蛍光観察も行い、修理履歴の有無を調査した。 ・重要文化財菊時絵手箱について F T - 1 R 分析およびラマン分光分析を行い、過去の修理で使用された塗料を調査した。 ・新羅古墳資料について X 線透過写真撮影を行い、損傷状況を調査した。	A	順調
1320	(3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。 (機構本部・京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) 1) 文化財保存修理所に関する規定を整備する。	(3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める 【機構本部・京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】 1) 平成 23 年 1 月の業務方法書の改正に伴い、これまで明確な位置づけが図られていなかった文化財保存修理所(京都国立博物館、奈良国立博物館)及び文化財保存修復施設(九州国立博物館)の設置に対し、本部規程第 81 号「独立行政法人国立文化財機構文化財保存修理所等の供用及び運営に関する規程」において修理所等の供用及び運営に関する規程を制定し、平成 23 年 4 月 1 日より施行した。	A	順調

1330	(3)-3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。	(3)-3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。 【東京・京都・奈良・九州国立博物館】 (東京国立博物館) 東洋館の収蔵庫改修工事の完了に伴い、本館地下収蔵庫等に収納していた東洋関係の文化財を、東洋館の収蔵庫に移動した。これを受けて、絵画・漆工等の文化財をより効率的に収納できるよう収蔵庫の配分を再検討し、新規収納棚等を設置した。新絵画収蔵庫には、屏風を効率良く収納できる専用棚を設計・発注した。東洋館の収蔵庫については、効率的な収納および安全確保のため、ストッパー付き可動棚を設置し、落下防止柵の設置を検討した。 (京都国立博物館) ・収蔵品の増加に伴い、東収蔵庫に保管される作品の一部を移動整理し、より効率的な収納を図った。 (奈良国立博物館) ・増加し続ける研究用図書を収納すべく書架の増設・再配置を行った。 ・収蔵庫等の温湿度環境の測定を実施し、改善・処置を行った(収蔵庫内空調設備の改修)。 ・デジタルカメラ等撮影機材や画像用サーバーの更新・増強を行った。 ・一時保管庫の窓をペアガラスに変更した。 ・光学調査室内に区画を設け、収蔵スペースを確保した。 (九州国立博物館) ・九州国立博物館では、新しい収蔵スペースの確保等について検討中である。	A	順調																																																		
		<table> <tr> <th>定量評価項目</th><th>23 年度</th><th>22 年度</th><th>目標値</th><th>評価</th></tr> <tr> <td>文化財の本格修理 (件)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>東京国立博物館</td><td>106</td><td>139</td><td>40</td><td>S</td></tr> <tr> <td>京都国立博物館</td><td>10</td><td>9</td><td>10</td><td>A</td></tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td><td>11</td><td>9</td><td>8</td><td>A</td></tr> <tr> <td>九州国立博物館</td><td>19</td><td>19</td><td>15</td><td>A</td></tr> <tr> <td>文化財修理のデータベース化 (件)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>東京国立博物館</td><td>114</td><td>98</td><td>70 程度</td><td>S</td></tr> <tr> <td>京都国立博物館</td><td>118</td><td>106</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td><td>54</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	定量評価項目	23 年度	22 年度	目標値	評価	文化財の本格修理 (件)					東京国立博物館	106	139	40	S	京都国立博物館	10	9	10	A	奈良国立博物館	11	9	8	A	九州国立博物館	19	19	15	A	文化財修理のデータベース化 (件)					東京国立博物館	114	98	70 程度	S	京都国立博物館	118	106	—	—	奈良国立博物館	54	—	—	—		
定量評価項目	23 年度	22 年度	目標値	評価																																																		
文化財の本格修理 (件)																																																						
東京国立博物館	106	139	40	S																																																		
京都国立博物館	10	9	10	A																																																		
奈良国立博物館	11	9	8	A																																																		
九州国立博物館	19	19	15	A																																																		
文化財修理のデータベース化 (件)																																																						
東京国立博物館	114	98	70 程度	S																																																		
京都国立博物館	118	106	—	—																																																		
奈良国立博物館	54	—	—	—																																																		

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1) 展示の充実

【中期目標】 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。 (1) 展覧事業の充実 我が国の中核的拠点として、展覧事業については常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるように努めること。 ①展覧事業の中核である平常展は、歴史・伝統文化についての理解に資するよう、体系的・通史的な展示に努めるとともに、各館の収蔵品を法人全体として有効活用した魅力ある展示を行うこと。また、より多くの方々に我が国の歴史・文化財の理解を深めてもらうため、来館者の増加に努めること。さらに海外からの来訪者が必ず訪れる博物館を目指し、魅力ある展示と展示に関する説明を一層充実させること。 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこと。また、展示方法、解説などについて機構の人的資源を最大限に生かした魅力あるものを提供すること。また、展示内容・展覧環境を踏まえた適切な来館者数の確保に努めること。 ③海外に向けても機構の各博物館の収蔵する日本の優れた文化財と優れた人材を活用して、我が国の歴史と伝統文化を紹介する機会の拡充に努めること。	
【中期計画】 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。 (1) 展覧事業の充実 我が国の中核的拠点として、展覧事業については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとする。 また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。 ①-1 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市・京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成 26 年度までに開催する。 ①-2 展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を 80%以上設置する。 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度	【主な計画上の評価指標】 ○国民のニーズや学術的動向等を踏まえた質の高いものとする。 ○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること。 (平常展) ○平常展事業の中核として、各館の特色を十分に発揮した体系的・通史的な展示とすること。 ○作品のキャプションについては、すべてに英語訳を付すこと。 ○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を 80%以上設置すること。 (特別展) ○我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示とすること。 ○各館ごとに以下の回数程度の特別展を実施すること。 東京国立博物館 3～4 回 京都国立博物館 奈良国立博物館 九州国立博物館 2～3 回 ○個々の展覧会ごとに、展示内容・観覧環境を踏まえた目標来館者数を定め、それを達成すること。 ○展覧会来館者の満足度を把握し、改善を図ること。 ○海外において展覧会を開催し、日本の歴史と伝統文化を紹介すること。 【22 年度評価における主な指摘事項】 ○集客などの経営努力は必要であるが、展示の充実に来館者数では判断できない。むしろ日本文化の向上、教育普及等の博物館の使命達成のために構築された展示内容も評価すべきである。

(京都国立博物館) 年2～3回程度 (奈良国立博物館) 年2～3回程度 (九州国立博物館) 年2～3回程度 ③海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。				
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
2111-1	(1)展覧事業の充実 東京、京都、奈良、九州4館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも国立博物館を訪れたいくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。 ①ー1 平常展 展覧事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分發揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。 (4館共通) 平常展来館者数について、22年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 (東京国立博物館) ア 定期的な陳列替の実施(年4,000件程度) イ 陳列総件数 約5,500件(東洋館閉館のため) ウ 本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。 エ 平成24年度の東洋館開館に向け準備を進める。 オ 特集陳列 平成23年度は東洋館が改修工事のため通年休館となり、特集陳列を実施する展示場が減少するため特集陳列の数は例年より減らざるをえない。東洋館展示の代替として、本館においても東洋美術・考古の特集展示を実施する。	(1)展覧事業の充実 ①ー1 平常展 【東京国立博物館】 (4館共通) 東日本大震災の後、安全確認のため4月中は開館時間を10:00～16:00とし、表慶館、法隆寺宝物館及び黒田記念館を休館した。また、夏季の節電のため6月30日～10月8日は、黒田記念館を休館した。 (東京国立博物館) ア 計画に従い、定期的な陳列替を実施した(4,914件)。 イ 陳列総件数(7,394件)。 ウ 展示ケースの修理点検、保存環境の向上を図った。季節のイベントの際に見どころとなる作品について、表示方法を統一し、展示をより整美なものとした。また、解説パネルへのデジタルサイネージの導入、解説を補う手段としてのデジタル展示ケースなど、新たな表現手段を試行した。 エ 東洋館展示検討ワーキンググループにおいて、展示の構成、展示台等の設計を進める一方、教育普及事業の基本方針についても討議し、「アジアの旅」をコンセプトとする基本方針を打ち出した。 オ 32件の特集陳列を実施した。	A	順調

2112-1	・和鏡-鏡に表された文様の雅(4月26日～7月10日) ・日本の仮面(12月6日～2月5日) ・「博物館に初もうで」(平成24年1月2日～1月29日)等 カ 文化庁関係企画 ・「平成23年 新指定 重要文化財」(仮称)(4月26日～5月8日) 平成23年に新たに重要文化財に指定される文化財を展示する。	カ 「平成23年 新指定 重要文化財」を実施した(4月26日～5月8日)。	A	順調
	(京都国立博物館) 平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止する。これに替えて、静岡県立美術館にて「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜-祈りと風景」を開催(特別協力、10月22日～12月4日)するとともに、細見美術館にて当館所蔵品による特別展「宮廷のオートクチュール」を開催する。(特別協力、10月1日～11月27日)また、博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進め、ウェブサイトで情報を公開する。	・東洋館は改修工事のため通年休館した。東洋美術・考古の代替展示を行っていた表慶館は、東洋館リニューアル準備に伴う物品移動のため23年12月26日より休館し、日本美術を展示する本館の一部にて引き続き、東洋美術・考古の特集展示を随時実施した。 【京都国立博物館】 平常展示館建替工事にともない、平常展示を休止した。 そのため次のように、館外での収蔵品の公開に努めるとともに、貸出作品の情報をHPで公開した。 ・「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜-祈りと風景」(静岡県立美術館、10月22日～12月4日)への特別協力(詳細は処理番号2122-5を参照。) ・「典雅なる御装束-宮廷のオートクチュール」(細見美術館、10月1日～11月27日)への特別協力(詳細は処理番号2122-6を参照。) ・国内外の博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。		
	2113-1-1 (奈良国立博物館) ア 活発な収集と新しい資料の発掘により名品展(平常展)の充実を図る。 ・西新館 考古・絵画・書跡・工芸部門の名品展 昨年度の耐震工事に伴い、展示ケースや照明等の設備を一新したところであり、この充実した設備を最大限活用し、より快適な鑑賞環境を提供する。 ・なら仏像館(1～13室) 彫刻部門の名品展 昨年度実施した照明設備工事により、より魅力ある展示が行える空間となったことを活かし、奈良を中心に伝来した優れた仏像等彫刻の美をアピールしていく。 ・青銅器館(中国青銅器の名品展) 昨年度実施したリニューアル工事の成果を活かし、国内における屈指の青銅器コレクションの魅力をアピールしていく。 ・特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する。	【奈良国立博物館】 (4館共通) 平常展来館者数は、今年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均を上回った。 (奈良国立博物館) ア 新装となった展示室の快適な展示環境のもとで、多数の優れた作品を名品展において展示し、その美を伝えることができた(西新館、なら仏像館、青銅器館)。 また、最近5年間の新規収蔵品を紹介する「新収蔵品展」を試みるとともに、小テーマを設けての特集展示を下記のとおり4度にわたって実施した(西新館)。「新収蔵品展」(9月13日～10月2日) 陳列件数27件 特集展示「新たに修理された文化財」(12月6日～12月25日) 陳列件数14件 〃 「龍」(12月27日～平成24年1月15日) 陳列件数18件 〃 「経典を写す・刻む・飾る」(平成24年1月24日～2月19日) 陳列件数12件 〃 「東北の古瓦-泉官衙遺跡を中心に-」(平成24年2月28日～3月18日) 陳列件数6件 所蔵者である寺院において仏堂の改修、建て替え等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、以下のようにこれを特別公開した(なら仏像館)。 特別公開「海住山寺本尊 十一面観音像」(4月26日～9月11日)	A	順調

2121-2	イ 「手塚治虫のブグダ展」(4月26日～6月26日) 手塚治の漫画「ブグダ」のオリジナル原画とともに、仏陀にかかわる文化財によって仏伝を紹介。 (目標入場者数7万人)	・輸送協力 日本航空 ・作品件数 286件(うち重要文化財：22件、重要美術品：19件) ・来館者数 229,625人 ・入場料金 一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)、中学生以下無料 *()内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 80% 写案の現存遺品を可能な限り集成して展示できたことで、写案の歴史的な意義及びその表現の特質などを明らかにすることができた。 イ 「手塚治虫のブグダ展」 ・会 期 平成23年4月26日(火)～6月26日(日)(57日間) ・会 場 本館特別5室 ・主 催 東京国立博物館、東映、TBS ・協 力 手塚プロダクション、日本通運、財団法人全日本仏教会、ニトリ、カラーキネティクス・ジャパン ・後 援 文化庁、読売新聞社 ・作品件数 72件(うち重要文化財：6件) ・来館者数 99,088人 ・入場料金 一般800円(700円)、大学生600円(500円)、高校生400円(300円) 中学生以下無料 *()内は前売りおよび20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 63% 手塚治虫の漫画「ブグダ」のオリジナル原画とともに、仏陀にかかわる文化財によって仏伝を展観した。当館でははじめての試みである漫画をわかりやすく展示することで、幅広い年齢層に対し、文化財への一層の関心を高めることができた。	A	順調
2121-3	ウ 「空海と密教美術」展(7月20日～9月25日) 空海が広めた密教文化について、空海と同時代の文化財の特色等を広く一般に紹介。 (目標来館者数2.4万人)	ウ 「空海と密教美術」展 ・会 期 平成23年7月20日(水)～9月25日(日)(61日間) ・会 場 平成館特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション ・特別協力 総本山仁和寺、総本山醍醐寺、総本山金剛峯寺、総本山教王護国寺(東寺)、総本山善通寺、遺迹本山神護寺 ・協 力 真言宗各派総大本山会、南海電気鉄道 ・協 賛 あいおいニッセイ同和損保、きんでん、大日本印刷、トヨタ自動車、非破壊検査 ・作品件数 99件(うち国宝：52件、重要文化財：46件) ・来館者数 550,399人 ・入場料金 一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)、中学生以下無料 *()内は前売り／20名以上の団体料金	A	順調

2121-4	エ 開館5周年記念特別展「加賀前田家と金春流」(10月1日～11月20日) 会場：金沢能楽美術館 東京国立博物館所蔵の金春座に伝来した能面と能装束を紹介。	・アンケート結果 満足度 77% 空海が広めた密教文化について、真言各派に残る空海ないし同時代の文化財を展観し、さらに仏像曼荼羅を構成する東寺講堂の諸仏を展示したことなど、真言密教の造形を広く一般に紹介することができた。 エ 開館5周年記念特別展「東京国立博物館所蔵 金春座伝来 能面・能装束」 ・展覧会名 金沢能楽美術館 開館5周年記念特別展「東京国立博物館所蔵 金春座伝来 能面・能装束」 ・会 期 平成23年10月1日(土)～11月20日(日)(43日間) ・会 場 金沢能楽美術館2階展示室 ・主 催 東京国立博物館、金沢能楽美術館〔(公財)金沢芸術創造財団〕 ・作品件数 46件(うち重要文化財：16件) ・来館者数 8,206人 ・入場料金 一般・大学生300円 65歳以上200円 高校生以下無料 団体(20名以上)250円 当館が所蔵する金春座伝来の能面や能装束などをまとめて紹介したことにより、加賀藩の能の原点である金春流の能を改めて見つめ直す貴重な機会となった。	A	順調
2121-5	オ 法然上人800回忌・親鸞上人750回忌 特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」(10月25日～12月4日) 浄土宗・浄土真宗の開祖にちなむ歴代の寺宝を一堂に集めて展観。 (目標来館者数10.8万人)	オ 法然上人800回忌・親鸞上人750回忌 特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」 ・会 期 平成23年10月25日(火)～12月4日(日)(36日間) ・会 場 平成館特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社 ・後 援 文化庁 ・協 賛 トヨタ自動車、日本写真印刷、三井住友海上火災保険 ・特別協力 知恩院、増上寺、金戒光明寺、知恩寺、清浄華院、善導寺、光明寺(鎌倉市)、善光寺大本願、光明寺(長岡京市)、禪林寺、誓願寺、遊行寺、西本願寺、京都 東本願寺、専修寺、佛光寺、興正寺、錦織寺、毫摂寺、誠照寺、専照寺、證誠寺 ・作品件数 189件(うち国宝：11件、重要文化財：83件) ・来館者数 212,150人 ・入場料金 一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料 *()内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 68% 鎌倉仏教を代表する二つの宗派の宗祖となった法然と親鸞ゆかりの名宝を一堂に集め展示したことで、浄土教の二大宗祖である二人の考え方や人物像について、理解をより深めることができた。	A	順調

2121-6	カ 北京故宫博物院精華展（仮称）（平成 24 年 1 月 7 日～2 月 19 日（予定）） 北京故宫博物院が所蔵する書画、工芸品等の優品を展示。 （目標来館者数 1 5、2 万人）	カ 日中国交正常化 40 周年 東京国立博物館 140 周年 特別展「北京故宫博物院 200 選」 ・会 期 平成 24 年 1 月 2 日（月・休）～2 月 19 日（日）（43 日間） ・会 場 平成館特別展示室第 1～4 室 ・主 催 東京国立博物館、故宫博物院、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション ・特別協力 毎日新聞社 ・後 援 外務省、中国大使館 ・協 賛 三井物産、凸版印刷、あいおいニッセイ同和損害保険、華為技術日本（ファーウェイ・ジャパン）、竹中工務店 ・協 力 全日本空輸、東京中国文化センター ・作品件数 200 件（うち一級文物 90 件） ・来館者数 258,252 人 ・入場料金 一般 1,500 円（1,300 円／1,200 円）、大学生 1,200 円（1,000 円／900 円）、高校生 900 円（700 円／600 円） 中学生以下無料 ＊（ ）内は前売り／20 名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 60％	A	順調
2121-7		キ （年度計画外に実施） 特別展「孫文と梅屋庄吉—100 年前の中国と日本」 ・会 期 平成 23 年 7 月 26 日（火）～9 月 4 日（日）（37 日間） ・会 場 本館特別 5 室 ・主 催 東京国立博物館、毎日新聞社 ・後 援 外務省、中国大使館 ・特別協力 小坂文乃、長崎県、長崎大学附属図書館 ・協 力 日本中華總商会、日本通運、東京スタジオ、日比谷松本楼 ・協 賛 全日本空輸、リンガーハット、小西国際交流財団 ・作品件数 249 件（うち重要文化財：24 件） ・来館者数 28,780 人 ・入場料金 一般 800 円（700 円）、大学生 600 円（500 円）、高校生 400 円（300 円） 中学生以下無料 ＊（ ）内は前売りおよび 20 名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 52％ 一般にはほとんど目に触れることがなかった貴重な資料によって、孫文と梅屋庄吉とともに激動の時代における中国や日本の様相を充分に示すことができた。	A	順調
2122-1	（京都国立博物館） 目標入場者数 2 0 万人 ア 特別展覧会「法然上人 8 0 0 回忌 法然—生涯と美術—」 （3 月 26 日～5 月 8 日） （目標来館者数 5 万人）	【京都国立博物館】 ア 特別展覧会「法然上人 8 0 0 回忌 法然—生涯と美術—」 ・会 期 平成 23 年 3 月 26 日（土）～5 月 8 日（日）（39 日間） ・会 場 特別展示館（旧本館）全室	S	順調

	法然の生涯と思想、法然をめぐる人々の事跡を、遺された多くの文化財によって展望する。 ○目標来館者数 の合計 1 4 万人	・主 催 京都国立博物館、NHK 京都放送局、NHK ブラネット近畿、京都新聞社 ・陳列件数 120 件（うち国宝 29 件、重要文化財 58 件） ・来館者数 92,929 人（23 年度 84,682 人）（目標 50,000 人） ・入場料金 一般 1,400 円、大高生 900 円、中小生 500 円 ・アンケート結果 満足度 89％ 法然上人八百回忌を記念して、鎌倉新仏教の嚆矢となった法然の事績を中心にその直弟子の活動をあわせて紹介した初めての大型展覧会。法然の遺品が極めて限られていることから、従来、単独テーマでの大規模展開催が困難であったが、当館の独自調査と浄土宗十二本山による浄宗会の全面的協力により、開催が可能となった。開催直前に東日本大震災が発生し集客では苦戦を余儀なくされたが、時局に即した宗教的テーマであったこともあり、来館者の関心も高く、目標来館者数を達成することができた。		
2122-2	イ 特別展観「百獣の楽園 —美術にすむ動物たち—」（7 月 16 日～8 月 28 日） （目標来館者数 2 万人） 当館の収蔵品の中から、制作年代や書画・彫刻・工芸といった表現の違いを越えて、日本で愛されてきた動物たちの姿をいきいきと展観する。	イ 特別展観「百獣の楽園 —美術にすむ動物たち—」 ・会 期 平成 23 年 7 月 16 日（土）～8 月 28 日（日）（38 日間） ・会 場 特別展示館（旧本館）全室 ・主 催 京都国立博物館 ・共 催 京都新聞社、NHK 京都放送局 ・協 力 京都市動物園 ・陳列件数 117 件（うち国宝 3 件、重要文化財 25 件） ・来館者数 35,259 人（目標 20,000 人） ・入場料金 一般 1,000 円、大高生 700 円、中小生無料 ・アンケート結果 満足度 93％ 当館の 12,000 件を超える収蔵品の中から、動物を扱った作品を選びすぐった初の動物特集。平常展示館の建て替え工事の合間に出番の減った作品を活用することができ、日ごろ美術になじみのない人々にも親しみやすい展示となった。また、京都市動物園の協力を得て、自然科学の視点を加味して収蔵品を見直す機会ともなった。	S	順調
2122-3	ウ 特別展覧会「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション—」（10 月 8 日～11 月 23 日） （目標来館者数 5 万人） 旧熊本藩主であった細川家の宝物を厳選し展観する。	ウ 特別展覧会「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション—」 ・会 期 平成 23 年 10 月 8 日（土）～11 月 23 日（水・祝）（40 日間） ・会 場 特別展示館（旧本館）全室 ・主 催 京都国立博物館、永青文庫、NHK 京都放送局、NHK ブラネット近畿、朝日新聞社 ・陳列件数 244 件（うち国宝 8 件、重要文化財 28 件） ・来館者数 106,536 人（目標 50,000 人） ・入場料金 一般 1,400 円、大高生 900 円、中小生 500 円 ・アンケート結果 満足度 91％ 旧熊本藩主である細川家のコレクションを収集展示する永青文庫（東京・目白台）の創立 60 周年を契機として、東京、京都、九州の 3 国立博物館で開催された大規模巡回	S	順調

2122-4	エ 特別展覧会「中国近代絵画と日本」(平成 24 年 1 月 7 日～2 月 26 日) (目標来館者数 2 万人) 中国の近代を中心に活躍した呉昌碩、齊白石、高剣父、徐悲鴻等の絵画作品を展示し、近代における日中文化交流の一面を展観する。	展。細川家の歴史にとどまらず、戦国武将たちの美に対する高い意識にも焦点をあてた展覧会で、ひいては茶の湯、能・狂言といった日本文化を代表する美の世界を広く紹介する機会となった。 エ 特別展覧会「中国近代絵画と日本」 ・会 期 平成 24 年 1 月 7 日(土)～2 月 26 日(日) (44 日間) ・会 場 特別展示館 全室 ・主 催 京都国立博物館 ・陳列件数 226 件(うち海外借用分は 34 件) ・来館者数 13,286 人(目標 20,000 人) ・アンケート結果 満足度 94% 当館が近年受贈した須磨コレクションを核にした自主企画展。須磨コレクションは中国近代絵画の優品を数多く含んでおり、これまでほとんど紹介されることがなかった中国近代絵画の全体像と提示するとともに、その形成過程に隣国の日本が深く関与していたことを示した。来館者数は目標値を下回ったものの、歴史的評価がいまだ困難な近代の日中文化史に脚光をあてるまたとない機会となり、また、日本の近代美術研究などにも新たなアプローチをもたらす展覧会としても国内外の研究者の注目を集めた。 オ 「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」 ・展覧会名 京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景 ・会 期 平成 23 年 10 月 22 日(土)～12 月 4 日(日) (39 日間) ・会 場 静岡県立美術館 ・主 催 静岡県立美術館、静岡第一テレビ ・特別協力 京都国立博物館 ・陳列品総件数 66 件(うち国宝 6 件、重要文化財 22 件、重要美術品 5 件) ・来館者数 24,070 人 ・入場料金 一般 1,100 円、高・大学生・70 歳以上 500 円、中学生以下無料 「祈りと風景」をテーマとして、当館収蔵品の絵画・書跡・彫刻・金工・陶磁・漆工・染織・考古の各分野から選りすぐりの優品を出品した。仏教美術の至宝や、珠玉の工芸品、山水画の名品などを通して、日本・東洋の人々が風景へ寄せた思いと、自然との交わりの中で育んできた心性を探る展覧会。「山水・風景画」を収蔵展示の核としてきた静岡県立美術館と協力し、作品の質・企画内容ともに充実した展示を、静岡市を中心とする東海地方の方々にご覧頂く機会となった。	A	順調
2122-5		カ 「京都国立博物館所蔵 典雅なる御装束 - 一宮廷のオートクチュール」 ・展覧会名 京都国立博物館所蔵 典雅なる御装束 - 一宮廷のオートクチュール ・会 期 平成 23 年 10 月 1 日(土)～11 月 27 日(日) (50 日間) ・会 場 細見美術館 ・主 催 細見美術館、京都新聞社	A	順調
2122-6			A	順調

2123-1	(奈良国立博物館) ○目標来館者数 の合計 2 8 万人 ア 「誕生！中国文明」(4 月 5 日～5 月 29 日) 中国・河南省の全土から名品を選定し、中国文化の真髄に迫る。 (目標来館者数 5 万人)	・特別協力 京都国立博物館 ・協 力 HOSOO KYOTO ・後 援 第 26 回国民文化祭京都府実行委員会 ・陳列品総件数 34 件(京都国立博物館所蔵品 31 件、細見美術館所蔵品 3 件) (重要美術品 1 件を含む) ・来館者数 12,023 人 ・入場料金 一般 1,000 円、学生 800 円 現在も宮中の儀式に用いられている束帯・五衣唐衣裳(十二単)などの伝統装束を展示することにより、千年以上もの歴史に培われた、日本人の染織技術の粋と美意識を紹介した。平成23年は京都において国民文化祭が開催されたため、日本の染織工芸文化の中心であった京都で生まれ、今日の伝統産業ともなっている「きもの」に焦点を当てた展覧会が様々な博物館で開催された。本展もその一環を構成する。これらの展覧会を機に、固有の伝統文化への認識が新たにされ、創造の源泉となって、文化・産業がさらに活性化されることが期待される。 【奈良国立博物館】 ア 「誕生！中国文明」 ・会 期 平成 23 年 4 月 5 日(火)～5 月 29 日(日) (49 日間) ・会 場 奈良国立博物館東新館・西新館 ・主 催 奈良国立博物館、読売新聞社、中国河南省文物局 ・企画協力 大広 ・後 援 中国大使館 ・協 賛 清水建設、光村印刷、トヨタ自動車、関西電力、大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム、丸一鋼管 ・協 力 日本航空、日本貨物航空 ・陳列品総数 147 件 ・来館者数 35,679 人 ・観覧料金 一般 1,400 円 高校・大学生 1,000 円 小・中学生 500 円 ・アンケート結果 満足度 87% イ 「天竺へ～三蔵法師 3 万キロの旅」 ・会 期 平成 23 年 7 月 16 日(土)～8 月 28 日(日) (39 日間) ・会 場 奈良国立博物館 東・西新館 ・主 催 奈良国立博物館 朝日新聞社 ・陳列品総数 55 件 (国宝 4 件、重要文化財 14 件) ・来館者数 63,364 人 ・観覧料金 一般 1,200 円 高・大生 800 円 小・中学生 500 円 ・図録販売数 5,284 冊 (購入率 8.38%)	A	順調
2123-2	イ 「天竺へ～三蔵法師 3 万キロの旅」(7 月 16 日～8 月 28 日) 高僧伝絵巻の傑作・国宝 玄奘三蔵絵を初めて全巻同時公開。 (目標来館者数 5 万人)		A	順調

2123-3	ウ 「第63回正倉院展」(予定) 正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。 (目標来館者数 18万人)	・音声ガイド貸出件数 6,566台(貸出率10.36%) ・アンケート結果 満足度80% ウ 「第63回正倉院展」 ・会 期 平成23年10月29日(土)～11月14日(月) (17日間) ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館 ・主 催 奈良国立博物館 ・特別協力 読売新聞社 ・協 賛 NTT西日本、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、帝塚山学園・帝塚山大学、白鶴酒造 ・協 力 NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、財団法人仏教美術協会、ミネルヴァ書房 ・出陳宝物数 62件 ・来館者数 239,581人 ・観覧料金 一般1,000円、高大生700円、小中生400円 ・アンケート結果 満足度73%	A	順調
2124-1	(九州国立博物館) ○目標来館者数 の合計 20万人 ア 「黄檗—OBAKU」(3月15日～5月22日) 江戸時代に我が国に伝わった黄檗宗の美術を紹介 (目標来館者数 3万人)	【九州国立博物館】 ア 「黄檗—OBAKU」 ・展覧会名 「黄檗—OBAKU」 ・会 期 平成23年3月15日(火)～5月22日(日) (61日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、黄檗宗大本山萬福寺、西日本新聞社、TVQ九州放送 ・陳列品総件数 142件(国宝0件、重要文化財14件) ・来館者数 55,539人(23年度46,530人)(目標来館者数 30,000人) ・入場料金 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 満足度 88% ※江戸時代の日本にとって、黄檗は斬新な文化として迎えられた。本展では、彫刻作品を主体的に扱うことで、江戸時代の人々が抱いたであろう異文化接触の際の驚きと興奮を、会場内で再現することに成功した。	S	達成
2124-2	イ 「よみがえる国宝」(6月28日～8月28日) 日本の文化財保存、修理の歴史を辿り、日本人の美意識や価値観を紹介。 (目標来館者数 4万人)	イ 「よみがえる国宝—守り伝える日本の美」 ・展覧会名 「よみがえる国宝—守り伝える日本の美」 ・会 期 平成23年6月28日(火)～8月28日(日) (54日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、NHK福岡放送局、NHKブラネット九州 ・陳列品総件数 77件(国宝11件、重要文化財18件)	S	順調

2124-3	ウ 「大契丹展」(9月27日～11月27日) 中国・契丹の文化と美術を中国内蒙古自治区出土文物を通じて紹介。(目標来館者数 6万人)	・来館者数 118,528人(目標来館者数 40,000人) ・入場料金 一般 1,300円、高大生 1,000円、小中生 600円 ・アンケート結果 満足度 83% ウ 「草原の王朝 契丹—美しき3人のプリンセス」 ・展覧会名 「草原の王朝 契丹—美しき3人のプリンセス」 ・会 期 平成23年9月27日(火)～11月27日(日) (54日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、RKB毎日放送、内蒙古博物院 ・陳列品総件数 125件(中国・一級文物45件) ・来館者数 75,880人(目標来館者数 60,000人) ・入場料金 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 満足度 90%	A	順調
2124-4	エ 「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション」(平成24年1月1日～3月4日) 熊本・細川家に伝来、収蔵される文化財の中から代表的な優品を一堂に展観。 (目標来館者数 7万人)	エ 「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション」 ・展覧会名 「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション」 ・会 期 平成24年1月1日(日)～3月4日(日)(56日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、財団法人永青文庫、NHK福岡放送局、NHKブラネット九州、西日本新聞社 ・陳列品総件数 232件(国宝8件、重要文化財25件、重要美術品18件) ・来館者数 113,290人(目標来館者数 70,000人) ・入場料金 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 満足度 83%	A	順調
2134	③ 海外展 (東京国立博物館) 1) 海外展「仏教美術と宮廷の美」会場：ヒューストン美術館(アメリカ) 東京国立博物館所蔵の日本美術の優品を精選し展示。 (九州国立博物館) 1) 韓国において文化庁との共催により海外展を開催する予定。	③ 海外展 【東京国立博物館】 平成24年2月19日～4月8日の会期で開催のため、平成24年度事業として評価を行う。 【九州国立博物館】 ・展覧会名：文化庁海外展「日本 仏教美術—琵琶湖周辺の仏教信仰」 ・会 期：平成23年12月20日(火)～24年2月19日(日) (51日間) ・会 場：韓国国立中央博物館 ・主 催：九州国立博物館・福岡県、文化庁、滋賀県、韓国国立中央博物館 ・陳列品総件数：59件(国宝4件、重要文化財31件) ・来館者数：52,316人 ・入場料金：無料	S	順調

定量評価		23 年度	22 年度	目標値	評定
【平常展】平常展来館者数(人)					
東京国立博物館(23 年度より黒田記念館を含む)		324,597	373,068	362,470	B
京都国立博物館		—	—	—	—
奈良国立博物館		130,839	71,566	118,032	A
九州国立博物館		358,366	274,545	380,690	B
【平常展】陳列替件数(件)(23 年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更)					
東京国立博物館		4,914	290	4,000	A
京都国立博物館		—	—	—	—
奈良国立博物館		481	101	400	A
九州国立博物館		1,373	334	1,100	A
【平常展】陳列総件数(件)					
東京国立博物館		7,394	5,610	5,500	A
京都国立博物館		—	—	—	—
奈良国立博物館		1,092	340	700	S
九州国立博物館		2,417	1,668	1,700	A
【平常展】外国語パネルの設置(%)					
東京国立博物館		96%	96%	80%	A
京都国立博物館		—	—	—	—
奈良国立博物館		89%	84%	80%	A
九州国立博物館		94%	83%	80%	A
【特別展】開催回数(回)					
東京国立博物館		7	10	3~4	S
京都国立博物館		6	5	2~3	S
奈良国立博物館		3	4	2~3	A
九州国立博物館		5	5	2~3	S
【特別展】入館者数(人)					
東京国立博物館		1,349,514	—	730,000	S
①「写楽」		229,625	—	160,000	A
②「手塚治虫のブンダ展」		99,088	—	70,000	A
③「空海と密教美術」		550,399	—	240,000	S
④開館 5 周年記念特別展「東京国立博物館所蔵 金春座 伝来 能面・能装束」(会場：金沢能楽美術館)		(8,206)	—	—	—
⑤法然上人 800 回忌・親鸞上人 750 回忌 特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」		212,150	—	108,000	S
⑥日中国交正常化 40 周年 東京国立博物館 140 周年 特		258,252	—	152,000	S

別展「北京故宫博物院 200 選」					
⑦「孫文と梅屋庄吉—100 年前の中国と日本」		(28,780)	—	(20,350)	A
京都国立博物館		248,010	—	140,000	S
①特別展覧会「法然上人 800 回忌 法然—生涯と美術—」		92,929	—	50,000	S
②特別展覧会「百獣の楽園 —美術にすむ動物たち—」		35,259	—	20,000	S
③特別展覧会「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション—」		106,536	—	50,000	S
④特別展覧会「中国近代絵画と日本」		13,286	—	20,000	C
⑤京都国立博物館名品展京都千年の美系譜・祈りと風景(会場：静岡県立美術館)		(24,070)	—	—	—
⑥京都国立博物館所蔵 典雅なる御装束 —宮廷のオートクチュール(細見美術館)		(12,023)	—	—	—
奈良国立博物館		338,624	—	280,000	A
①「誕生!中国文明」		35,679	—	50,000	B
②「天竺へ—三蔵法師 3 万キロの旅」		63,364	—	50,000	A
③「第 63 回正倉院展」		239,581	—	180,000	A
九州国立博物館		363,237	—	200,000	S
①「黄檗—OBaku」		55,539	—	30,000	S
②「よみがえる国宝—守り伝える日本の美」		118,528	—	40,000	S
③「草原の王朝 契丹 美しき 3 人のプリンセス」		75,880	—	60,000	A
④「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション」		113,290	—	70,000	S
⑤文化庁海外展「日本 仏教美術—琵琶湖周辺の仏教信仰」		(52,316)	—	—	—

(2) 教育活動の充実

【中期目標】 日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、子どもから成人まで、対象に応じた多彩な学習機会の提供を実施し、ボランティアを育成し、教育活動の充実に努めるとともに、次代の博物館事業を担う人材育成に寄与すること。	
【中期計画】 (2) 教育活動の充実 日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。 ① 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。 ② 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や	【主な計画上の評価指標】 ○講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の目標参加者数を達成すること。 ○ボランティアを支援すること。 ○企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること。 ○大学との連携事業等を実施すること。 【22 年度評価における主な指摘事項】

友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。		○講座やギャラリートーク等は、来館者を育てるための必須の活動であり、今後も一層の充実が望まれることから、今一度テーマや内容について、様々な可能性を検討すべきである。		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
2211-1	(2)教育活動の充実 日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。 ① 学習機会の提供 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。	(2)教育活動の充実 ① 学習機会の提供 【東京国立博物館】 (4館共通) 1)国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数37校、団体利用を含み10,157名の学生にご利用いただいた。 (東京国立博物館) 1)総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画実施を通じ、伝統文化の理解促進に寄与し、伝統文化への興味関心をより高めることができた。震災の影響による23年3月12日～3月28日の臨時閉館に伴い、「博物館でお花見を」の開催は23年3月29日～4月17日となった。会期中「花見で一句」には161の投句があり、12名が入選。また、23年4月2日に予定されていた桜セミナーを中止した。	A	順調
	(東京国立博物館) 1) 日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事业を実施する。本館20室を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。 ○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー 博物館できもだめし」(7月20日～8月28日) ○体験型プログラムの実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー 博物館できもだめし」など、総合文化展(平常展)に関連した一般向け及びファミリー向けのワークショップやアクティビティを実施する。 ・本館20室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。 ・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。 ○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」(3月23日～4月17日)の実施 2) 学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム(鑑賞支援・体験型プログラム等)を継続して実施する(小・中・高校生対象)。			

2211-2	・就業体験の受け入れを継続して行う(小・中・高校生対象)。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。 ・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。 3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。 (講演会等の目標) 参加者数 計7,830人(実施回数 計77回程度) ・講演会 参加者数3,500人(実施回数20回程度) ・列品解説等 参加者数4,000人(実施回数55回程度) ・連続講座 参加者数250人(実施回数1回程度) ・公開講座 参加者数80人(実施回数1回程度)	利用について検討するきっかけとなる研修を提供した。特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布も行った。 3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座を継続して実施した。 参加者数 計12,664人(実施回数 計112回) ・講演会 参加者数8,224人(実施回数32回) - うち月例講演会2,457人(13回)、記念講演会4,669人(15回)、テーマ別講演会775人(3回)、その他講演会323人(1回) ・列品解説等 参加者数3,963人(実施回数76回) ・連続講座 参加者数380人(実施回数1回) ・公開講座 参加者数97人(実施回数3回) 【京都国立博物館】 (4館共通) 1)キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(30校)した。 (京都国立博物館) 1)展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」を開催した。(13回・1,199人) 2)一般向け教育普及事業として「夏期講座(文学と美術Ⅱ)」を開催した。(7/27-29)(1回3日・193人、のべ579人) 3)京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を土曜講座と合同で開催した(1回・158人) 4)小中学生向けに展示解説を行う「少女少女博物館くらぶ」を実施した。(8/2・42人,8/5・33人) 5)展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布し、併せてメールマガジンでの配信を行った。 ・「留学生の日」(11/5)を実施した。 ・「社会科教員のための指導力向上講座」を実施した。(10/25・58人)	A	順調
2212	(京都国立博物館) 1)展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」を開催する。 2)一般向け教育普及事業として「夏期講座」を開催する。 3)京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を行う。 4)小中学生向けに展示解説を行う「少女少女博物館くらぶ」を実施する。 5)展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布する。併せてメールマガジンでの配信を行う。 (講演会等の目標) 参加者数 計2,638人(実施回数 計15回程度) ・土曜講座 参加者数1,848人(実施回数11回程度) ・夏期講座 参加者数600人(実施回数3回程度) ・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」参加者数190人(実施回数1回程度)	【京都国立博物館】 (4館共通) 1)キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は28校を維持し、大学との連携を継続した。 (奈良国立博物館) 1)小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信し、博物館だよりを送付す	A	順調
2213-1	(奈良国立博物館) 1)小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信し、博物館だよりを送付す	【奈良国立博物館】 (4館共通) 1)キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は28校を維持し、大学との連携を継続した。 (奈良国立博物館) 1)小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校222校に対してメールマガジンの配信を行っている。博	A	順調

2213-2	る。 ・奈良市内小学校5年生を中心に幼稚園児から中学3年生までを対象に世界遺産学習授業を実施する。 ・中学生の職場体験学習を受け入れる。 2) 講座等の開催 ・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。 ・特別展等に際してシンポジウム及び公開講座を開催する。 ・正倉院展に因むシンポジウムを開催する。 ・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。 ・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 ・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての啓蒙に努める。 (講演会等の目標) 参加者数 計2,450人(実施回数 計25回程度) ・特別展等講座 参加者数 1,500人(実施回数 12回程度) ・夏季講座 参加者数 350人(実施回数 1回程度) ・サンデートーク 参加者数 600人(実施回数 12回程度) 3) 奈良市教育委員会と連携して教員の研修を行う。	物館だよりの送付に関しては、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行っている。ただし、県内全体では当初契約の印刷部数が追いつかないため、発送先を厳選し対応している。 世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生34校、合計2,182名に対して実施した。 ・中学生の職場体験受入を2校6人行った。 2) 講座等の開催 ・サンデートークは毎月第3日曜日に実施しており、実績は12回、合計645人の参加があり、アンケート結果では90%の満足度が得られた。 ・公開講座は、3つの特別展および3つの特別陳列の会期中に実施した。公開講座の実施回数は、合計14回、1,660人の参加があり、平均満足度は87%を得た。その他、特別展「天竺へ〜三蔵法師3万キロの旅」に関連して「玄奘フォーラム」を1回実施した。 ・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2011 正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」と題して10月30日に実施し、4人のパネラーに基調講演をいただき討論を行った。179人の参加を得、満足度は81%であった。 ・夏季講座は、今年は第40回目を迎え、年々参加者数が増えていることに鑑み、前年の奈良女子大の講堂が手狭であったため、会場を大人数収容できる奈良県文化会館に移して500名を超える参加希望者にも対応できるよう計らった。「玄奘三蔵とシルクロード」と題し、8月24日〜26日の3日間に実施、講師は計9人、毎日522人の参加者が集まった。 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、春日大社の協力のもと、「春日大社特別ツアー」を実施し、33人の参加者を得た。特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、「お水取り」「講話」と「粥」の会」を実施し、38人の参加者を得た。 ・文化財保存修理所の一般公開は、平成24年2月15日に3回実施し、110名の参加者を得た。 ○講演会等の実績 総計28回・参加者3,006人 (特別展等講座 15回・参加者1,839人、夏季講座 1回(3日間)・参加者 522人、サンデートーク 12回、参加者 645人) 3) 奈良市教育委員会と連携した教員への研修を8月26日に行い、150人の参加者を得た。(処理番号 2213-1)	A	順調
2214-1	(九州国立博物館) 1) 博物館における体験型事業の充実を図る。 ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットの開発 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発	【九州国立博物館】 (九州国立博物館) 1) ・体験型展示室「あじっば」の運営を進め、従来からのプログラム、キットを継続して展開したほか、今年度新たに「なりきり考古学者 拓本ヴァージョン」「中国の剪纸」等の各プログラム、キットを開発し、来館者向けに展開した。 ・「いこうよ! あじっば夏祭り」やボランティアワークショップを実施し、幅広い層の来館者に体験の場を提供した。 ・アジア各国の文化の類似性や相違性についての理解を深めるため、さまざまなテーマのもと、「あじ庵」「あじぎやら」「ディスプレイ」において特集展示をおこなった。また、季節にあわせて体験資料の展示替えを随時行った。	A	順調
2214-2	2) 学校教育との連携事業を実施する。 ・職場体験(中学生)の受け入れを実施 ・ジュニア学芸員(高校生)事業の実施 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置 ・学校貸出キット「きゅうぱつく」の貸し出しの実施	(4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(大学会員制度)による大学との連携を継続して実施した。 (九州国立博物館) 2) ・12校66名の中学生の職場体験を受け入れ、博物館の機能について紹介した。 ・高校生「ジュニア学芸員」は、5校14名の参加を得て計9回の継続プログラムで実施した。 ・高等学校経験10年経過教員4名、および高等学校経験2年経過教員3名に対し、それぞれ2〜3日社会貢献研修を実施した。 ・学校貸出キット「きゅうぱつく」の貸出を引き続き行い、85件の貸出を行った。	A	順調
2214-3	3) シンポジウムを開催する。 4) 特別展記念講演会を開催する。 5) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。 6) ギャラリートークを随時実施する。 7) 文化施設等へ講師を派遣する。 8) 特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。 (講演会等の目標) 参加者数 計2,030人(実施回数計46回程度) ・特別展記念講演会 参加者数 600人(実施回数4回程度)	3) 朝鮮半島の古代国家である百済と日本について考える国際シンポジウム「百済文化と古代日本」を開催した。 4) 今年度は特別展記念講演会を7回開催した。 5) 特別展では展示内容を分かりやすく普及啓蒙するパネルを掲出し、来館者から高評価を得ている。 6) 定例のギャラリートークを43回開催し、展示だけでは伝わらない博物館活動の内容を紹介し、好評を博している。 7) 放送大学において展覧会の運営にかかる連続講座を実施、アクロス福岡にてトピック展に関連した講座を実施した。 8) 特別展・文化交流展についてのワークショップを開催し、来館者との交流を室外でも深めることができた。	A	順調

	・特別展シンポジウム 参加者数 180 人（実施回数 1 回程度） ・ミュージアムトーク 参加者数 1,200 人（実施回数 40 回程度） ・ミュージアム講座 参加者数 50 人（実施回数 1 回程度） 9) 放送大学の面接授業を実施する。	9) 放送大学の面接授業を実施した。（処理番号 2214-2）		
2221-1	②ー1 ボランティア活動の支援 （東京国立博物館） 1) 各種教育事業及びイベント等の補助活動、館内案内等の充実を図る。 2) 点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内を実施する。 3) 各種ガイドツアーを継続して実施する。 4) ボランティア自身の企画立案によるプログラムの充実を図る。 5) 東京藝術大学学生ボランティアによる活動を継続して実施する。	②ー1 ボランティア活動の支援 【東京国立博物館】 1) 館内各所での案内・みどりのライオン体験コーナー・紹介コーナーでの活動、職場体験の補助のほか、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。また、期間限定の「表慶館トラベル」の補助活動を実施。各活動実施のための研修会・解説会を実施した。 2) 通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障害者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。またボランティア全員を対象に、視覚障害者理解、聴覚障害者理解のための研修を実施した。 3) 全13の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施。また、研究員により、活動のための研修会を実施。 4) 通常の自主企画グループの活動のほかに留学生の日・ボランティアデー・博物館でお花見をなどでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーではボランティア活動PR 隊を募集し、ボランティアの企画立案によるボランティア活動紹介を実施した。 5) 総合文化展の作品解説をするギャラリートーク班 5 名と、所蔵作品の制作工程模型の作成と教育普及事業を行う制作工程模型班 1 名による活動を行った。 【京都国立博物館】 1) 収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。 2) ・京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。(8回) ・大学生・大学院生ボランティア「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリングを実施した。(16回) ・京都橘大学との教育提携に基づき、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施した。(12回) 3) 「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。 【奈良国立博物館】 1) ボランティア制度を見直すため、検討委員会を立ち上げ、月1～2回の検討会を開催した。その結果、23年度の後半に「ボランティア室」を設置し、	A	順調
2222-1	（京都国立博物館） 1) 調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。 2) 大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。 3) 「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。	【奈良国立博物館】 1) ボランティア制度を見直すため、検討委員会を立ち上げ、月1～2回の検討会を開催した。その結果、23年度の後半に「ボランティア室」を設置し、	A	順調
2223-1	（奈良国立博物館） 1) ボランティア制度をより充実させるため、その在り方について検討する。		A	順調

	2) ボランティアによる、展示解説、イベント、学習普及事業補助等の充実を図る。 3) ボランティア同士のグループ別学習の充実に努める。 4) 外国語対応のできる解説ボランティアの充実に努める。	新制度でのボランティアを公募することとした。11月より新ボランティアの公募を始め、年明けに準備室を設置、採用者の決定、研修等を行い、24年度より活動開始を目指すこととした。 2) ボランティアに対して、特別展、特別陳列の開催ごとに1～2回、当館職員、展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。また、全員にすべての展覧会図録を配布し、解説と自己鍛錬のための学習資料とした。さらに、正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、立会研修を行った後、1～2週間にわたる自主トレーニングを課して実地に臨むよう指導した。 日常的には、学芸部職員による担任制をとり、展示内容に関する質問や問題解決に対応した。 3) ボランティアの学習に関しては、班体制の中で互いに情報共有をはかり、解説における役割分担などの工夫をはかるよう指導した。 4) 外国語対応のボランティアの充実は、新体制において採用を奨励することとして、年度内は現有の職員で対応することとした。		
2224-1	（九州国立博物館） 1) ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語）、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生会の充実を図る。 2) ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。 3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。	【九州国立博物館】 1) 新規(第3期)ボランティアを受け入れ、各部会の所属人数増だけでなく、新たな発想・思いによって、従来の活動の発展・充実、そして新しい活動の創造等が行われた。 2) 「九州国立博物館ボランティア活動」の継続・発展を目的に第2期ボランティアの企画・実施による第3期ボランティアへの研修を積極的に実施した。 3) イベントやワークショップ等の実施において、主体性・自主性を尊重した取り組みを行った。	A	順調
2221-2	②ー2 博物館支援者の増加 （4館共通） 企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。 1) 「友の会」等の会員制度によるリポーターの拡大に努める。 2) 「友の会」会員を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。 5) 展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。	②ー2 博物館支援者の増加 【東京国立博物館】 （4館共通） 1) 入会時のプレゼント、イベント料金の割引を実施した。 2) 「東大寺講演会」を開催した。 3) 地域との連携、PRにより認知度向上に努めた。	A	順調

2222-2	(東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。 2) 地域、企業との連携・拡充を図る。	4) J R、地下鉄など総合文化展、特別展のポスターの掲示に協力を図るなど、 広告活動に努めた。 5) 三菱商事株式会社と共催で「障がい者内覧会」を実施した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 積極的に企業への P Rを行い、新規会員を増加させた。 2) 日本大学共催で「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催した。 【京都国立博物館】 (4館共通) 1) 「友の会」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。 2) 「友の会」会員を対象とした事業を実施した。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。 4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努めた。 5) 昨年度設置した「ミュージアム・パートナー」制度に、今年度新規に1社が 加入し、合計2社が加入している。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(4回)・見学会(5回)・会報(4回) の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。また、地域・機関との連携 事業に協力した。 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) 友の会 会員数 2,615 人(一般 2,503 人、学生 88 人、家族 24 人) 2) 会員に夏季講座の案内を送付し、優先的に受講できる配慮を行った。 3) 株式会社日本香堂と確約書を取り交わし、展覧会の P Rを行った他、体験 イベント・講演会を行った。 4) 西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会 社とタイアップし、特別展の広報を行った。 5) 他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 賛助会 29 団体 36 人 特別支援会員: 5 団体、特別会員: 5 団体、一般会員(個人): 36 人、(団 体): 19 団体 2) 観光関連業界の会合に出向き、顧客層の開拓を行った。 奈良の観光イベント「ライトアップブロードナード・なら 2011」、「なら燈 花会」、「ならファンタジー」、「音燈華 SPECIAL LIVE」、「陶燈茶夜」、「な ら瑠璃絵」に対して積極的に協力した。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 支援団体等が主催する講演会等に会場を提供した。	A	順調
2223-2	(京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。		A	順調

2224-2	(奈良国立博物館) 1) 支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。 2) 支援団体等と連携し、展覧会の充実に努める。	(奈良国立博物館) 1) 展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。 2) 特別展の実施に際して企業等からの協力金を獲得した。 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 「友の会」等の会員制度を継続して実施した。 2) 「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアーヂュ」、トピック展ちらし等の送付を行った。 3) 企業等と連携し、広報活動を行った。 4) 特別展においては、公共交通機関等とのタイアップにより広報活動を実施した。 5) 特別展「よみがえる国宝」において企業からの協賛を得た。 (九州国立博物館) 1) 支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実に努めた。	A	順調
2231	③ 大学との連携 (東京国立博物館) 1) インターンシップを継続して実施する(大学院生対象)。 2) 東京藝術大学との連携事業を継続して実施する(大学院生対象)。	③ 大学との連携 【東京国立博物館】 1) 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的として大学院生を対象にインターンシップを募集、8大学20名の学生を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の8部署で10～30日の活動を行った。 2) 東京藝術大学の学生ボランティアを募集し、ギャラリートーク班5名、制作工程模型班1名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、総合文化展の解説を行った。制作工程模型班では館蔵の国宝「紅白芙蓉図」の制作工程模型を作成するための調査を行い、次年度の展示・教育普及事業のための準備を行った。 【京都国立博物館】 1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座では、研究員5名が客員教授(3名)、准教授(2名)を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通じた専門的な教育を行った。また、京都橋大学との学術協定に基づき、研究員7名が事前講習を行ったのち、学生18名がアンケートボランティアとして活動した。	A	順調
2232	(京都国立博物館) 1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。	【奈良国立博物館】 1) 第40回夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」を奈良女子大学との共同主催として実施した。 ・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を	A	順調
2233	(奈良国立博物館) 1) 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。		A	順調

2234	2) 奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を検討する。	客員准教授として派遣し、日本アジア古典資料論の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期 3 人、後期 4 人であった。 ・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員 2 名を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生 10 名であった。	B	順調																																																							
	3) インターンシップを継続的に受け入れる。	2)・奈良教育大学・奈良市教育委員会との世界遺産学習プログラムの開発は、今年度に科学研究費が獲得されたため、3年間を一つの目処として、その開発・検討が始まった。 ・平成 23 年 12 月 24 日(土)・25 日(日)、なら 100 年会館及び奈良市教育センターを会場として、「世界遺産学習全国サミット in 奈良」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催した。講演会・分科会などに約 600 人が参加し、初めて実施された「子ども会議」後、地域の文化を守る決意を込めた「子ども宣言」が出された。 3) インターンシップに関しては、募集を行ったが大学等からの要望がなかったため、今後の受け入れに備えて当館内の制度の見直しについて検討を始めた。																																																									
	(九州国立博物館)	【九州国立博物館】																																																									
	1) 博物館実習生の受け入れを実施する。	1) 博物館実習生の受け入れを実施した。 博物館実習生を15大学20人(男2人、女18人)、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は7大学11人)																																																									
	2) インターンシップによる研修生の受け入れを実施する。	2) インターンシップについては募集を行い、照会があったが、受け入れには至らなかった。福岡県内の大学で構成する「福岡県インターンシップ推進協議会」や、海外からの照会はあるが、学生や協議会と博物館の求める人材や期間についてのマッチングがスムーズにいかず、実施できていないという現状がある。																																																									
		<table><tr><th>定量評価項目</th><th>23 年度</th><th>22 年度</th><th>目標値</th><th>評定</th></tr><tr><td>学習機会の提供 講演会等参加者数(人)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>東京国立博物館</td><td>12,664</td><td>13,319</td><td>7,830</td><td>S</td></tr><tr><td>講演会</td><td>8,224</td><td>9,290</td><td>3,500</td><td>S</td></tr><tr><td>列品解説</td><td>3,963</td><td>3,659</td><td>4,000</td><td>B</td></tr><tr><td>連続講座(夏期講座)</td><td>380</td><td>278</td><td>250</td><td>S</td></tr><tr><td>公開講座</td><td>97</td><td>92</td><td>80</td><td>A</td></tr><tr><td>京都国立博物館</td><td>1,450</td><td>2,313</td><td>2,638</td><td>C</td></tr><tr><td>土曜講座</td><td>1,199</td><td>2,076</td><td>1,848</td><td>C</td></tr><tr><td>夏期講座</td><td>193</td><td>205</td><td>600</td><td>B</td></tr><tr><td>社会科教員のための向上講座</td><td>58</td><td>32</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	定量評価項目	23 年度	22 年度	目標値	評定	学習機会の提供 講演会等参加者数(人)					東京国立博物館	12,664	13,319	7,830	S	講演会	8,224	9,290	3,500	S	列品解説	3,963	3,659	4,000	B	連続講座(夏期講座)	380	278	250	S	公開講座	97	92	80	A	京都国立博物館	1,450	2,313	2,638	C	土曜講座	1,199	2,076	1,848	C	夏期講座	193	205	600	B	社会科教員のための向上講座	58	32	—	—		
定量評価項目	23 年度	22 年度	目標値	評定																																																							
学習機会の提供 講演会等参加者数(人)																																																											
東京国立博物館	12,664	13,319	7,830	S																																																							
講演会	8,224	9,290	3,500	S																																																							
列品解説	3,963	3,659	4,000	B																																																							
連続講座(夏期講座)	380	278	250	S																																																							
公開講座	97	92	80	A																																																							
京都国立博物館	1,450	2,313	2,638	C																																																							
土曜講座	1,199	2,076	1,848	C																																																							
夏期講座	193	205	600	B																																																							
社会科教員のための向上講座	58	32	—	—																																																							

	京都ミュージアムズ・フォー連携講座 (土曜講座に含む)	(158)	—	(190)	B
	奈良国立博物館	3,006	3,349	2,450	A
	特別展等講座	1,839	2,172	1,500	A
	夏季講座	522	556	350	A
	サンデートーク	645	621	600	A
	九州国立博物館	7,833	3,996	2,030	S
	特別展記念講演会	1,500	1,410	600	S
	特別展シンポジウム	263	230	180	A
	講演及びシンポジウム	4,269	1,036	—	—
	ミュージアムトーク	1,741	1,320	1200	A
	ミュージアム講座	60	0	50	A
	学習機会の提供 講演会等実施回数(回)				
	東京国立博物館	112	126	77	S
	講演会	32	39	20	S
	列品解説	76	83	55	A
	連続講座(夏期講座)	1	1	1	A
	公開講座	3	3	1	S
	京都国立博物館	15	17	15	A
	土曜講座	13	15	11	A
	夏期講座	1	1	3	A
	社会科教員のための向上講座	1	1	—	—
	京都ミュージアムズ・フォー連携講座 (土曜講座に含む)	(1)	—	(1)	A
	奈良国立博物館	28	28	25	A
	特別展等講座	15	15	12	A
	夏季講座	1	1	1	A
	サンデートーク	12	12	12	A
	九州国立博物館	89	64	46	S
	特別展記念講演会	7	9	4	S
	特別展シンポジウム	1	2	1	A
	講演及びシンポジウム	37	9	—	—
	ミュージアムトーク	43	44	40	A
	ミュージアム講座	1	0	1	A

(3) 快適な観覧環境の提供

【中期目標】国民に親しまれ、他の館の見本となる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や観覧料金及び開館時間の弾力化などの利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、来館者の期待に応えること。						
【中期計画】 国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 ①施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 ②一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。 ③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。			【主な計画上の評価指標】 ○施設のバリアフリー化を進めること。 ○利用者のニーズを踏まえ、観覧料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行うこと。 ○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等のサービスを改善すること。 【22年度評価における主な指摘事項】 ○障害者への対応については、我が国の歴史と文化に関する知識の伝達という意味において、すべての国立博物館があらゆる障害者に開かれた施設であってほしいため、なお一層の工夫を望む。			
処理 番号	年度計画		主な実績		自己評価	
					年度	中期
2311-1	(3) 快適な観覧環境の提供 ① 施設・設備等の充実 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (東京国立博物館) 1) 多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。 2) より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。		(3) 快適な観覧環境の提供 ① 施設・設備等の充実 【東京国立博物館】 (4館共通) 1)すべての特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。「空海と密教美術」展の音声ガイドでは、北大路欣也(俳優)のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が25.2%となった。 (東京国立博物館) 1)多言語(日・英・中・韓)による案内及び誘導サイン等の充実を図った。 2)・特別展「孫文と梅屋庄吉」において、可変調光盤と小型LEDスポットライトによる展示照明を行った。 ・「根付 高円宮コレクション」高円宮コレクション室における歴史的展示ケースへのLED照明器具の取付けを行った。 ・「東京国立博物館 140 周年特集陳列 天翔ける龍」特別1 室天井にライティングダクトを増設した。		A	順調
2311-2	3) 総合文化展における音声ガイドの導入について検討する。 4) 障がい者の方のために点字版パンフレット等を引き続き配布す		3) 平成22年度に実証実験を行なったスマートフォン端末を用いた館内ガイド「トーはくナビ」を、アンドロイド版スマートフォンアプリとして平成24年4月からの運用に向けて準備を行った。 4) 障がい者の方のために点字版パンフレット等を引き続き配布した。		A	順調

2312	る。 5) 「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)「フロアガイド」(4ヵ国語：日、英、中、韓)の制作・配布する。 6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、(3ヵ国語：英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布する。	5) 「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)「フロアガイド」(4ヵ国語：日、英、中、韓)の制作・配布を行った。 6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ3ヵ国語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じて更新・配布した。また、総合文化展の見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具 今昔」日本の伝統もよう」の3種を制作・配布した。	A	順調
2313	(京都国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進する。 2) 館内案内リーフレット(6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布する。	(京都国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進した。 2) 昨年度に製作した館内案内リーフレット(6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布した。	A	順調
	(奈良国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。 2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。 3) 座面を上下に動かせる車いすの整備を進め、障がい者の方の観覧環境の向上を図る。 4) 正倉院展の際に託児所を設置する。 5) なら仏像館における音声ガイドの導入について検討する。	(奈良国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。 2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保した。 3) 座面を上下に動かせる車いすは、現在、国内及び国外において製造していないため、整備が出来なかった。 4) 正倉院展の会期中に、託児所を開設し、多くの利用者があった。 5) なら仏像館における音声ガイドの導入について検討した結果、新ボランティア制度が平成24年4月から発足し、解説ツアーを実施することに伴い、音声ガイドと重複するところがあるため、解説ツアーの実施状況を受けて再度検討することになった。		
	6) 市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討する。 7) ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。	6) 市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討した結果、費用対効果等の観点から行わないこととなった。 7) ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行った。		

2314-1	8) 館内案内リーフレット(7ヵ国語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 9) なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成する。	8) 館内案内リーフレット(7ヵ国語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。 9) なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成した。 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 年4回開催した特別展において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。 (開館以来、音声ガイドを装備し、英語・中国語・韓国語の音声解説を提供しており、好評を博している。) (九州国立博物館) 1) ケースや照明設備を総点検し、安全で快適な鑑賞空間の提供するため、日々向上に努めた。 2) エントランスの丸看板に、主要なトピック展示や季節感を表わすことによって、新鮮な展示をアピールした。 3) 館内案内リーフレット(7ヵ国語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。 4) トピック展示「館蔵水墨画名品展」で、英語・中国語・韓国語を併記した図録を作成し、アジア圏の来館者に対応した。 5) 文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替えに応じて更新し、作成・配布した。	A	順調
2314-2	(九州国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 2) 来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。 3) 館内案内リーフレット(7ヵ国語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 4) 文化交流展示室の展示ストーリーを、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットまたはガイドブックを刊行する。 5) 英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。	(九州国立博物館) 1) ケースや照明設備を総点検し、安全で快適な鑑賞空間の提供するため、日々向上に努めた。 2) エントランスの丸看板に、主要なトピック展示や季節感を表わすことによって、新鮮な展示をアピールした。 3) 館内案内リーフレット(7ヵ国語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。 4) トピック展示「館蔵水墨画名品展」で、英語・中国語・韓国語を併記した図録を作成し、アジア圏の来館者に対応した。 5) 文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替えに応じて更新し、作成・配布した。	A	順調
2321	② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営 一般入館者、専門家を対象に満足度調査を定期的の実施し、調査結果を展示等に反映させるほか、必要なサービスの向上に努める。 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。	② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営 【東京国立博物館】 (4館共通) 1) タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)の実施 平成館、本館で開催された全ての特別展及び本館での総合文化展でアンケートを実施し、その結果で環境改善に努めた。 2) ・夏季の「空海と密教美術展」や冬季の「北京故宫博物院 200選」期間中に、看	A	順調

2322	(京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (京都国立博物館) 1) 大学との学術交流による特別展覧会観覧者アンケートを実施する。 2) モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。	護師の常駐、日傘の貸出やテント・給水所設置など来館者への配慮を行った。 ・館内外の利用案内や展示紹介(キャプション等)の整備など、展示会場の環境維持に努めた。 【京都国立博物館】 (4館共通) 1) 来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。 2) 特別展覧会「法然一生涯と美術」において、以前から強い要望があった整理券システムを試行した。また混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) (京都国立博物館) 1) 通常のアンケートとは別に、学生ボランティアによる呼びかけアンケートを行い、より細かなニーズを調査するとともに、館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。 2) 小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとパス関西加盟館の職員及びキャンパスメンバーズ加盟校の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。	A	順調
2323	(京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (京都国立博物館) 1) 大学との学術交流による特別展覧会観覧者アンケートを実施する。 2) モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。	(京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (京都国立博物館) (京都国立博物館) 1) 通常のアンケートとは別に、学生ボランティアによる呼びかけアンケートを行い、より細かなニーズを調査するとともに、館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。 2) 小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとパス関西加盟館の職員及びキャンパスメンバーズ加盟校の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。	A	順調
2324	(九州国立博物館) 1) 隣接する旧九州歴史資料館跡地を利用して駐車収容台数を拡張する。	(九州国立博物館) 1) 特別展「天竺へ」に関し、専門家の展覧会評を奈良国立博物館だよりに掲載した。 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため、平常展及び各特別展で来館者調査を実施した。 2) 混雑が予想される展覧会について、入場者調節、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 (九州国立博物館) 1) 旧九州歴史資料館跡地を利用して駐車収容台数を拡張した。	A	順調
	③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、	③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実		

2331	関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (4館共通) 1) オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。	【東京国立博物館】 ・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスを行い、また展覧会に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。 ・140周年グッズを開発した。 ・その他ミュージアムグッズについてもその都度、東京国立博物館運営協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に貢献した。(自在龍をモチーフとしたガラスの置物など) (4館共通) 1) 新たなミュージアムグッズとして本館をモチーフにした立体ペーパークラフトを製作販売した。	A	順調
2332	(京都国立博物館) 1) レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。	【京都国立博物館】 (4館共通) 1) 新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。 (京都国立博物館) 1) レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。	A	順調
2333	(奈良国立博物館) 1) ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。 2) 仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。 3) 寄附金の受け入れ、賛助会の会費及び館主催のイベント料金の支払い等について、クレジットカードで決済できるような方策を検討し、利用者の利便性の向上を図る。 4) より快適な環境を提供できるよう、メニューを含めレストランのリニューアルを検討する。	【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) オリジナルグッズ(クッキー、ワイン)の商品をレストランで販売し、サービスの向上に努めた。 (奈良国立博物館) 1) 平成24年1月2日に来館された方、正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりなどを配布するサービスを行った。 2) 仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。 3) 寄附金の受け入れ、賛助会の会費及び館主催のイベント料金は、大半が口座振り込みにより支払われているため、クレジットカード決済による利用者の利便性が見込めないことから、クレジットカード決済の導入は、見合わせることにした。 4) より快適な環境を提供できるよう、レストランのリニューアルを行った。	A	順調
2334		【九州国立博物館】 (4館共通)	A	順調

(九州国立博物館) 1) 特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。	1) ミュージアムショップでは、特別展及び文化交流展の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子やグッズなどを提供した。 (九州国立博物館)					
	1) レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。					
	定量評価項目		23 年度	22 年度	目標値	評価
	リーフレット等（カ国語）					
	東京国立博物館		7	7	7	A
	京都国立博物館		6	6	6	A
	奈良国立博物館		7	7	7	A
	九州国立博物館	7	7	7	A	

(4) 文化財情報の発信と広報の充実

【中期目標】文化財情報の蓄積と発信の充実に努めるとともに、展示及び各種事業に関し、積極的な広報に努めること。					
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】			
(4) 文化財情報の発信と広報の充実 ① 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。 ② 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。 ③ 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。 ④ 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。 ⑤ ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。		○収蔵品等に関するデジタル化目標件数を定め、それを達成すること。 また、公開データ件数を増加させること。 ○報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。 ○計画的な広報・情報提供を行うこと。 ○ウェブサイトアクセス件数の向上を図ること。			
【22年度評価における主な指摘事項】		○収蔵品等のデジタル化も順調に進展しており、今後のコンテンツ構築の一層の進展を期待する。			
処理番号	年度計画	主な実績		自己評価	
				年度	中期
	(4) 文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進 (4館共通) 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画	(4) 文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進			

2411	像（e 国宝）を継続して公開する。 3）約9,000件（東京：3,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：1,000）の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 （東京国立博物館） 1）外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実を図る。 2）収蔵品に関する基本情報のデータ化を引き続き推進するとともに、複数あるデータベースを統合して公開することに向けた整備を進める。 3）法隆寺献納宝物について、5カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。	【東京国立博物館】 （4館共通） 1）デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。 2）国宝・重要文化財の高精細画像（e 国宝）を継続して公開した。 3）既存フィルムはほぼすべてデジタル化済みであり、平成23年度新規フィルム撮影のほぼ全てにあたる1,468枚をデジタル化した。 （東京国立博物館） 1）「列品管理プロトタイプデータベース」を改善し、学芸業務支援の機能を充実させた。 2）収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。 3）「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」を法隆寺宝物館にて継続して提供した。 ・東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。	A	順調
2412		【京都国立博物館】 （4館共通） 1）収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。 2）収蔵品の国宝・重要文化財について、5カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）を継続して公開した。 3）2,165件の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。 （京都国立博物館） 1）重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」で平成21年度より公開されている6カ国語（日英韓中仏西）による解説について、内容及び表示方法等について修正を行った。	A	順調
2413	（京都国立博物館） 1）収蔵品について多国語の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムの整備を継続して実施する。	【奈良国立博物館】 （4館共通） 1）収蔵品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。 2）国宝・重要文化財のデジタル高精細画像（e 国宝）を継続して公開した。 3）収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した（5,297件）。	A	順調

2414	（奈良国立博物館） 1）収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。 2）写真データベースの個別データを約2,000件追加更新する。 3）修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。 4）仏教美術資料研究センターのウェブサイト（蔵書検索）の開設と、利用案内パンフレットの作成を実施して、仏教美術情報の公開・普及を図る。 5）地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。 （九州国立博物館） 1）インターネット及び来館者用館内端末を通じ、収蔵品デジタル画像を利用したデジタルアーカイブの運用を開始する。 2）収蔵品に関するコンテンツを順次追加し、デジタルアーカイブの充実を図る。 3）海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。	（奈良国立博物館） 1）収蔵品データベースに継続して情報を蓄積し、画像、解説文、文献情報を充実させた。 2）画像データベースの個別データを4,370件追加更新した。 3）「美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ化を継続して行い、データベースの構成について検討した。 4）仏教美術資料研究センターのウェブサイトを開設し、また利用案内パンフレットをあらたに作成して、仏教美術情報の公開・普及を図った。 5）地下回廊にタッチパネル式学習端末機を設置し、収蔵品の中から名品の画像を公開した。 【九州国立博物館】 （4館共通） 1）収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行った。 2）収蔵品の国宝・重要文化財について、5カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）を継続して公開した。 3）目標としていた1,000件を超える収蔵品写真等のデジタル化を実施した。 （九州国立博物館） 1）本年度4月1日より、インターネット及び来館者用館内端末 PC2台により九州国立博物館でデジタルアーカイブの公開を開始した。 2）今年度は平成22年度の購入品を中心に、コンテンツを追加するとともに、画面構成を改良した。 3）平成20年度・22年度に撮影・録音したデータをもとに、新規映像コンテンツとして「モンゴルの遊牧民」「ベトナムの水上人形」「ウズベキスタンの絨毯作り」、新規音声コンテンツとして「馬頭琴とホーミー」「ウズベキスタンの鳥市場」を制作し、「あじっぱ」において展開した。また、映像素材の画角変更にもとない、再生機器（モニタ）も従来の3:4のものから9:16のものに変更し、スクリーンセーバーも焼き付きの危険性を可能な限り押さえたものに変更した。	A	順調
	②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 （4館共通） 1）約9,500件（東京：3,000、京都：3,000、奈	②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化		

2421	良：3，000、九州：500）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。 （東京国立博物館） 1）資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システムを軸とした図書資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。 2）法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。 3）調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集するための方針を策定する。 4）資料館の機能の拡充に向け、閲覧スペースや書庫、事務室等の区画・配置を始め、資料館全体の在り方を再検討し、有効活用へ向けた利用計画を策定する。	【東京国立博物館】 （4館共通） 1）本年度は10,566件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 （東京国立博物館） 1）資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、図書資料等のデータ整備を推進した。 資料館において資料の閲覧、複写およびレファレンスサービスを継続して実施した。 2）法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。 3）博物館の調査研究、展示等の業務を支援し一般利用者の利用に供するため、関連する図書及び関係資料を収集した。 収集件数：購入図書174冊、寄贈・交換図書3,796冊、館蔵品等の写真資料10,566枚 4）図書配置計画の変更に伴い埋蔵文化財報告書用書架の増設を行い、別置していた図書を収容した。 ○資料館への入退館について、従来は西門を経由していたが、利用者サービスの向上の一環として9月1日より新たに正門からの来館者が資料館東口から資料館に入り、利用後再び有料ゾーンに戻る事が可能な経路を設けた。	A	順調
2422		【京都国立博物館】 （4館共通） 1）収蔵品、出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影を3,410枚、デジタル撮影を170枚行なった。 ・本年度から収蔵品写真の貸与形態をフィルムからデジタルデータに全面移行し、収蔵品フィルムの一括デジタル化作業を本格的に開始した。 ・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書5,200冊、逐次刊行物2,623冊を収集した。	A	順調
2423	（奈良国立博物館） 1）図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。 2）仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を全面的に見直し、資	【奈良国立博物館】 （4館共通） 1）収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を多数行い、関連データを整備した（6,103件）。 （奈良国立博物館） 1）図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおいて情報公開を充実させた。 2）仏教美術資料研究センターの工事完了をうけて、新しい平面プランと利便性に配慮した、資料配置の全面的な見直しを行った。また閲覧スペース、研修室を拡大する	A	順調
2424	料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。 （九州国立博物館） 1）対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。 2）博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、現行業務システムを全面的に見直し、より充実した第2次業務システム構築を目指す。	など、情報利用環境の向上に資するべく努力した。 【九州国立博物館】 （4館共通） 1）目標とした500件を超える収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 （九州国立博物館） 1）対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施した。 2）博物館資料（収蔵品、図書）データベースによる業務の効率化に向けて、現行業務システムを全面的に見直し、より充実した第2次業務システム構築を行った。	A	順調
2430	③ 広報計画の策定と情報提供 （機構本部） 1）機構の概要、年報を作成する。 2）機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。	③ 広報計画の策定と情報提供 【本部事務局】 （機構本部） 1）『独立行政法人国立文化財機構概要 平成23年度』を23年7月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。 『独立行政法人国立文化財機構年報 平成22年度』を24年1月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。 2）機構本部ウェブサイト（http://www.nich.go.jp/）の全面リニューアルを行い、23年4月1日に新本部ウェブサイトを立ち上げた。掲載情報の追加・更新を随時行い、法人情報の公開・提供を継続するとともに、23年10月開設のアジア太平洋無形文化遺産研究センターのウェブサイト公開に合わせトップページのレイアウトを調整した。	A	順調
2431	（4館共通） 1）年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 （東京国立博物館） 総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 1）広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 2）本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。	【東京国立博物館】 （4館共通） 1）年間スケジュールリーフレットを制作（35,000部 DM、館内配布）した。 （東京国立博物館） 1）「東京国立博物館ニュース」（隔月刊）、「博物館でお花見を」「博物館に初もうで」ほか各種広報印刷物を制作・配布した。 2）「日本美術の流れ」パンフレットに関しては処理番号2311-2を参照。	S	順調
2432	3）平成24年度の東洋館リニューアルオープン及び開館140周年に向けての広報展開の企画・運営を行う。	3）東京国立博物館140周年「ブンカのちからにありがとう」キャンペーンを実施。併せて東洋館リニューアルオープンの告知を行った。 【京都国立博物館】 （4館共通）	A	順調

2433	(奈良国立博物館) 1) 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。	1) 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) 平成23年5月～24年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を9月に30,000部作成し、配布した。 (奈良国立博物館) 1) それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、および印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、6回実施した。 2) 広報戦略委員会において外注化を検討したが、経費等の問題があり、引き続き検討課題とする。 3) 館内各部署から発送していた展覧会チラシを、情報サービス室から一元的に発送する体制に移行した。 4) 特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。	A	順調
2434	2) 広報活動を多面的に行うため、広報の外注化を検討する。 3) 広報業務を一元化するとともに、戦略的な広報体制を整備する。 4) 英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。 5) 特別展の際に、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施し、タクシー・ホテル等利用者への広報活動を展開する。 6) 地元の観光協会に入会し、観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。 (九州国立博物館) 1) 特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。特に特別展の内容理解を促進するための番組を制作、TV放映する。 2) 現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースを整備する。 3) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。 4) 九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を展開する。 5) 文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・ちらし・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。	5) 特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。 6) 奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界の会合に出席し、広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 季刊「アジアージュ」に加え、月毎に展覧会やイベントを紹介するちらしを制作・配布し、博物館の情報発信に努めた。 (九州国立博物館) 1) 特別展では「よみがえる国宝」、「契丹 美しき三人のプリンセス」などでTV番組を制作・放映した。 2) 陳列案や陳列履歴を格納したデータベースシステムを実験的に構築した。利便性の向上にむけて引き続き改良を行う。 3) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。 4) 九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った。 5) 九州新幹線全通によって近くなった南九州への知名度の浸透を図るため、CM放映・刊行物配布ラックを設置した。	A	順調

2441	④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動 (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3) メールマガジンを配信する。 (東京国立博物館) 1) 「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配布を行う。(年6回) 2) 新作コンテンツの開発等により、ウェブサイトの充実を図る。	④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動 【東京国立博物館】 (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3) メールマガジンを配信した。(32回) (東京国立博物館) 1) 「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配布を行った。(年6回) 2) 新作コンテンツの開発等により、ウェブサイトの充実を図った。	A	順調
2442	2) 新作コンテンツの開発等により、ウェブサイトの充実を図る。 (京都国立博物館) 1) 「博物館だより」、「News Letter」(英文)を年4回発行する。 2) 地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。 3) 京都市内4美術館博物館で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。	【京都国立博物館】 (4館共通) 1) 各展覧会の招待日にプレス発表会を開催した。 2) ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3) メールマガジンを発行した。(12回) (京都国立博物館) 1) 「博物館だより」、「Newsletter」の発行・配布を行った(各4回) 2) 東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を展開した。 3) 京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都市文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。 4) 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。 5) 収蔵品貸与情報をウェブサイトに公開する。	A	順調
2443-1	4) 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。 5) 収蔵品貸与情報をウェブサイトに公開する。	【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) 読売新聞紙上に、年間を通じて文化財の魅力を紹介する連載を行った(隔週)。特別展「誕生! 中国文明」において、読売新聞紙上に文化財の解説を連載した(5回)。特別展「天竺へ」において、朝日新聞紙上に文化財の解説を連載した(5回)。「第63回正倉院展」において、読売新聞紙上に宝物紹介を連載した(5回)。	A	順調

2443-2	(奈良国立博物館) 1) 特別展及び名品展の魅力を紹介した「博物館だより」を発行する。(年4回) 2) ウェブサイトの外国語版の充実を図る。 3) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。 4) 奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館と奈良トライアングルミュージアムズを結成し、3館協力して集客に努める。 5) 東大寺、春日大社などの寄託社寺及び賛助会員企業と連携し、特別展等の割引特典付きチラシを配布する。 6) 文化大使を継続して任命し、広報活動を行う。 7) マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図る。 8) フィルムコミッションと連携して映画撮影等に場所提供を含め協力することにより博物館の認知度を高める。 9) 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載する。	2) 特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイトおよびモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。 3) メールマガジンを毎月末に発信した。(12回) (奈良国立博物館) 1) 名品展や特別展の紹介に加え、文化財情報を満載した季刊誌「奈良国立博物館だより」を発行した(4回)。 2) 「特別陳列」の対訳語が、ウェブサイト内で「Special Display」「Special Exhibit」などと揺れがあったのを、館内会議での議論を踏まえて「Feature Exhibition」に統一した。 3) 地元の自治体・商工団体・観光団体等の会合に参加し、広報活動を展開するとともに情報収集を行った。 4) 奈良トライアングルミュージアムズのHP、パンフレット(日本語・英語)を作成した。 奈良トライアングルミュージアムズを周知してもらうためのイベント「奈良トライアングルミュージアムズサテライトエキシビション on 2days」を行った。 5) 東大寺、春日大社の協力を得て、体験型のイベントを行った。 冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。 6) 文化大使の任期満了にともない、次期候補者の選考を行った。 7) 特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に対応した。 8) フィルムコミッション奈良県サポートセンターのHPに登録した。 9) 季刊誌「奈良国立博物館だより」のPDF版は、1年間の準備期間を経て、平成24年3月末日刊行号よりウェブサイトに掲載した。 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。年間を通じ新聞広告に掲載するなど、テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえた広報を、マスコミ媒体を活用して行った。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3) メールマガジンを配信した。(毎月2回) (九州国立博物館) 1) 九州国立博物館 CM「きゅうはく行かなきゃ！」(処理番号2434参照)をテレビ放映の他、YouTubeでも配信した。 2) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアーージュ」を発行した。(年4回)	A	順調
2444	(九州国立博物館) 1) ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 2) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアーージュ」を発行する。(年4回)	【九州国立博物館】 (4館共通) 1) マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。年間を通じ新聞広告に掲載するなど、テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえた広報を、マスコミ媒体を活用して行った。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3) メールマガジンを配信した。(毎月2回) (九州国立博物館) 1) 九州国立博物館 CM「きゅうはく行かなきゃ！」(処理番号2434参照)をテレビ放映の他、YouTubeでも配信した。 2) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアーージュ」を発行した。(年4回)	A	順調

2451	⑤ ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。 (4館共通) 1) アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。 2) アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。	⑤ ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。 【東京国立博物館】 (4館共通) 1) アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。 2) アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。 【京都国立博物館】 (4館共通) 1) アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。 2) 画像申請及び収蔵品データベースのページなどをリニューアルし、ウェブサイトの内容の充実に努めた。 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) アクセス件数のカウントは、これをユーザーセッション数に統一した。 2) これまで掲載していた「奈良国立博物館所蔵写真データベース」に替えて、新たに「画像データベース」を掲載した(9月)。 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。 2) ウェブサイトの内容の充実を図った。	S	順調		
2452			A	順調		
2453			A	順調		
2454			A	順調		
		定量評価項目	23 年度	22 年度	目標値	評価
収蔵品・写真等の既存フィルムのデジタル化件数 (件)						
		東京国立博物館	1,468	8,639	3,000 程度	C (A)
		京都国立博物館	2,165	—	2,000 程度	A
		奈良国立博物館	5,297	9,501	3,000 程度	S
		九州国立博物館	2,146	1,391	1,000 程度	S
写真データベースの個別データ追加更新件数 (件)						
		奈良国立博物館	4,370	5,190	2,000 程度	S
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数 (件)						
		東京国立博物館	10,566	11,343	3,000 程度	S
		京都国立博物館	3,580	3,379	3,000 程度	A

	奈良国立博物館	6,103	11,684	3,000 程度	S
	九州国立博物館	4,441	1,393	500 程度	S
	各博物館発行の広報印刷物発行回数（回）				
	東京国立博物館				
	東京国立博物館ニュースの発行	6	6	6	A
	京都国立博物館				
	博物館だよりの発行	4	4	4	A
	Newsletter の発行	4	4	4	A
	奈良国立博物館				
	博物館だよりの発行	4	4	4	A
	九州国立博物館				
	「九博季刊情報誌アジアーヂュ」の発行	4	4	4	A

3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与

【中期目標】博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。

(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信

【中期目標】収蔵品等に関する調査・研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。	
【中期計画】 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与するため、以下の事業を実施する。 (1)収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。	【主な計画上の評価指標】 ○各種刊行物等で調査・研究の成果を広く公表すること。 ○各種刊行物の電子書籍化、インターネットでの公開を行うこと。 【22 年度評価における主な指摘事項】 ○研究成果に関する一般向け情報発信の工夫や、各種出版物の多言語化に一層の努力が求められる。

処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3111	(1) 調査研究の成果の発信 (東京国立博物館) 1) 東京国立博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2) 紀要・図版目録等を刊行する。 3) 文化財修理報告書を刊行する。 4) 法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 5) 研究誌「MUSEUM」(年6回)を刊行する。	(1) 調査研究の成果の発信 【東京国立博物館】 1) (東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号 2411 参照) 2) 『東京国立博物館紀要』47号を刊行した。 3) 『東京国立博物館文化財修理報告書』X II を刊行した。 4) 『法隆寺献納宝物特別調査概報 X X X II 聖徳太子絵伝5』を刊行した。 5) 研究誌『MUSEUM』631～636 号を刊行した。	A	順調
3112	(京都国立博物館) 1) 研究紀要「学叢」を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。 2) 社寺調査報告書を刊行する。 3) 文化財修理報告書を刊行する。	【京都国立博物館】 1) 研究紀要『学叢』第 33 号を刊行した。 2) 『社寺調査報告書 25』を刊行した。 3) 『文化財修理報告書 第 8 号』を刊行した。 ○特別展等の図録を 4 冊刊行した。 ・浄土宗寺院の所蔵文化財の調査研究成果を盛り込み特別展覧会「法然」を開催し、図録を刊行した。 ・館蔵品・寄託品の調査成果を盛り込み特別展覧会「百獣の楽園」を開催し、図録を刊行した。 ・永青文庫を中心とする各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「細川家の至宝」を開催し、図録を刊行した。 ・館蔵の須磨コレクションを中心に、海外も含め各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「中国近代絵画と日本」を開催し、図録を刊行した。	A	順調
3113	(奈良国立博物館)	【奈良国立博物館】	B	ほぼ

3114	1) 研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、ウェブサイトで公開する。	1) 研究紀要『鹿園雑集』13号(24年3月)は24年度内の刊行に向けて現在準備中である。なお、収蔵品等に関する調査研究の成果を展覧会等図録・学術雑誌等の各種刊行物、研究会・講座等で公表した。	A	順調		
	2) 文化財修理に関する印刷物を刊行する。	2) 文化財修理に関する印刷物に関しては、研究紀要『鹿園雑集』13号(24年3月)内に掲載する形で、24年度内の刊行に向けて現在準備中である。				
	3) 入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。 (九州国立博物館)	3) 地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(通年)。 【九州国立博物館】				
	1) 研究紀要「東風西声」を刊行する。 2) 文化財修理に関する印刷物を刊行する。	1) 研究紀要『東風西声』第7号を刊行した。 2) 我が国の文化財保存修理の歴史をテーマとした特別展図録『よみがえる国宝―守り伝える日本の美』を刊行した。				
	3) 保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。	3) 特別展「よみがえる国宝」の展示会場用に文化財保存修復活動を解説する教育普及パネルと映像を制作した。 ○平成23年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業「市民と共に ミュージアムIPM」の報告書を3冊刊行した。				
		定量評価	23年度	22年度	目標値	評価
		研究誌の刊行回数 東京国立博物館(MUSEUM)	6回	6回	6回	A

(2) 海外研究者の招聘					
【中期目標】国内外の博物館関係者及び文化財とその活用に関する専門家と積極的に学術・人物交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。					
【中期計画】			【主な計画上の評価指標】		
(2) 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。			○国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施すること。 ○職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関や国際会議等に派遣すること。		
			【22年度評価における主な指摘事項】		
			○今後も継続して、担当研究員の本務を考慮しつつ、東アジアを中心とした積極的な交流が望まれる。		
処理番号	年度計画		主な実績		自己評価
					年度 中期
(2)	海外研究者の招聘等研究交流の実施 (国立文化財機構) 1) 日中韓国立博物館長会議へ参加する。 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。		(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 【国立文化財機構】 ・(日中韓国立博物館長会議については処理番号-3211参照)		

3211	(20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究会、シンポジウムを開催する。	【東京国立博物館】 (国立文化財機構) 1) 第6回日中韓国立博物館長会議および第3回アジア国立博物館協会(ANMA)理事会・定期大会に出席した。(23年9月23日) (4館共通) 1) 韓国、中国より計16名の研究者を招へいし、学術交流および展覧会事業の円滑化に寄与した。 2) 韓国、中国、イギリス、フランスに延べ48名の研究員を派遣し、学術交流および展覧会の準備調査を行った。 3) 特別展「故宮博物院200選」を記念して、国際シンポジウム『『清明上河図』の魅力に迫る―東アジア文化史のなかの『清明上河図』』を開催し、国内外の研究者が活発な意見交換を行った。 (東京国立博物館) 1) 韓国国立中央博物館および中国・上海博物館、故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究および海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。 【京都国立博物館】 (4館共通) 1) 海外からの研究者を21名招へいした。 2) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ25名派遣した。 3) 国際シンポジウム「中国近代絵画の形成と日本」(24年2月11日)を開催した。また、北京、上海から講師2名を招いて、土曜講座を開講した(24年1月21日、24年2月25日) (京都国立博物館) 1) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ25名派遣した。そのうち国際会議、研究会等へ4名を派遣した。 2) 外国人客員研究員を1名受け入れた。	A	順調
	(東京国立博物館) 1) 国際交流協定を締結している博物館及び欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。			
	(京都国立博物館) 1) 諸外国における国際会議、研究会等へ積極的に参加し、研究交流及び研修を行う。 2) 外国人研究員・研修員の受け入れを行い、海外の研究者との交流を促進する。			
3212			A	順調
3213		【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) 「誕生！中国文明」展開催に際し中国河南省の文化財関係者を多数招へいしたことを初め、中国・韓国の研究者計20名を招へいし、今後の共同調査や展示活動等に向けた実りある情報交換を行った。 2) 職員延べ19名を中国・韓国・ベトナム等諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を行った。 3) 23年度は実績なし。	B	ほぼ順調

3214	(奈良国立博物館) 1) 学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。	(奈良国立博物館) 1) 中国・上海博物館及び韓国国立慶州博物館との間で学術交流協定に基づく研究員等の派遣・招へいを行った。また館長他1名を中国・河南博物院に派遣して学術交流協定を更新し、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を21人招へいした。 ・平成23年度文化庁外国人芸術家・文化財専門家招へい事業の実施に係る交流促進のため韓国の学芸研究室長を招へいした。 ・平成23年度文化庁在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業の実施に係る研究者を招へいした。 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため56人派遣した。 職員を研究交流及び研修等のために内蒙古博物院(中国)、国立中央博物館(韓国)、ベトナム歴史博物館等に派遣した。 3) 朝鮮半島の古代国家である百済と日本について考える国際シンポジウム「百済文化と古代日本」を開催した。(24年3月10日開催) (九州国立博物館) 1) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。	A	順調			
	(九州国立博物館) 1) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに海外博物館等との交流を実施する。 2) 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。	2) 大英博物館および中国内蒙古フフホト市博物館の保存修理技術者が保存修復施設内で研修を受けた。 内蒙古文物考古研究所・内蒙古博物院より研究者を招へいし、文化財保存交流セミナーを開催した。					
	定量評価						
	海外研究者招聘(人)	23年度			22年度	目標値	評定
	東京国立博物館	16			15	6	S
	京都国立博物館	21			7	5	S
	奈良国立博物館	20			9	6	S
	九州国立博物館	21			9	3	S
	研究員派遣(人)	23年度			22年度	目標値	評定
	東京国立博物館	48			54	6	S
京都国立博物館	25	27	6	S			
奈良国立博物館	19	14	6	S			
九州国立博物館	56	77	4	S			

(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施

【中期目標】国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与すること。						
【中期計画】 (3) 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。			【主な計画上の評価指標】 ○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施すること 【22年度評価における主な指摘事項】 ○ナショナルセンターに相応しい役割が果たされており、今後も、ナショナルセンターとして求められる指導力等を発揮し、文化財修理等の総合的課題への取り組みを期待したい。			
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価			
			年度	中期		
3311	(3) 保存修理者への研修プログラム (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。	(3) 保存修理者への研修プログラム 【東京国立博物館】 (4館共通) 1) ・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(平成23年9月1日～9月11日の10日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から30名が参加した。 ・レベルⅠの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ」(平成23年10月26日～11月2日の7日間)を別会場において開催し、受講生は7名であった。 ・大学院生のインターンシップを4名受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(平成24年2月27日～3月9日)。	A	ほぼ 順調		
3312		【京都国立博物館】 (4館共通) 1) 毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また2ヶ月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。 ・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を実施した。(計4回・160人)参加者「法然 その生涯と美術」展 52人 「百獣の楽園 美術にすむ動物たち」展 34人				

3313		「細川家の至宝」展 57人 「中国近代絵画と日本」展 17人 ・文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。(4人) ・保存修復技術を専攻する学生(大学院生)のための研修会を実施し、研修報告を行なった。(16人) 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1)・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計6回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。 ・6月4日：文化財保存修復学会第33回大会における学会員による視察(40名)。 ・6月29日：奎章閣韓国学研究院の保存科学研修(5名)。 ・7月25日：韓国慶州国立博物館との学術交流に伴う同館保存担当研究員による研修・視察(1名)。 ・8月9日：高岡地域文化財等修理協会(富山県)の修理技術者研修会(7名)。 ・9月20日：アメリカ連邦議会図書館修復士による視察・意見交換会(2名)。 ・11月21日：フィレンツェ修復研究所修復士による視察・意見交換会(10名)。 ・24年3月26日に文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した(32名)。	A	順調
3314		【九州国立博物館】 (4館共通) 1)・保存修理技術者、文化財保存業務従事者、文化財保護行政担当者、博物館美術館等関係者を対象としたセミナーを開催した。 ・文化財保存修復施設内で修理事業を行っている国宝修理装演師連盟の協力を得て、中国から研修生を1名受け入れた。 ・保存・修理事業者の協力を得て、紙文化財の保存講座・研修および、IPM普及のための講座・研修を開催した。	A	順調

(4) 公私立の博物館等への貸与の推進

【中期目標】国内外の博物館等の展覧事業の活性化を支援するため、収蔵品の貸与を実施すること。				
【中期計画】 (4) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。		【主な計画上の評価指標】 ○収蔵品の保存状況に配慮した貸与を実施すること 【22年度評価における主な指摘事項】 ○今後は、収蔵品の次代への継承という文化財の保護の観点も十分考慮しつつ、保存状況も勘案した無理のない収蔵品貸与の推進を望む。		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3411	(4) 収蔵品の貸与 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)	(4) 収蔵品の貸与 【東京国立博物館】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)	A	順調

3412	1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (東京国立博物館) 1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 2) 海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する(海外交流展出品作品を含む)。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。	1) 国内の博物館等122機関に865件の作品を貸与した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 長野県立歴史館、館山市立博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。 (東京国立博物館) 1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。 2) 海外の美術館・博物館等7機関に40件の作品を貸与した。 【京都国立博物館】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)・74機関に対し429件の収蔵品貸与を行った。(うち海外1機関に対し3件) 館蔵品の貸与件数：246件 寄託品の貸与件数：183件 計 429件 ・ウェブページで「貸出作品リスト」の公開を行った。(詳細は処理番号2112-1参照)	A	順調
3413	(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。	【奈良国立博物館】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 館蔵品と寄託品を、国内外合わせて37の機関に、計118件貸し出した。 [貸出先内訳] ・国立5件 公立22件 私立8件 海外2件 [貸与作品内訳] ・国宝 9件(館蔵品2件・寄託品7件) 重要文化財 41件(館蔵品10件・寄託品31件) その他 68件(館蔵品43件・寄託品25件) ・館蔵品 55件(絵画17件・彫刻3件・書跡1件・工芸14件・考古20件) ・寄託品 63件(絵画31件・彫刻13件・書跡3件・工芸12件・考古4件) (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 浜松市博物館との間で相互貸借事業を実施した。 貸与品：銅鐸 借用品：伊場遺跡出土鯉付壺形土器・伊場遺跡出土土器高杯・鳥居末遺跡出土脚付家形壺・鳥居松遺跡出土土器	A	順調
3414	(東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (九州国立博物館) 1) 収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。	【九州国立博物館】 (九州国立博物館) 1) 国内 25 機関・海外 1 機関に所蔵品および寄託品を貸与した。(東京国立博物館からの長期管理換品を含む)	A	順調

(5) 公私立博物館等に対する援助・助言

【中期目標】全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。	
【中期計画】 (5) 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。	【主な計画上の評価指標】 ○公私立博物館等に対する援助・助言を行うこと。 【22年度評価における主な指摘事項】 ○指導・助言業務を専門に担当する部門（部署）がないだけに、研究員にとっては大きな負担となることは確かであるが、今後も積極的にその役割を果たすことが望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3511	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 【東京国立博物館】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、126件の援助・助言を行った。 ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(22件) ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(23件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(13件) ・作品の展示・保存環境についての調査・指導(13件) ・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(55件) (東京国立博物館) 1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。	A	順調
3512	(東京国立博物館) 1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。	【京都国立博物館】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、91件の援助・助言を行った。 ・文化財の展示、修理にかかる指導助言(17件) ・文化財の調査に関する指導助言(45件) ・講演会、セミナー等における講演等での協力(11件) ・地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力(13件) ・文化財レスキュー事業に関する被災文化財等救出作業支援(5件)	A	順調
3513		【奈良国立博物館】 (4館共通)	A	順調

3514	(奈良国立博物館) 1) 聖徳太子1390年御遠忌記念「法隆寺展」(主催：法隆寺・日本経済新聞社主催、会場：日本橋高島屋ほか)に学術協力を行う。	1) 国内外の博物館・美術館等の運営や展示活動への協力(99件)を行い、今年度は特に震災後の文化財レスキューへの参加などを通して、わが国における中核的な博物館の一角を担う存在としての責務を果たすことができた。これらの協力を通して、当館収蔵品や仏教美術・考古遺物等の普及に資する活動や、今後の運営に有益な他館職員との信頼関係形成という面においても、十分な実績を挙げることができた。 (奈良国立博物館) 1) 聖徳太子1390年御遠忌記念「法隆寺展」(主催：法隆寺・日本経済新聞社、会場：日本橋高島屋及びなんば高島屋)に学術協力を行い、開催(東京会場：24年3月3日～20日、大阪会場：同3月29日～4月16日)に際して出陳品の選定と調査・撮影・点検・輸送・展示、会場構成に対する助言、展覧会図録の編集・執筆等を行った。 ・文化財レスキュー事業に関する被災文化財等救出作業支援(6件) 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 公私立博物館等で開催された研究会及び講演会において指導・助言を行った。(97件) ・文化財の調査に係る助言(20件) ・文化財の保存修理にかかる援助、助言(19件) ・作品の展示及び運営等についての指導、助言(26件) ・講演会、セミナー等における講演(24件) ・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(8件) (九州国立博物館) 1) 福岡県教育委員会と筑紫野市歴史博物館との共催により文化財関係者に向けて「古文書保存基礎講座」を実施した。 2) 地域の自治体と実行委員会を組織し、文化庁補助金を得て、「市民と共に ミュージアム IPM」事業を実施し、文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアム IPM 支援者研修」を実施した。	A	順調
	(九州国立博物館) 1) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 2) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのための I P M (総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。			

4 文化財に関する調査及び研究の推進

【中期目標】我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。

(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

【中期目標】文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査・研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査・研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。
--

【中期計画】 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。 (1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組み、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 ①我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに係る諸外国の文化財に関し調査・研究を実施する。 ②我が国の歴史、文化の究明及び理解の促進等を図るため、歴史資料・書跡資料等に関する調査・研究を実施する。 ③歴史的建造物の保存・活用の促進等を図るため、建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究を実施する。 ④無形文化遺産の伝承・公開の基盤の形成等を図るため、無形文化財、無形民俗文化財、文化財保存技術に関する調査・研究を実施する。 ⑤文化財の保存に加え、地域振興・国際的動向の観点も含めた活用の促進等を図るため、記念物に関する調査・研究を実施する。 ⑥古代日本の都城の解明等を図るため、平城宮跡、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関する調査・研究を実施する。 ⑦文化的景観の文化財としての概念の定着と保存・活用の促進等を図るため、文化的景観に関する調査・研究を実施する。 ⑧遺物及び遺構の保存・活用の促進等を図るため、埋蔵文化財に関する調査・研究を実施する。	【主な計画上の評価指標】(1)～(5)共通 ○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。 ○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。 ○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。 【22年度評価における主な指摘事項】(1)～(5)共通 ○特に保存科学の先端的研究とその手法の開発は、我が国の文化財保護政策の基盤を形成するものとして、今後も積極的に推進して欲しい。
--	---

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 ① 我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに関わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。	(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進		

4111	ア 他機関との連携を図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。	①-ア 文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究 語彙・固有名詞からの記事検索、ならびに、筆名から実名を検索できる明治期美術雑誌『みづゑ』創刊号から10号までのWeb上での試行版公開を目指した。	A	順調
4112	イ 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を礎としながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。	①-イ 文化財の資料学的研究 ・調査：横山大観《山路》、京都国立近代美術館本の調査、青文庫本の調査撮影。 ・美術史研究のためのコンテンツ形成：古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化。今泉雄作『記事珠』の翻刻・訳注。古美術文献目録の作成。 ・研究交流促進のための研究会の開催：メラニー・トレーデ氏講演会の開催。 ・研究成果報告書の作成：『美術研究作品資料』の編集。	A	順調
4113	ウ 日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。	①-ウ 近現代美術に関する交流史的研究 東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理として、未公開資料である黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成、矢代幸雄筆バレンソン宛書簡の翻刻を進めた。また、黒田清輝関連資料のウェブ上での公開促進のため、当所蔵の白馬会展目録等のデジタル画像作成を行った。東アジア美術交流の調査研究では、日本で学び台湾で活躍した陳澄波の作品調査を行った。我が国の現代美術の動向に関する基礎資料として笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進めた。	A	順調
4114	エ 美術や文化財についてのより深い理解を形成するため、彫刻や絵画を中心に、その表現・技法・材料の問題に対して基礎的な情報を収集・整理・蓄積するとともに、関連諸分野と連携した多角的な調査研究を行う。	①-エ 美術の表現・技法・材料に関する多角的研究 本研究は美術作品が基盤としている表現・材料・技法等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は絵画・彫刻を中心に作品調査を進めるとともに、作画技法を記載した江戸時代の未紹介板本を調査した。また、ホームページ上で公開している奈良時代史料にあらわれた彩色語彙についてのデータベースを増補した。	A	順調
4121	② 日本の歴史、文化の源流等の実態を探索するため、興福寺、仁和寺、三仏寺、大官家等、近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関する原本調査、記録作成を体系的に実施するとともに、公表に向けて整理検討を行う。	② 近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究 明日香村大字八約が所蔵する明神講関係資料に関する調査成果を公表した。これは藤原鎌足像を礼拝する儀礼の関係資料であり、多武峯の膝下の地である明日香に、鎌足信仰が古くから現在にまで継続していることを明確にできた。また、春日座大工の家である木奥家の歴史資料を調査・公表した。この調査によって春日杜造替が、その仕様を記した帳面に基づいて、旧例のつとりながら、またその時々判断も加えつつ、社殿を造営していることなどが明瞭となった。	A	順調

4131	③ 我が国の建造物及び伝統的建造物群に関し、以下の調査・研究を実施する。 ア 我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、古代建築の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、整理が終了したものより順次公表を行う。また、東アジア地域における文化財建造物の保存・修復について、関係各国に対し協力を行う。 イ 我が国の伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査・研究を推進するとともに、伝統的建造物群の保存を行っている各地への協力を行う。	③ 我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究 文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像のデジタルデータ化と目録の出版により、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査をおこなった。	A	順調
4141	④ー1 無形文化財の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集、記録作成を行い、その成果の一部を公開学術講座として発表する。具体的には能楽・雅楽で用いる楽器、能楽の文献資料、未調査の音声・映像資料の整理と古い媒体による音声・映像資料の再生及びデジタルアーカイブ化、工芸技術に関する技法書及び工芸技術記録等を対象に調査を行い、能楽及び講談等の記録作成を行う。	④ー1 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 現在伝承されている狂言歌謡や謡本、美保神社所蔵楽器、最初期のSPである出張録音盤の中でもほとんど調査がなされていないフランス・バテール盤、文化財保護委員会及び文化庁が行った工芸技術記録について調査研究をおこない、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をしつつ伝承の危ぶまれる伝統芸能について実演記録を作成した。	A	順調
4142	④ー2 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集し、保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行い、媒体転換等の必要な措置を講じるための準備を進める。	④ー2 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 民俗技術の伝承実態、民俗芸能の伝承組織について現地調査と資料収集を行い、その成果を『無形文化遺産研究報告』などに報告した。また無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議し、その成果を報告書にまとめ、関係者、関係機関等に配布した。さらに地方自治体で作成された無形文化遺産に関する記録の所在情報について、確認作業を行い、データ化を完了した。	A	順調
4143	④ー3 韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との交流事業において、平成22年度までの交流成果に関する合同発表会を実施するなど、研究交流事業を実施する。	④ー3 無形文化遺産分野の国際研究交流事業 韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との交流事業において、平成22年度までの交流成果に関する合同発表会を実施した。東南アジア諸国を中心として、無形文化遺産保護に関する情報収集を実施した。その他、関係する国際会議・シンポジウム等へ参加し無形文化遺産分野における国際的情報収集を行った。	A	順調

4151	⑤ 我が国の記念物に関し、以下の調査・研究を実施する。 ア 遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料収集・調査・整理等を行う。また、過年度の遺跡整備・活用研究会の成果の取りまとめ及び公表を行うとともに、文化財の包括的保存管理を検討する一環として、自然的な文化財の保護に関する研究会を開催する。 イ 遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。 ウ 遺構露出展示に関するデータベースの構築・公表を行うとともに、今後の補足・追加・更新等に関する内容・手法等を検討する。 エ 庭園史に関する文献調査・内外での現地調査等を行い、研究会を開催するとともに、日本庭園に関する基礎的資料のデータベース化を進める。 オ これまで取り組んで来た公開英文情報増補改訂を行うとともに、所蔵資料の整理を進める。 カ 不動産文化財に関連する各種研究成果について、米国コロンビア大学との研究交流のもとに成果発表を行う。 ⑥ 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。	⑤-ア、イ、ウ 我が国の記念物に関する調査・研究 遺跡等における遺構露出展示について、個別事例の情報収集をおこない、データベース構築の作業を進めるとともに、露出展示遺構の保存管理に関するマニュアルの検討をおこなった。また、過年度の成果について、『地域における遺跡の総合的なマネジメント』[平成22年度遺跡整備・活用研究会（第5回）報告書]を刊行・配布するなど、その普及等をおこなった。	A	順調
4152	⑤-エ、オ 我が国の記念物に関する調査・研究 鎌倉時代の庭園・建築・文献等の研究に取り組んでいる研究者とともに「庭園の歴史に関する研究会」を開催し、その成果を報告書として取りまとめた。日本庭園に関する国際的な情報発信検討については、その一環として『Japanese Garden Dictionary』の校訂を進めた。また、米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に関わる講演2件をおこなった。	⑤-エ、オ 我が国の記念物に関する調査・研究 鎌倉時代の庭園・建築・文献等の研究に取り組んでいる研究者とともに「庭園の歴史に関する研究会」を開催し、その成果を報告書として取りまとめた。日本庭園に関する国際的な情報発信検討については、その一環として『Japanese Garden Dictionary』の校訂を進めた。また、米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に関わる講演2件をおこなった。	A	順調
4161-1	ア 古代都城の実体解明のため、平城京跡においては、平城宮跡東院地区、平城京内諸寺院等、飛鳥・藤原京跡においては、藤原宮跡朝堂院地区、飛鳥地域等の発掘調査を実施するとともに、古代官衙、集落遺跡に関する研究会、古代瓦に関する研究会等を実施し、報告書を刊行する。	⑥-ア-1 平城宮跡東院地区（第481次）の発掘調査 平城宮跡東院地区の西北部にあたる調査区で、掘立柱建物跡、掘立柱塀、溝等の遺構を多数検出した。おもな遺構としては、調査区西部を東西に流れる石組溝、調査区全体を横断して区画する掘立柱塀がある。これらは周辺の調査成果も勘案すれば6期以上に区分でき、区画の大規模な改変があること、奈良時代末期には調査区の北半と南半で建物群の性格が異なること、出土遺物から見て重要な建物群が存在すると想定されること、などが明らかとなった。	A	順調
4161-2		⑥-ア-2 古代官衙、集落遺跡等に関する研究会の実施、報告書の刊行 ・第15回古代官衙・研究集落研究会を開催（12/9・10）した。テーマは「四面廂建物を考える」である。事例紹介のほか、建築学的視点からの検討、文献資料からの分析、事例を総合しての問題提起などが報告され、これらを踏まえての活発な討論がおこなわれた。 ・昨年度実施した研究会の報告書を『奈良文化財研究所研究報告第6冊 官衙・集落と鉄』として刊行した。	A	順調
4161-3		⑥-ア-3 藤原宮跡朝堂院地区（第169次）の発掘調査 朝堂院朝庭の発掘調査を実施し、朝庭の礎敷や排水のための暗渠や溝を検出し、朝庭における整備状況を確認した。また、下層調査では、藤原宮造営期の遺構とし	A	順調

4161-4		て運河、藤原宮造営に先行して設置された朱雀大路とそれにそって並ぶ柱穴列、および掘立柱建物6棟を検出した。これにより、藤原宮の造営過程をこれまで以上に詳細に復元する手がかりが得られた。		
4162-1	イ	出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施し、整理が終了したものより順次公表を行う。	⑥-ア-4 甘樫丘東麓遺跡（第171次）の発掘調査 丘陵裾部において柱穴列を検出した。谷部では斜面を切り土・盛土により平坦面を造成しており、平坦面上にて石敷・柱穴・溝および被熱により赤色硬化した部分を検出した。7世紀前半段階における、谷部の土地利用形態を明らかにした。	A 順調
4162-2			⑥-イ-1 平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等 本年度の発掘調査で出土・検出した遺物・遺構の整理・分析研究、図面作成・写真撮影などの基礎作業をおこない、平成24年刊行予定の『奈良文化財研究所紀要2012』の報告を準備した。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物についての調査を継続して実施した。また、『地下の正倉院展—コトバと木簡』を開催した。	A 順調
4163	ウ	飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、鋳造関連遺物を中心とした資料の調査を実施する。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺等の飛鳥・藤原京跡内寺院の出土部材の研究を行う。	⑥-イ-2 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦埴類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。	A 順調
4164	エ	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡（唐三彩窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究所との共同研究、隋唐墓に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日本の古代都城及び韓国古代王京等に関する韓国国立文化財研究所との共同研究、中央アジア地域出土の旧石器資料に関するカザフスタン・カザフ国立大学への研究協力及び中国霊井遺跡出土品に関する河南省文物考古研究所への研究協力を協定に基づいて実施する。また、整理が終了したものより順次公表を行う。	⑥-ウ 東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究 ・飛鳥地域壁画古墳の研究としては、昨年度の天文図の調査に基づき、春期特別展を開催した。また、新たに、キトラ、高松塚古墳出土大刀の類例および同時代資料の集成を行った。同時に、武人像を中心とした壁画資料の収集をおこない、7～8世紀における武器の着装について研究を進めた。 ・東アジアにおける工芸美術史・考古学研究のうち、鋳造関連遺物の調査は、樞原市出土品の調査と、宮内庁および奈文研理文センターと共同して、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の明日香村古宮遺跡出土の金銅製四鍔壺の調査を実施した。また、これまでの鋳造関係遺物の調査成果をもとに夏期企画展を実施した。 ・山田寺出土部材については、経年的に計測調査をおこなっており、本年もこれを継続した。その結果、大きな変化がないことを確認した。	A 順調
			⑥-エ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力 ・漢魏洛陽城は宮城壁およびその周辺を対象として共同調査を実施。 ・共同研究の成果として『遼寧省朝陽地区隋唐墓の整理と研究』の執筆と編集。金嶺寺遺跡出土遺物調査の実施。 ・河南省および河北省で生産した唐三彩の調査研究を実施。唐三彩に関する学会で発表。 ・日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施。 ・カザフ国立大学所蔵資料の調査および大学研究者との研究交流を実施。 ・霊井遺跡出土品の調査研究を実施。中国・韓国より研究者4名を招聘。講演1回、研究報告を2回実施。	A 順調

4171	⑦	文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究の一環として、諸外国との比較を行いつつ、我が国の文化的景観保護行政に関する基礎的な情報を収集し、整理が終了したものより順次公表を行う。また、文化的景観の学術及び保護に資する研究会を定期開催し、その成果を踏まえて文化的景観の保護に関する研究集会を開催する。	⑦ 文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究 研究交流の道筋を立てた。国内に関しては、現地調査や視察、協議を通じて、文化的景観の保存計画、整備・活用事業の基本的な考え方を整理し、論文等を通じて成果を報告した。また、文化的景観学研究会を、準備会を含めて3回開催し、その成果を踏まえて、文化的景観の制度発足以来の保護と学術の動向の中間総括を目的として、文化的景観研究集会（第4回）を開催した。	A 順調
4181	ア	⑧ 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査・研究を実施する。 全国的遺跡に関する資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。	⑧-ア 遺跡データベースの作成と公開 官衙関係遺跡の建物データについては、特に古代における四面廂建物の遺構を重点的に収集し、居宅や集落まで範囲を広げて全国的に網羅した『四面廂建物資料集成』を作成した。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から近畿地方まで公開した。さらに、井戸のデータベースの対象を古代の遺跡全般に拡充して、資料収集をおこなった。	A 順調
4182	イ	出土遺物の材質構造調査を行い、劣化状態に関する基礎データを集積する。また、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査を実施し、埋蔵中に生じる遺物の劣化現象に関して、環境が及ぼす影響の基礎データを集積する。	⑧-イ 出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査 ・ガラス製品の標準試料のスペクトルを集積するとともに、ガラス製造物のスペクトルを取得した。 ・金属製品の構造調査としてXCT撮影することにより、象嵌構造を明らかにした。 ・木造建造物の塗装の材質分析をおこない、漆塗装、油系塗装および膠彩色を明らかにした。 ・鉄製遺物の埋蔵環境の室内再現実験を実施し、腐食のメカニズムを解明する取り組みを始めた。 ・「被災文化財のレスキュー——保存科学の果たすべき役割と課題——」をテーマとした研究集会を開催した。	A 順調
4183	ウ	平城宮跡等をフィールドとして、遺構における水分移動及び溶質移動に関する計測と数値解析を行い、遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集する。	⑧-ウ 遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集 土質遺構の露出展示を実施予定の福島市宮畑遺跡を調査フィールドとして、遺構の保護施設（覆屋）内の室空気および遺構土壌における熱水分同時移動解析を行い、換気や空調を利用した遺構の安定化法について検討した。岡山市千足古墳では墳丘における熱水分同時移動解析を行い、石室湛水のメカニズムについて考察すると同時に、盗掘以前の墳丘における熱水分同時移動解析を実施して、盗掘以前の石室における湛水発生の有無や、湛水によって生じた石障の劣化速度について検討を行った。	A 順調

(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進					
【中期目標】文化財の研究に関する調査手法の拡充と新たな技術開発を推進すること。					
【中期計画】 (2) 文化財の研究に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 ①文化財の現状及び経年変化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成方法等について研究・開発を実施する。 ②遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の調査手法に関する研究・開発を実施する。 ③木造文化財の年代及び産地の特定等を図るため、年輪年代の調査手法に関する研究・開発を実施する。 ④過去の生業活動の解明等を図るため、動植物遺存体等の調査手法に関する研究・開発を実施する。			【主な計画上の評価指標】		
処理番号	年度計画	主な実績		自己評価 年度 中期	
4211	(2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 ① 高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する多様な情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するとともに、その公開を目指して、調査・研究を行う。	(2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 ① 文化財デジタル画像形成に関する調査研究 脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財の高精細な画像や特殊撮影画像の公開と多目的な利用に供すべく、サントリー美術館所蔵の「泰西王侯騎馬図屏風」、東京国立博物館所蔵の「虚空蔵菩薩像」、京都・佛光寺蔵「善信聖人親鸞伝絵」の調査・撮影を行うとともに、他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現験記絵巻」の調査、奈良国立博物館との共同調査研究として『信貴山縁起絵巻』の調査を行い、台湾・故宫博物院との共同研究の成果として『李唐萬壑松風図光学検測報告』を刊行した。		A	順調
4221	② 埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用のため、文化財の計測・測量及び探査等に関する研究を行う。	② 文化財の測量・探査等に関する研究 文化財の計測・測量および探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学や地方公共団体と連携して実践を行った。計測・測量分野では、三次元レーザー測量と写真測量の技術的検討を進め、遺跡・遺物の図化法や、比較的安価な機器の導入と普及に関する研究を実施した。探査分野では、G P RおよびEM探査、磁気探査、電気探査の走査方法改善と新たな機器の試作、G P Sによる位置精度向上実験を行い、多様な条件下での遺構の確認に成功した。		A	順調
4231	③ 出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代測定を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資する。とりわけ、奈良文化財研究所で開発、実用化したマイクロフォーカスX線C Tは不可視年輪情報を可視化でき、これを用いた非破壊年輪年代測定は貴重な文化財調査に極めて有効であるため、機器の高出力・高解像度化によって調査対象の拡充と活用を	③ 年輪年代学研究 2県下2遺跡の出土木製遺物、3県下3棟の木造建造物、7府県下25件の木造美術工芸品について年輪年代測定調査を実施した。このうち、神像彫刻を中心とした16件の美術工芸品に対して、プロジェクト研究者らが開発したマイクロフォーカスX線C T装置による年輪年代測定調査を実施している。これらの調査・研究成果の一部を論文等9件、学会発表等11件として公表した。		A	順調
4241	図る。これらの研究成果を学会、論文、調査報告として発表する。 ④ 動植物遺存体による環境考古学的研究を継続的に実施する。また、各種計測機器、マイクロスコープを活用して出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。さらに、中国、韓国、台湾や北米北西海岸の日本の先史時代の動植物利用と対比できる遺跡の発掘に積極的に参加し、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、東アジア、環太平洋世界の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。	④ 動植物遺存体による環境考古学的研究 幅広い時代の動植物遺存体の分析を進めて、その研究成果を国内外の学会や研究会において発表した。また、学会、大学、博物館等で発表・講演を行い、環境考古学に関わる展示にも協力するなどの社会貢献を行った。研究の基礎となる標本を継続的に収集・作製・管理するとともに、広く活用されるように魚類の骨格標本目録を刊行した。		A	順調
(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進					
【中期目標】最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。					
【中期計画】 (3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する以下の調査・研究に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 ①大規模燻蒸に替わるカビ対策のシステム化等を図るため、文化財における生物被害の予防と対策に関する調査・研究を実施する。 ②文化財の状態の安定化等を図るため、文化財の保存環境に関する調査・研究を実施する。 ③文化財の材質分析及び劣化診断の向上等を図るため、計測手法に関する調査・研究を実施する。 ④屋外文化財の修復材料・技法に関する研究及び文化財の自然災害による被害軽減のため必要な調査・研究を実施する。 ⑤文化財に用いられた伝統的な技法及び合成樹脂などの修復材料に関する研究を行い、成果を文化財修復や人材育成に活用する。 ⑥近代文化遺産の保存のための修復材料及び技法の開発評価を行い、成果を保存修復に活用するとともに、海外研究機関との共同研究を推進する。			【主な計画上の評価指標】		
処理番号	年度計画	主な実績		自己評価 年度 中期	
	(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。	(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進			

4311	① 文化財のカビ被害予防と対策のシステム化について研究を行うとともに文化財のカビの予防、対策が現場でシステムティックに行えるよう、方法論の整理・確立を目指す。被災文化財の救援に関して、生物被害状況の調査及び対策に関わる研究を行う。	① 文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究 被災文化財の対応については、2011年5月10日に東京文化財研究所において研究会を開催し、紙資料をはじめとするさまざまな材質の被災文化財の初期対応について専門家からの発表を行うとともに、配布メモにまとめ、その内容を速やかにインターネットにて公開した。また、カビなど微生物による被害の調査や対策、燻蒸処置上の注意について調査研究を行い、研究発表や論文にまとめた。	A	順調
4321	② 保存環境を考慮した文化財の展示・収蔵施設の省エネ化の研究及び環境データやシミュレーション技術を用いた文化財の保存環境改善のための研究を推進する。	② 文化財の保存環境の研究 美術館、博物館、蔵、歴史的建造物等の文化財展示収蔵施設の環境データを実測解析し、絶対温度から空間内の水分分布や隣接空間同士の水分移動を評価する解析手法を確立した。また、展示ケース内装材料（木材、クロス、コーキングなど）の材料を収集し、内装材料からの放散ガス量を比較検討するための試験法試案を作成した。これら計測技術を生かし、国指定文化財の公開のための館内環境調査（温湿度・照明・空気清浄）に協力した。	A	順調
4331	③ 文化財の材質分析及び劣化診断を目的とした計測手法に関する調査研究を進める。 ア 小型可搬型機器によるその場分析及び非破壊非接触技術による診断・解析手法の確立を目指す。	③-ア 文化財の材質及び劣化調査法に関する研究 小型可搬型機器の開発・改良に関する基礎的検討として、ハンディ蛍光X線分析法による無機化合物の分析感度向上、および微小領域の可視反射分光分析法の導入・分析条件検討を行った。また、実資料への応用研究として、博物館・美術館内での日本絵画や木彫像の彩色材料調査を実施し、その調査結果の公表を行った。	A	順調
4332	イ ミリ波イメージング装置の改良を行う。また、ミリ波イメージング及びテラヘルツ分光イメージングにより文化財を対象とした測定に必要となるデータを収集するための基礎実験を行う。さらに、文化財に用いられている材料のテラヘルツ分光スペクトルの収集を行う。	③-イ ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等 ・ミリ波イメージング装置の出力レベルの改良を行った。 ・人工的に多孔質とした塗漆試料のテラヘルツ分光イメージングの基礎データを収集した。 ・談山神社所蔵の塗装手板のテラヘルツ分光イメージング測定を行った。	A	順調
4341	④ 日本国内及び韓国の石造・木質文化財を対象に、劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を日韓共同で行う。また、塑造・乾漆造仏像群の災害対策に関する基礎的調査を行う。さらに、被災文化財の救援に関して、被災状況に合わせた救援・保存・修復方法の研究を行う。	④-1 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境計測を行った。また、その結果に基づく劣化要因の解明、周辺環境影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1)白杵磨崖仏保存管理計画の策定および石造文化財の劣化と周辺環境影響に関する調査、(2)木材充填材料や木造建造物塗装に添加する防カビ剤の現地曝露試験、(3)大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、ワークショップ等を実施した。	A	順調
4342		④-2 文化財の災害対策及び被災文化財の救援と保存修復手法に関する研究 平成23年度は、(1)東大寺法華堂安置仏像群および塑造四天王立像（戒壇堂所在）の耐震対策を講ずるため、塑造鉄金剛神立像の三次元計測と地震時転倒予測を継続した。また、仏像と同じ大きさの模型を使った振動台実験を三重大学・防災科学技術研究所の協力のもと行った。(2)東日本大震災で被災した有形動産文化財の救援活動において、事務局を担い被災地における活動支援を行った。	A	順調
4351	⑤ 伝統的修復技術・材料の調査・評価及び分析を行い、改良に資する技術開発を行い、修理現場での応用を行う。また海外の文化財保存担当者を対象に、紙及び紙文化財についての材料学・保存修復等の講義と、修復、装丁等の実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査及び修復を行い、修復後、展示活用する。同時に、専門家を現地に派遣して修復及び研修を行う。	⑤-1 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 本年度は今期中期計画の初年度であるため、伝統的な建築文化財の塗装材料である漆塗装や乾性油系塗料などの過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の施工指導に役立てた。伝統的修復材料であるフノリの基礎調査を開始した。合成樹脂に関する調査では、過去使用した樹脂の劣化などの問題点解決に向けた基礎実験を行った。また、研究所が所蔵する過去の合成樹脂などを用いた修復事業の資料を分類整理し、ネガフィルムのデジタルデータ化は継続してこれを進めた。また、第5回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催し、計86名の参加を得た。	A	順調
4352		⑤-2 国際研修「紙の保存と修復」 2011年8月29日～9月16日の期間で10カ国から10名を迎え入れて研修を行った。紙本文化財の修復理念、材料学の講義を行った。実習では、掛軸修復、和綴り冊子製作、屏風・掛け軸の取扱などを行った。またスタディーツアーでは美濃を訪れ、和紙の原料・製造から流通までを和紙産地の歴史とともに学習し、和紙の抄造を体験学習した。修復工房および伝統的材料の製作工房、店舗を訪れ現状を視察した。	A	順調
4353		⑤-3 在外日本古美術品保存修復協力事業 ・掛軸5作品、屏風1作品を預かり修復を行った。内、掛軸3作品の修復を完了して所蔵館に返還した。他作品に関しては修復作業中である。また、次年度以降の修復候補作品選定のため、漆工芸品の調査をヨーロッパにおいて行った。 ・ベルリンにおいて紙本絹本文化財の保存修復に関するワークショップを、ケルンにおいては漆工芸品の保存修復に関するワークショップを開催した。	A	順調
4361	⑥ ドイツ技術博物館との共同研究に関する打ち合わせ及び欧米での修復事例調査を行う。日本郵船小樽支店等での劣化調査、かかみがはら航空宇宙科学博物館・大樹町航空宇宙実験施設等での測定データの回収と評価、日本航空協会所蔵の紙資料類の保存修復に関する研究を進める。建造物に使用されているオイルペイントのデータベースを構築する。	⑥ 近代の文化遺産の保存修復に関する研究 ・今年度は近代化遺産の中でも、建造物に使われている塗料（油性塗料）に関して、関係者を招き、研究会を開催し、それぞれの立場から油性塗料についての発表、討論を行い、それを通じて、現在国内のほとんどの塗料メーカーが生産を中止した油性塗料をどのように確保し、文化財の修復に使用していけるか等、検討を加えた。さらに屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査している。山口県萩市や静岡県伊豆の国市にある反射炉など、史跡指定された土地に建つ建造物の保存に関して研究を行った。 ・昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。	A	順調

(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施				
【中期目標】 国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査・研究を実施すること。				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。				
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
4411	(4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。 ① 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	(4) ①-1 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 ・高松塚古墳では、昨年度、脆弱化した漆喰層の常温抽出布海苔による1度目の強化は全石終了した、そのうち天井1・2・3、青龍・西男子・白虎・玄武の計7石においては無地場に長波の紫外線照射を行い、バイオフィルムのクリーニングを行っている。 ・キトラ古墳では平成22年度までに石室内の漆喰すべての取り外しが完了し、取り外した漆喰片についての経過観察、及び保存のための強化処置を行っている。更に、これから漆喰片を壁単位で組み立てていくにあたり、補填等に適切な材料の検討や実験を行っている。	A	順調
4412		①-2 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 ・文化庁が進める高松塚古墳仮整備事業や保存・活用に関する事業が円滑かつ適切に施工されるよう協力した。 ・平成22度のキトラ古墳壁画の取り外し作業終了を受け、キトラ古墳石室内の考古学的調査を行った。また、壁画、および古墳の保存、活用、整備の方向性を議論・検討するための技術的な支援・協力を行った。	A	順調
4421	② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力 今年度は、檜隈寺中心伽藍跡の南東方向に所在する土壇状の高まり部分と、檜隈寺が所在する丘陵の南東裾部の2カ所について発掘調査をおこなった。調査区の面積は合計402㎡である。土壇状の高まり部分では、大型柱穴2基を確認し、丘陵裾部では、石敷と素掘溝を確認した。いずれも古代の遺構であると考えられる。大型柱穴は重要文化財が美阿志神社石塔婆に関わり、素掘溝は檜隈寺寺域に関わるとみられ、檜隈寺	A	順調

4431	③ 農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	の実体解明に繋がる重要な成果が得られた。 ③ 農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力 大和平野支線水路等その3（県営飛鳥2号幹線（右岸）その5）改修工事に伴う発掘調査で、対象地は藤原右京七条西一坊（橿原市上飛騨町）にあたる。総長100mの工事区域のうち、中央約80m分は立会に対峙し、残りの西区（約10m×1m）、東区（約10m×1m）を発掘調査した。その結果、古墳時代と古代の遺構（溝等、一部中世を含む）を検出、記録した。	A	順調
------	---	---	---	----

(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究				
【中期目標】 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施すること。				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。 ①適切な作品の収集・修理計画を立て、分かりやすい効果的な展示など、有形文化財の保存と活用を促進するため、所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査を行う。 ②日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。 ③平安時代から江戸時代までの京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。 ④仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。 ⑤アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究を行う。 ⑥有形文化財の保存と活用の向上を図るため、有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究を行う。 ⑦有形文化財の次世代への継承に寄与するため、文化財を活用した効果的な展示や、歴史・伝統文化の理解促進に資する教育活動等に関する調査・研究を行う。				
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
4511-1	(5) 有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進める。 ① 収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究（東京国立博物館） 1) 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究 ① 収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究【東京国立博物館】 1) 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 館蔵品・寄託品、それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・歴史学・考古学・博物館学等の各見地から学会・研	A	順調

4511-2	2) 特別調査法隆寺献納宝物（第33次）「聖徳太子絵伝」第7回	研究会・学術雑誌上で各種発表を行った。 2) 特別調査法隆寺献納宝物（第33次）「聖徳太子絵伝」第7回 本年度は、国宝聖徳太子絵伝10面のうち第9面と第10面を調査対象とした。経年の劣化、補修によって判別の困難な図様の細部について明らかにできた。また、剥落や劣化などにより画の見えないところについて、現法隆寺絵殿に嵌められた吉村法眼周圭充貞の模写(天明7年＝1787)を比較検討することによって、その内容を新たに確認した。	A	順調
4511-3	3) 特別調査「書跡」第9回	3) 特別調査「書跡」第9回 平成元年以降当館で収集した書跡分野に属する古筆切48件について、作品の名称、古筆切としての通称、制作年代、形状、界線について確認した。断簡は原典推定をし、可能な限り『国歌大観』の収載番号との照合を行った。合わせて原装丁の推測、使用された料紙の紙質分析の検討も合わせて行った。今回の調査対象について記載文字を可能な限り解読し書誌情報を収集した。また対象全件について法量を計測し本紙部分の撮影を行った。	A	ほぼ順調
4511-4	4) 特別調査「工芸」第3回	4) 特別調査「工芸」第3回 東京国立博物館の金工・陶磁・漆工の列品について、最新の研究結果を反映させた知見を共有することができた。金工調査では、室町時代の金工品について、表現上の理解が進み、今後研究を行う必要性や将来性を確認した。また、陶磁調査では、昭和初期に評価されたいわゆる鑑賞陶器の傾向について認識を深めることができた。漆工調査では、館蔵の十種香箱の調査を終え、それぞれの特色と制作年代に関して検討を加え、十種香箱の多様性とその変遷について議論を深めた。	A	順調
4511-5	5) 特別調査「彫刻」第1回	5) 特別調査「彫刻」第1回 鎌倉市東慶寺の仏像調査。7軀を調査し、そのうち3軀について従来推測されていた制作年代を訂正すべきという結果に至った。 鎌倉市建長寺開山蘭溪道隆墓塔の調査。制作年代については従来とおり南北朝時代とみられた。なお、この墓塔の内部、下層には埋納物のないことが確認できた。 同寺開山堂床下石室の調査 石室蓋石は鎌倉石（砂岩）製で、開山堂創建期に遡る可能性が考えられる。非常に面白い状態なので、樹脂などで強化しさらに研究を進めることとする。	A	順調
4511-6	6) 特別調査「金地屏風の金箔地についての調査研究」―尾形光琳風神雷神屏風を中心に	6) 特別調査「金地屏風の金箔地についての調査研究」―尾形光琳風神雷神屏風を中心に 当館収蔵の尾形光琳筆「竹梅図屏風」と「風神雷神図屏風」に加え、同時代の土佐光祐筆「栄華物語図屏風」、狩野永敬筆「十二月花鳥図屏風」を対象として、エックス線、蛍光エックス線と実体顕微鏡による分析調査やそのデータの集約を行ない、検討会を開催した。	A	ほぼ順調

4511-7	7) 特別調査「江戸幕府御用絵師板谷家関係資料」を行う。	7) 特別調査「江戸幕府御用絵師板谷家関係資料」を行う。（科学研究費補助金） 伝来資料について、約1,500点（約3,800カット）の撮影を終了するとともに、並行して新たな知見の整理、絵画資料の調査、古文書の翻刻を行った。また、スタッフによる研究会を開き、今年度はとくに板谷家が手がけた「東照宮縁起絵巻」に関する資料を調査し、名古屋東照宮等にて作品の調査撮影を行なった（24年2月21日～23日）。また23年度までの成果を東京国立博物館所蔵の住吉家、板谷家の本画とともに展示した。	A	順調
4511-8	8) 油彩画の材料・技法に関する共同調査	8) 油彩画の材料・技法に関する共同調査 平成20年11月から開始し、可能な限り月1回のペースで調査を進めてきた。調査は朝10時から午後5時までであり、1回の調査では終了しない調査もあるが、これまでのところ調査が終了した作品は、22点である。次第にデータが蓄積されているが、その中から、平成21年度は3点についての調査内容を『東京国立博物館紀要』（第45号、2010年）にて、平成23年度には、『MUSEUM』631号および635号にて、2点ずつ計4点についての調査内容を発表している。	A	順調
4511-9	9) 目録学の構築と古典学の再生に関する調査研究	9) 目録学の構築と古典学の再生に関する調査研究（科学研究費補助金） ・館蔵の古典籍、特に国宝「九条家本延喜式」の本文及び紙背文書に関する調査研究を行った。 ・上記研究の成果として影印本『国宝九条家本延喜式』の刊行を開始、継続した（第1巻刊行）	A	順調
4511-10	10) 文化財保護の歴史に関する基礎的研究	10) 文化財保護の歴史に関する基礎的研究（科学研究費補助金） 東京国立博物館が収蔵する文化財保護に関連する作品や資料について、展示履歴などの情報を参考にして作成した調査対象リストをもとに、デジタルカメラによる記録撮影やスキャニングによるデータ収集を行った。また、特集陳列の開催による研究成果の公開や、国内在の文化財保護の歴史に関わる事例の検討を実施した。	A	順調
4511-11	11) 占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究	11) 占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究（科学研究費補助金） 本研究は、博物館関係文書データベース構築のためのCIE文書の調査を行った。文書検索は国立国会図書館が資料選別のため付けた分類記号（十進分類）及び分類記号ごとの文書目録（荒畵、内海愛子、林博史『国立国会図書館所蔵 GHQ/SCAP 文書目録』全11巻）を手がかりに、本研究に該当する文書を探し出し、和訳を行い、データを蓄積した。	A	ほぼ順調
4511-12	12) 宮廷工芸に関する物質文化的研究を行う。	12) 宮廷工芸に関する物質文化的研究を行う（科学研究費補助金） 本年度は、東京国立博物館、宮内庁書陵部、国立公文書館、葵祭行列保存会、北京故宫博物院を中心に調査し、その調査内容に分析と考察を加えたものを発表した。発表内容は次の通り。「日本宮廷生活文化的伝承 ―以賀茂祭を中心―」（非物質文化遺産保護「東亜経験」国際学術研討会（平成23年7月16日 中国四川省 四川音楽学院綿陽芸術学院）、「清朝の礼制文化」（東京国立博物館特別展『北京故宫博物院200選』図録 平成24年1月2日）。	A	達成

4511-13	13) 日本近世実景図研究を行う。	13) 日本近世実景図研究を行う ・本年度は、東京国立博物館所蔵実景図作品を中心に検討・調査を行うとともに、館外の作品に関しても調査を依頼した。特に長崎・大分での調査に同行できたことは、本研究にとって大きな進歩となった。 ・本プロジェクト責任者であった大橋美織が、9月末をもって静嘉堂文庫美術館へ異動したため、田沢裕賀がプロジェクトを引き継ぎ、スタッフである大橋とともに研究を継続させることとなった。	A	ほぼ 順調
4511-14		14) 古筆切紙背の史料学的研究（科学研究費助成金） 古筆切の紙背に文字等が記述されている事例を抽出し、形態及び判読によって内容を推測して、どのような典籍や文書が古筆切の紙背に出現するかを考察した。特に同一手鑑に貼り込まれた複数の消息切（書状）が、実は紙背に同じ典籍が書写されていることが判明し、特定の典籍を解体して、裏面に書かれた書状類を「古筆」として手鑑の各所に貼り込む場合があることを確認できた。	A	順調
4511-15		15) 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金） 本年度は、昨年度調査に引き続き、洋画家・岡田三郎助が蒐集した古染織（時代裂）コレクションの内、現在埼玉・遠山記念館に所蔵されている資料、および、ボストン美術館に所蔵されるビゲローの古日本染織コレクション、ロサンジェルス・カウンティ美術館に所蔵される在米個人コレクターが蒐集した江戸時代の日本の袈裟コレクション、建築家フランク・ロイド・ライトが蒐集した古日本染織裂コレクションを調査し、明治後期から大正初期にかけて国内外で蒐集された古日本染織コレクションのデータを集積し、その傾向等の分析を行った。	A	順調
4511-16		16) 絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究（科学研究費補助金） 本年度は、絵巻の伝来、鑑賞歴といった情報を収集するため、まず、古代中世の文献資料に記載された絵巻関係資料の抜き出しとデータ化を進めた。また、東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査に着手し、主に近世に制作された模本から作品所蔵情報を得る基盤を整えた。同時に、近代における作品の移動等に関する情報を収集するため、東京文化財研究所所蔵の売立目録の調査を開始し、そこに記載された情報のデータ化を進めた。	A	順調
4511-17		17) 狩野晴川院養信による寺社宝物模本の基礎的研究（学術研究助成基金助成金） 本年度は東博が所蔵する木挽町狩野家伝来の模本類について研究を進めるにあたり、基礎的な情報収集と整理を実施した。具体的には、資料分類P（歴史資料）と資料分類A（絵画）に属する膨大な資料類から、木挽町狩野家伝来の模本類を特定する作業をし、かつ寺社宝物の模本と判明した資料について撮影を実施した。また木挽町狩野家伝来模本類を含む東博所蔵の資料類データベース公開に向け、情報処理とシステムのアレンジを進めた。	A	順調
4511-18		18) 黒耀石の獲得と消費からみた完新世初期人類社会の形成過程（学術研究助成基金助成金）	A	順調

4511-19		本研究では、更新世末から完新世初期における社会の複雑化の過程を考察するために、日本列島中央部地域を対象として、人類の資源開発行動に関するモデルを構築する。本研究の特色は当時の主要な資源の一つである黒耀石に着目し、原産地の開発の様相と消費地での分布状況とを総合的に理解するための枠組みを構築できる点にある。特に、東京国立博物館所蔵の長野県諏訪湖底曽根遺跡採集の資料等を対象に基礎研究を実施し、その成果を公開する。		
		19) 東京国立博物館所蔵国際交流史料データベース（科学研究費補助金・研究成果公開促進費） 当館所蔵の史料の内、平安時代後期に活躍した天台僧円珍の入唐中に中国・唐の地方役所と円珍自身や大宰府などの官衙との間で取り交わした文書と、江戸時代の江戸幕府と朝鮮王朝間の外交である朝鮮通信使や琉球王府の接待に関する記録類や書契について調査・研究を実施し、研究成果を解題としてまとめ、史料の全撮影を実施して、解題・書誌データ・史料撮影画像を当館のWebページ上の「東京国立博物館情報アーカイブ」(http://webarchives.tnm.jp/archives/)で公開した。	A	順調
4511-20		20) 諸先学の作品調査・画像資料類の保存と活用のための研究・開発（科学研究費補助金） 本年度は、日本の絵巻研究の第一人者である梅津次郎氏の自筆調査書類、紙焼き写真類、研究資料類等の調査・研究を行なった。東京文化財研究所は梅津次郎氏の没後、1988年と2008年の2度にわたり、氏のご遺族より研究資料の寄贈を受けたが、そのうち、本年度は35mmフィルムを中心とした画像資料の整理を進めた。前年度までにフィルムコンタクトシートの大半のスキヤニングを終えたが、本年度は全フィルムのスキヤニングを終え、さらに各フィルムを1コマずつ分割し、作品情報を付与した。モノクロの画像ながら現在は所在不明な作品も含まれ、今後、研究資料としての活用が大いに期待される。	A	順調
4511-21		21) 絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的世界観に関する研究（科学研究費補助金） 本研究では中世絵巻に描かれた多様な「場」を「型」として捉え横断的に検討する。特に分担者は、異国（唐・天竺・蝦夷など）や異域（地獄・極楽・竜宮など）、そして神仏化現の舞台となる架空の「場」を構成する建築や環境、そしてそこで用いられる「もの」が、どのように「本朝」のそれと描き分けられ、関連付けられているのか、描かれた「場」の抽出・収集と分析をおこなった。今年度は特に「聖徳太子絵伝」、「清水寺縁起絵」の検討を進めた。	A	順調
4511-22		22) 草創期の磁器における『和様化』の背景について（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金） 初期伊万里作品を中心として、館内収蔵品および他機関（九州陶磁文化館、九州国立博物館、大和文華館）の収蔵品の熟覧調査を実施。九州では、大川内、高取の窯跡を訪ね伊万里焼周縁について見知を深め、研究分析を進めた。	A	ほぼ 順調

4511-23		23) 古筆切の発生とその鑑賞に関する基礎的研究(メトロポリタン東洋美術研究センター東洋美術研究振興基金) 古筆切の本紙および附属の鑑定札に関する総合的なデータを収集した。あわせて、日記類などから古筆切に関連する記述を抜き出し、データ化を進めた。一部、東京国立博物館所蔵作品の鑑賞の歴史を示す資料を調査し、研究分析を進めた。	A	順調
4512-1	(京都国立博物館) 1) 訓点資料としての典籍に関する調査研究	【京都国立博物館】 1) 訓点資料としての典籍に関する調査研究 中国・元時代、至元 28 年(1291)の「紺紙金銀字華嚴經」4 帖の見返し及び本文を詳しく調査した結果、見返し絵の下書きとして角筆を用いた痕跡を確認し、本文にも角筆でつけた角点の存在を確認した。従来から、角点については、加点時期が特定できる資料が少ないだけに変、重要な発見となった。	A	順調
4512-2	2) 彫刻に関する調査研究	2) 彫刻に関する調査研究 ・特別展覧会「細川家の至宝」展を担当した。 ・特別展覧会「法然」細川家の至宝」展への出陳作品について調査研究をおこない、それらの成果を会場解説および講座、セミナー等で公表した。	A	順調
4512-3	3) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究	3) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 野崎家塩業歴史館(岡山)・彦根城博物館(滋賀)・九州陶磁文化館(佐賀)などにて伝世古陶磁、京都市埋蔵文化財研究所・大阪歴史博物館・長崎市教育局委員会などにて出土品の調査を行い、900 件あまりの調書を作成した。また、当館で所蔵している仁清御室窯跡出土陶片について、平成 22 年度からの継続事業(西田記念東洋陶磁史研究助成事業)として行っていた実測図作成作業を引き続き実施し、約 19 点をさらに図化すると共に、観察記録(調書)の作成を行った。	A	順調
4512-4	4) 近代建築に関する調査研究	4) 近代建築に関する調査研究 宮内省書陵部所蔵の現場日誌との対照により、伊豆の沢田石で造られた西正面の破風三面と中央の彫刻、柱、額面石、それに石盤葺の丸屋根など、本建築の特色あるデザインが、造営現場とその提案を受けた設計者片山東熊よって着工後 9 ヶ月の時点から進められた大規模な設計変更の結果であること、それにもなって作成されたエスキースから基本図、石割図、矩計図、模型などが本建築資料に含まれ、建築の構造に及ぶ形成プロセスの詳細を確認できることが判明した。	A	ほぼ順調
4512-5-1	5) 平成 23 年度から 24 年度に開催する特別展覧会等について、調査研究	5)-1 特別展覧会「中国近代絵画と日本」に関する調査 前年度から継続する京都国立博物館須磨コレクションの調査をふまえて、平成 24 年 1 月から 2 月にかけて特別展覧会を開催した。同コレクションから展覧会に陳列する作品を選定し追加調査を行ったうえで、新たに国内外から作品を借用し、中国近代絵画の全体像が把握できる展示構成とした。あわせて展覧会図録を刊行し、国際シンポジウムや関連の土曜講座を実施。日本では認知度が低い中国近代絵画への理解を深める機会を提供した。	A	順調

4512-5-2		5)-2 特別展覧会「王朝文化の華 陽明文庫名宝展」に関する調査研究 ・都合 4 回にわたる調査を実施し、陽明文庫からは、国宝 6 件、重要文化財 60 件を含む 131 件を選定し、関連する作品を 9 件加えて、全体で 140 件とすることにした。 ・全体の構成も、「近衛家の系譜Ⅰ～Ⅱ」「陽明文庫の至宝Ⅰ～Ⅲ」「宮廷貴族の生活Ⅰ～Ⅲ」というテーマを設定して展示を行うことで合意を得た。	A	順調
4513-1	(奈良国立博物館) 1) 館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる。	【奈良国立博物館】 1) 館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる 仏教美術及び奈良に縁の深い文化財を柱とする当館の運営方針に沿って精選された作品を、新たに館蔵品・寄託品に加えた。受け入れに際しては詳細な調査を行った。名品展では、収蔵施設の修理等の事情で一時的に寄託された近在社寺所蔵の重要作例を、調査のうえ展示(特別公開)したほか、ここ数年の新収蔵品をまとまった形で公開するなどの実績を挙げた。館蔵品・寄託品等の継続的な調査の成果は、展示会場内の解説や各種刊行物等に反映された。	A	順調
4513-2	2) 歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	2) 歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する 歴史学・考古学・美術史学等、各研究員がそれぞれの専門分野に沿って館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果は展示・刊行物・講座・新聞における作品解説等に反映された。調査研究活動の展開にあたっては、これを個人単位で行うだけでなく、研究分担者・連携研究者として各種科研に参加するなど、内外の研究プロジェクトに積極的に関わることを重視し、より広い視野に立つて学界に貢献する実績を挙げた。	A	順調
4514-1	(九州国立博物館) 1) X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	【九州国立博物館】 1) X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析 泉屋博古館の所蔵品を中心に X 線 CT、精密三次元計測機、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを構築した。この成果を基に、泉屋博古館にて特別展を開催すると共に、図録を作成した。また、東アジア文化遺産保存学会(中国・呼和浩特市)で研究発表を行った。	S	達成
4514-2	2) 平成 20 年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う。	2) 平成 20 年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う ・平成 23 年度西部工芸展、日本伝統工芸展など、今年度開催の工芸展で作品調査を行った。陶芸部門では、西部工芸会陶芸部会の研究会に参加し、新たな創作活動の展開について調査し、これまでに対象となっていなかった若手作家も調査に加わった。 ・タイと共同で開催した平成 23 年度トピック展「日本とタイーふたつの国の巧と美」展では、展覧会の一つの柱として伝統工芸を位置づけ、日本とタイの伝統工芸を比較し、現代に展開する工芸を紹介した。同時に、伝統工芸の技術を示すワークショップを開催した。	A	順調

4514-3	3) 旧石器から弥生時代の日本人の起源について研究し、展示に反映する。	3) 旧石器から弥生時代の日本人の起源について研究し、展示に反映する 日本列島に最初に人類が到来した地域の一つと考えられる九州において、最古の時代—旧石器時代がどのような時代であったのか資料調査を行った。その結果を、九州歴史資料館との共催事業として文化交流展示トピック展示「九州最古の狩人とその時代」として開催した。また、教育普及事業として石器作りのワークショップも行った。	A	順調
4514-4	4) 縄文時代の火焔土器について研究し、展示に反映する。	4) 縄文時代の火焔土器について研究し、展示に反映する システィーナ礼拝堂の壁画など美術陶板を唯一制作している大塚オーミ陶業株式会社との共同研究で、火焔土器の立体陶板の試作品を製作することに成功した。また、当館内で新潟県津南町所蔵の火焔土器について、科学的な調査をおこない、データを収集し、これを基に製作技法等についての研究を進めた。視覚障がい者への活用への道を開きたい。	A	ほぼ順調
		5) 館蔵品を中心とした漆器の調査研究 本年度は当該テーマについて、以下の成果を得た。 ・館蔵品のほか、関連する他収蔵品についても調査をおこない、当館でCT撮影などの科学分析が可能な作品については貴重なデータを収集した。 ・上記の調査における成果を、トピック展での展示や展覧会図録を通じて、観覧者に公表した。	A	順調
4521-1	②アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究 (東京国立博物館) 1) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	②アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究 【東京国立博物館】 1) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究 ・漢籍は、これまでに江戸幕府旧蔵資料である医学関係のものを中心に、調査を行ってきたが、一段落がついたため、全体の調査に着手し、本年度は485点の書誌学的調査を終了した。 ・洋書については、ほぼ全体にあたる973点の書誌学的調査をほぼ終了し、図書館システムへのデータの入力を行った。	A	順調
4521-2	2) 東洋民族資料に関する調査研究	2) 東洋民族資料に関する調査研究 東洋民族の収蔵品のうち、台湾先住民族の生活および宗教儀礼にかかわる資料の未調査分について調査した。調査で得られた情報をデータベースに反映させることで、研究・陳列・保管・修理などに資する基礎情報が従来よりも一層充実した形で整備された。また、過去に調査済みの分とあわせて台湾先住民族資料の基礎調査を完了させることができた。	A	ほぼ順調

4521-3	3) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	3) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(科学研究費補助金) 装飾料紙を用いた古筆・典籍を中心に、これまでに作成した対象作品のリストから調査を進めた。国内では、東京国立博物館・京都国立博物館・九州国立博物館・陽明文庫等、海外では中国の香港芸術館、上海博物館、北京故宫博物院等、スイス・リートベルク博物館等に収蔵されている作品について、デジタル写真撮影と、作品の筆跡および料紙に関する調査を実施した。	A	順調
4521-4	4) 中国書画の表装に関する基礎的研究	4) 中国書画の表装に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 『書史』『画史』北宋・米芾遠などの中国歴代の文献から、書画の表装に関する記載を収集・整理した。また、北京故宫博物院・遼寧省博物館・京都国立博物館・大阪市立美術館・台東区立書道博物館・東京国立博物館に所蔵される主として中国の書画を調査し、表装の諸データおよび画像データを収集した。	A	ほぼ順調
4521-5		5) 光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究(科学研究費補助金) 高雄曼荼羅2幅のうち胎蔵界曼荼羅について、高精細デジタルカラーおよび赤外線画像撮影を、京都国立博物館にて実施した。また空海が滞在し所謂「根本曼荼羅」を賜った西安において、西安碑林博物館、陝西歴史博物館、青龍寺など関連する作品、史跡の調査を実施した。根本曼荼羅は高雄曼荼羅のもととなった作品であると考えられており、唐時代の作例の調査は次年度以降の各研究にとって重要な要素となる。	A	ほぼ順調
4521-6		6) 「冢形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究」(学術研究助成基金助成金) ・科学研究費補助金C・B(2000～2002・2005～2007年度)による調査・研究成果を基に、連携研究者および各地の研究協力者と共に研究会を組織・開催し、各地の主要古墳出土埴輪群の分析結果を検討した。 ・また、補足調査を実施し、発掘調査によって冢形埴輪を含む埴輪配列が確認された良好な冢形埴輪資料を再度精査して、埴輪樹立時の群構成と配置・階層性を復元する基礎資料を整備した。	A	ほぼ順調
4521-7		7) 隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金) 中国各地において現地調査を行い、仁寿舍利塔起塔寺院に関する多くの地理的データ及び、文献的資料を多数収集することができた。	A	順調
4521-8		8) 南宋絵画史における仏画の位相—都と地域、中国と周縁— ・作品調査：東京国立博物館所蔵品、関西を中心とする美術館、および北京故宫博物院展開催にともなう調査を行った。 ・事業：今年度は「関西中国書画コレクション展」の開催年であり、10月には記念のシンポジウムが開催された。また北京故宮展の開催にともなう1月には記念のシンポジウムが開催された。そのほかの研究会、ワークショップ等に参加することができた。 ・成果：論文と研究発表、講演の形で公開することができた。	A	順調

4521-9		9) アジアの本地螺鈿—その源流、正倉院宝物への道をたどる— （科学研究費補助金） 本研究の調査において採取したベトナム螺鈿の器物資料の資料的価値について、「ベトナム螺鈿の器物資料に関する知見」と題する論述を九州国立博物館紀要『東風西声』第7号（2012年3月刊行）に寄稿した。ベトナム螺鈿の素材・器種・意匠などについて、器物の背景にあるベトナムの歴史や文化についても理解を及ぼす必要の在ることを論じた。	A	ほぼ 順調
4521-10		10) 高雄曼荼羅の調査研究 （メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金） 高雄曼荼羅のうち胎藏受曼荼羅について、高精細デジタル画像および赤外線画像の撮影を実施した。現状では変色のため確認困難な銀泥線を、画面の9分の1のみであるが画像処理によって本来の銀泥の色に復元をした。それによって描線の全てを見ることができるようになり、製作当初の表現を考える上で貴重な資料となった。	A	ほぼ 順調
4523-1	(奈良国立博物館) 1) 中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	【奈良国立博物館】 1) 中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する 学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で職員の派遣・受入を実施し、活発な研究交流・情報交換を行った。また「誕生！中国文明展」の開催を通し、平成17年以来交流を行ってきた中国河南省の文化財に関する調査研究の成果を、展示及びこれに伴う講座等に反映させた。このほか中国（遼寧省）、韓国（ソウル、扶余）において将来の特別展に向けた文化財調査を実施する傍ら先方諸機関と研究交流を行い、調査資料及び有益な情報を蓄積した。	A	順調
4523-2	2) 日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	2) 日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる 特別展「天竺へー三蔵法師三万キロ」開催に伴い、日本の古代～中世における中国・インド両国に対する認識、仏教を介した両国の文化・文物の受容、玄奘のインド求法行がそれらに与えた影響等の問題について調査研究を行い、その成果を当該展示・刊行物・講座等に反映させた。またこれ以外にも日本とアジア諸国の文化交流に関連する内外の研究プロジェクトに積極的に参加し、研究発表・論文等を通してその成果を公表した。	A	順調
4524-1	(九州国立博物館) 1) 平中国内モンゴル自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究を進め、成果を特別展に反映する。	【九州国立博物館】 1) 平中国内モンゴル自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究を進め、成果を特別展に反映する 4月の現地調査及び昨年度までの成果をふまえ、9月27日から11月27日の日程で特別展「草原の王朝 契丹—美しき3人のプリンセス」を開催した。これまで、契丹文化は遊牧文化という側面が強調されてきた。本特別展および図録や講演会においては、遊牧文化という側面にくわえ、契丹文化の重要な柱となる、唐との連続性、広域な対外交渉、仏教文化にも十分に焦点をあて、多様な契丹文化のすがたをひろく紹介することができた。	A	達成

4524-2	2) 館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画の研究を行い、展示に反映する。	2) 館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画の研究を行い、展示に反映する ・本年度は当該テーマについて次の二つの観点から研究し、下記の成果を得た。 ○館蔵の水墨画などを実見調査し、さらに必要に応じて光学調査もおこなった。その成果をもとに、作品を筆線と墨面の観点から分析して、表現の特質を考察した。 ○上記の作品に関連する文献を収集し、作品を歴史的に考察するための基本的な資料を整えた。 ・その成果を特集陳列や図録作成などを通じて観覧者に提供した。	A	順調
4524-3	3) 中国湖南省の馬王堆漢墓に関する調査研究を行い、将来の特別展に反映する。	3) 中国湖南省の馬王堆漢墓に関する調査研究を行い、将来の特別展に反映する 前年度までに、湖南省に事前調査に赴き、作品の状態確認を行ない、出品候補作品とその保全措置について協議を行ってきた。また、元京都大学人文科学研究所教授の曾布川寛氏らと日本国内における馬王堆漢墓の研究動向について研究会を行ない、準備を進めてきた。しかしながら、東日本大震災により巡回予定先の仙台市博物館の受入れが不能となるなど、運営面での見通しが立たなくなり、展覧会実施の計画自体が中止となった。	F	
4524-4	4) 朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究を行い、将来の特別展に反映する。	4) 朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究を行い、将来の特別展に反映する ・韓国の国立中央博物館及び国立公州博物館、国立扶余博物館での予備調査と、共同研究の打合せを行った。 ・韓国での現地調査や、日本に伝来した文化財の調査研究を実施した。 ・韓国国立中央博物館で、文化庁、滋賀県とともに海外日本古美術展を実施した。 ・国際シンポジウムを開催した。(24年3月10日)	A	順調
4524-5		5) X線CTによる九州所在彫像重要作例の三次元的解析 （科学研究費補助金） 平成22年度からの継続研究であるが、今年度は特別展「黄檗 - OBaku - 京都宇治・萬福寺の名宝と禅の新風」に出陳した主要彫像およびその関連彫像について、X線CT調査やX線撮影を重点的に実施した。これまで未解明であったこの時期の中国木彫仏の内部構造に関する基礎的データを採取・蓄積した。その成果は報道発表や地元での調査報告講演会などで積極的に公表した。	S	順調
4524-6		6) 南アジアと東方アジアの螺鈿構造—技術比較の視点から— （メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金） 本研究では、16～17世紀の大航海時代にヨーロッパからインド、東南アジア、そして極東アジアにかけて盛んに交易活動を行ったポルトガルやスペイン、さらにそうした交易品を入手したオーストリア、ドイツ、イギリス各国の博物館・美術館、また王宮城址や寺院などで調査を実施し、当時のインド螺鈿器の具体的な様相を確認すると共に、ヨーロッパ人によって注文され日本から多数輸出された南蛮漆器などとの関係などについても様々な成果を得ることができた。	A	順調
4524-7		7) 平山郁夫 画業と文化財保護活動に関する調査研究 来年度4月3日～5月27日開催予定の特別展「平山郁夫 シルクロードの軌跡」実現に向けて基礎的な情報ならびに写真資料などの収集、出品候補作品の調査と選定お	A	順調

		よび関係諸機関との調整などを実施した。また、本展の内容を広く一般の方々に知っていただけるように、記念講演会やワークショップなどについて企画した。		
4532-1	③ 京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 (京都国立博物館) 1) 近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究を行う。	③ 京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 【京都国立博物館】 1) 近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究を行う 京都府木津川市加茂町所在の海住山寺の文化財総合調査をおこなった結果、中世の仏画・近世の絵画・金工・陶磁器などに新たな発見があった。	A	ほぼ順調
4532-2	2) 近世絵画に関する調査研究を行う。	2) 近世絵画に関する調査研究を行う 当館発行の学叢第33号に、次の論文を執筆し、館蔵品の文化財的価値を明らかにした。 ○山下善也「狩野永良の秘伝画法書について」 ○水谷亜希「新出の「やすらい祭絵巻」・「牛祭絵巻」（京都国立博物館蔵）について—松村景文・河村文鳳・上田秋成らによる祭礼の記録—」	A	達成
4542-1	④ 仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 (京都国立博物館) 1) 鎌倉仏教とその造形に関する調査研究を行う。	④ 仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 【京都国立博物館】 1) 鎌倉仏教とその造形に関する調査研究を行う 仏教美術研究上野記念財団の助成によって、鎌倉仏教に関する資料の調査・撮影を実施し、研究発表と座談会「浄土宗の文化と美術」を開催した。	A	順調
4543-1	(奈良国立博物館) 1) 平成24年度春季特別展「貞慶（仮称）」、25年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う。	【奈良国立博物館】 1) 平成24年度春季特別展「貞慶（仮称）」、25年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う 平成24年度春季特別展「解説上人貞慶—鎌倉仏教の本流」、夏季特別展「頼朝と重源（仮称）」、25年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」、夏季特別展「中国遼寧省近代仏教文物展（仮称）」、26年度特別展「百済（仮称）」等に向けて関連作品の調査を行った。うちある程度内容が確定している特別展（「貞慶」展等）については、特定作品の重点的な調査を行った。また他機関との共催展（「貞慶」「遼寧省」展等）については、相手先との学術面での協議や合同調査を実施した。	A	順調
4543-2	2) 南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成23年度特別展「天竺へ—三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にまずは与喜の神垣—與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、24年度特別展「貞慶（仮称）」、25年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	2) 南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成23年度特別展「天竺へ—三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にまずは与喜の神垣—與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、24年度特別展「貞慶（仮称）」、25年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる 奈良を中心とする諸社寺等への働きかけを行って薬師寺（奈良市）・與喜天満神社（桜井市）・当麻寺（葛城市）・法隆寺（斑鳩町）・談山神社（桜井市）・春日大社（奈良市）	A	順調

4543-3	3) 正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	等の所蔵文化財を調査した。その成果を23年度に実施した展示及びそれに伴う図録類や講座等に反映させるとともに、今後の展示活動等に活用できる資料の蓄積、将来の調査に向けた調整などを行った。 3) 正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる 正倉院宝物に関連する調査研究を積極的に進め、その成果は当館が編集・刊行した展覧会図録『第63回正倉院展』に掲載されたほか、「正倉院展」会場での解説パネル類、新聞連載記事、講座・シンポジウムにおける口頭発表等に反映された。また明治時代に奈良県物産陳列所として建立され、このほど改修工事を終えて23年7月に再オープンした、敷地内の仏教美術資料研究センターの文化史的意義に関する調査研究を行い、その成果を図録にとりまとめて公開した。	A	順調
4543-4	4) 東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	4) 東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する 前年度に引き続き当館の寄託品である国宝 信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）を対象とする光学的調査を中心に実施した。すでに撮影を終えていた同絵巻全3巻の全紙にわたる高精細カラー画像、近赤外線画像、可視光励起による蛍光画像を詳細に検討し、顔料調査の必要ポイントを確定し、蛍光エックス線分析器を用いて約半分のポイントまで光学的調査を実施し、顔料の同定に資する基礎的データを蓄積することができた。	A	順調
4554-1	⑤ アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 (九州国立博物館) 1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究を行う。	⑤ アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 【九州国立博物館】 1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究を行う 昨年来継続してきたタイ国芸術局との研究交流の成果として、平成23年4月12日～6月5日まで「日本とタイ ふたつの国の巧と美」帰国展、また、韓国国立中央博物館との研究交流の成果として「日本 仏教美術—琵琶湖周辺の仏教信仰」を韓国国立中央博物館において12月20日～平成24年2月19日まで実施した。これらはいずれも文化庁との共催事業である。	A	順調
4554-2	2) アジアの木地螺鈿—その源流、正倉院宝物への道をたどる—の調査研究を行う。	2) アジアの木地螺鈿—その源流、正倉院宝物への道をたどる—の調査研究を行う 本研究の最終年度である今年度は、これまでに行ってきた木地螺鈿を主体とするベトナムの螺鈿について、おそらく世界で初めて総合的な研究論文を発表した。さらに中国での研究発表と調査、またベトナムでの研究発表と調査によりその成果を各地で広く公表し、より広範な関心の喚起と成果の還元を行うと共に、まだまだ不明点の多いその実態について、さらなる究明を目指した。また、国内各地に於いても調査を実施した。	A	順調

4554-3	3) 琉球との交流の視点から京都檀王法林寺に関する研究を行い、展示に反映する。	3) 琉球との交流の視点から京都檀王法林寺に関する研究を行い、展示に反映する ・トピック展示「琉球と袋中上人」展（会期 平成 23 年 11 月 1 日から 12 月 11 日）を沖縄県立博物館・美術館と共催で開催した。 ・展覧会図録「琉球と袋中上人」を刊行した。 ・関連催事として講演会「袋中上人とエイサー・檀王法林寺」を開催した。うるま市無形文化財 平敷屋エイサー公演を行った。共に 11 月 13 日。 ・沖縄県立博物館・美術館での会期は平成 24 年 1 月 25 日から 2 月 19 日まで。	A	順調
4561-1	⑥ 有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 （東京国立博物館） 1) 博物館の環境保存に関する研究。	⑥ 有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 【東京国立博物館】 1) 博物館の環境保存に関する研究 今年度は文化財の保存環境の内、特に輸送環境と収蔵環境について、下記概要に示す調査研究を行った。文化財梱包に用いられる緩衝材の振動特性について新たな知見が得られたこと、および、保存箱製作に使用される接着剤の硬化過程における揮発成分濃度の変化を科学的に解析できたことが主な成果である。	A	順調
4561-2	2) 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究。	2) 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金） これまでに集積したカルテデータのデジタル化を進めながら、管理分析サブシステム「文化財収蔵場所環境情報管理システム」の整備、温湿度センサー及び 2 次元バーコードを用いたセンサーサブシステムの整備を行った。管理・分析サブシステム、センサーサブシステム、列品検索データベースシステム（プロト DB）とのネットワークを用いて、包括的保存システムの実験的運用を開始した。	A	順調
4562-1	（京都国立博物館） 1) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究	【京都国立博物館】 1) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究 平成 23 年度に新規搬入された作品の「修理計画書（設計書）」にもとづき、データを入力し、平成 22 年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修理解説書（報告書）」にもとづき、データを追加、更新した。また、平成 19 年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 8 号に掲載し、修理時に発見された銘文 6 件を「銘文集成」として報告した。	A	順調
4562-2	2) 文化財の保存・修復に関する調査研究	2) 文化財の保存・修復に関する調査研究 京都国立博物館蔵品「銀字華厳経」の修理にあたって、経文の文字が銀の細かい粒子で描かれていることを、電子顕微鏡などを駆使して明らかにすることができた。また館蔵品の印籠のマイクロフォーカス X 線 CT によって、内部を精細に観察し、材質が薄い革か紙製であることを明らかにした。さらに、昨年に続き、長野県中野市柳沢遺跡出土の銅鐸、銅戈の分析と埋蔵環境の評価を行った。	A	順調
4563-1	（奈良国立博物館） 1) 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	【奈良国立博物館】 1) 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る ・展示室、展示ケース内に設置した温湿度センサーのデータを分析して、展覧会ごとにその所見を報告書にまとめた。 ・正倉院展終了後に展示ケース内から回収した粉塵を電子顕微鏡で観察し、粉塵の種類および単位面積当たりの量を計測して、展示ケースの気密性向上に資するデータを蓄積した。 ・展示室・収蔵庫などに設置された調査用トラップを、毎月 1 回当館研究員が設置回収し、文化財害虫の生息状況を報告書にまとめて害虫被害回避につなげた。	A	順調
4563-2	2) 館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	2) 館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する ・館蔵品、寄託品について保存状態を中心に入念な調査を実施し、その所見をもとに保存カルテを作成した。 ・館蔵品、寄託品の修理に際し、保存カルテや新規に実施した保存状態調査の所見をもとに修理調書を作成し、修理方針を決定した。 ・文化財保存修理所で修理中の木造文化財について実施した樹種同定調査や、同じく修復文化財から発見された銘文の調査を実施し、その成果を当館紀要に掲載する準備を進めた。	A	順調
4563-3	3) 館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。	3) 館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する ・館蔵品、寄託品の修理に際し、蛍光 X 線を用いた材料調査、近赤外線写真やボリライトを用いた補筆・補絹分布調査、透過 X 線を用いた構造調査等を実施した。 ・館蔵品、寄託品のうち絹製文化財の修理において電子顕微鏡を用いた料絹の組成調査、紙製文化財の修理において同じく料紙の繊維調査を実施し、その所見を修理に用いる補絹・補紙の調製に反映した。 ・文化財保存修理所の修理寄託中の仏像について、蛍光 X 線を用いた材料調査を実施した。	A	順調
4564-1	（九州国立博物館） 1) 文化財の材質・構造等に関する共同研究	【九州国立博物館】 1) 文化財の材質・構造等に関する共同研究 特別展『黄檗展』で展示した長崎市聖福寺釈迦如来座像の調査を実施した。腹部像内から金属製の五臓を含む複雑な納入品を発見した。この発見は国内外で 5 例目の発見であり、納入品の当初の状態を非接触で発見したのは世界でも初めての例である。	S	順調

4564-2	2) 博物館における文化財保存修復に関する研究	2) 博物館における文化財保存修復に関する研究 吉備国際大学 2 名、九州産業大学 2 名、別府大学 2 名、佐賀大学 1 名、広島市立大学 1 名の計 5 大学 8 名が参加した。少人数のため、実践的な研修が実施できた。研修会終了後、参加学生は修復技術者になりたいという思いを一層強くした者、将来何らかの形で文化財の保存に関わりたいと思う者など、修復技術者の育成だけでなく、文化財保護への理解者の増加にも寄与した。	A	順調
4564-3	3) 博物館危機管理としての市民協同型 I P M システム構築に向けての基礎研究	3) 博物館危機管理としての市民協同型 I P M システム構築に向けての基礎研究 ・研修会等参加者は、全国の美術館・博物館の学芸員およびボランティアからなるが、毎回大変熱心な参加状況であり、学芸員・市民の関心の高さがうかがえ、積極的な意見を集約することが可能となり、ミュージアム IPM 支援者研修プログラム案策定に充分活かすことができた。今後は、本プログラムにより支援者育成を段階的に進める目途が立てられた。公開シンポジウムでは専門家の講演と事例報告等により、地域や市民の理解を得られた。 ・平成 23 年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業「市民と共に ミュージアム IPM」を軸に市民協同型 IPM システム構築に関する研究を展開しその成果は、事業費より 3 冊の報告書にまとめた。平成 23 年度 IPM 事業の内容を総括した研究成果を 1 冊（総合版）418 頁、内容を簡潔に要約した研究成果普及版 2 冊（研修編 58 頁、シンポジウム編 48 頁）を刊行した。	A	ほぼ順調
4564-4	4) 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCO との共同）	4) 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCO との共同） ・中国四川省において、各国の調査状況を報告する会議を開催した。四川省内の二箇所の紙産地 夾江県と梁平県を調査して、映像記録や調査カードを作成した。 ・韓国慶尚北道開慶では、無形文化財の紙工房を調査し、映像記録、調査カードを作成した。	A	順調
4564-5	5) 日本の文化財修理と保存、復元に関する調査研究を進め、成果を特別展に反映する。	5) 日本の文化財修理と保存、復元に関する調査研究を進め、成果を特別展に反映する 長い歴史を経て伝わった美や宝は、その保存修理の在り方も時代の美意識や技術に基づく判断や価値観を物語る。本研究により、文化財を身近に感じ、守り継がれる理由、引き継ぐ意志や営みにも想いをはせる場となることを願い、展覧会を企画した。九州初公開の国宝や皇室の名宝と模写・模造の最高傑作を通して、土蔵や校倉に収め定期的曝露を行い、数十年、数百年おきに修理をくり返すことにより、日本の美や宝が守り伝えられてきたことを紹介することができた。	A	順調
4571-1	⑦ 文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 (東京国立博物館) 1) 博物館環境デザインに関する調査研究	⑦ 文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 【東京国立博物館】 1) 博物館環境デザインに関する調査研究 ・通常の案内サイン整備に加え、デジタルサイネージ利用の実験的導入により、その効果を検証した。 ・140 周年記念にあたり設定された『伝統と品格』を、便殿の展示/施設利用として具	A	順調

4571-2	2) 博物館教育に関する調査研究	現化した。 ・東博の新キャラクターを空間化・サイン化するにあたり、キャラクターのあり方について研究した。	A	順調
4571-3	3) 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	2) 博物館教育に関する調査研究 本館 20 室「みどりのライオン」での博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、制作工程模型展示は年間で 10 万人を超える利用者があり、当館における博物館教育プログラムとして定着している。鈴木と藤田はこのプログラムを博物館教育の見地から調査研究し、口頭および論文で発表を行った。 3) 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能、貸与管理機能の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。また Web サイトにおいて公開する収蔵品の展示予定情報のために、平常展管理機能からデータを抽出する機能を実装した。また次期システムに向けた設計のための準備を開始した。	A	順調
4571-4	4) 凸版印刷と共同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する。	4) 凸版印刷と共同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する。 重要文化財 2 件を含む館蔵の土偶 3 件について、凸版印刷との共同で高精細三次元データを取得し、それに基づいたシアター用コンテンツを制作した。同コンテンツは平成 24 年 1 月からミュージアムシアターで公開している。	A	順調
4572-1	(京都国立博物館) 1) 文化財情報に関する調査研究	【京都国立博物館】 1) 文化財情報に関する調査研究 ・文化財情報システムの昨年度更新後の運用上の問題点を検討し、運用ソフトの改良を随時行った。 ・文化財の写真原板のデジタル化開始に伴う、特別観覧業務上の問題点と文化財情報システム運用の間の整合性について検討し、システムを改良した。 ・ウェブサイトのコンテンツを随時見直し、情報を更新した。	A	順調
4573-1	(奈良国立博物館) 1) 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	【奈良国立博物館】 1) 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる 奈良の歴史と伝統文化に関する情報を、まずは今年度開催した展覧会の中から抽出することとした。その情報を職員やボランティアが共有する機会を設け、児童・生徒が歴史への関心を高めるのに使える情報は何かを検討した。ボランティアへの指導と話し合いを通して、世界遺産学習の実践の場での「語りかけ」の精度を高めることに努めた。	A	順調
4573-2	2) 文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	2) 文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる 昨年度から開始したデジタル撮影の本格的な稼働をうけ、その安定的な継続を目指	A	順調

		して、撮影機材、環境、ストレージ、体制等の整備に努めた。それにより新規の撮影と外部へのデジタル画像提供もスムーズに実施することができた。また、館内の情報システム・公開用データベースの更新を行い、情報資源の内部での活用と外部への公開の拡充に積極的に取り組んだ。仏教美術資料研究センターの改修工事完了をうけて、情報公開施設の整備と一般への普及にも努めた。		
4574-1	(九州国立博物館) 1) 九博に関連する絵本の次シリーズの企画について検討する。	【九州国立博物館】 1) 九博に関連する絵本の次シリーズの企画について検討する 次シリーズを企画するうえで、絵本活用という観点から検討を加えるべく、既刊の『きゅーはくの絵本』シリーズを用いた読み聞かせやバックヤードツアーを実施した。他館における絵本展示の実例を調査した。絵本出版社と意見交換を行い、今後のシリーズ展開を検討する上での情報収集を行った。あじっばを主題とするマナーブック『あじっばのたいせつななかつち』を、展示課と九州産業大学芸術学部デザイン科が共同で制作している。年間を通じて関係各所に絵本を配布し、本活動の周知につとめた。	A	順調
4574-2	2) NHKと協同で高精細画像を活用したシアター４０００での映像公開に向けた研究を引き続き実施する。	2) NHKと協同で高精細画像を活用したシアター４０００での映像公開に向けた研究を引き続き実施する 新コンテンツ作成のための予備調査を実施し、その映像公開にむけた具体的な打合せを実施した。また、将来のスーパーハイビジョンの広い分野での活用を視野に入れた研究を、NHK及びNHKエンタープライズと共同で推進するための協議を行った。	A	順調
4574-3	3) 特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究を行う。	3) 特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究を行う 講演会の実施、展覧会の出品作品にちなんだグッズの作成、展覧会の出品作品にちなんだワークショップなどを行った。展示室内に解説パネルを掲出、小冊子を作成し観覧者に配布するなどした。展覧会のアンケート結果より、多くの観覧者から教育普及プログラムを通して展覧会を楽しめたとの高い満足度を得ることができ、多くの観覧者に展示内容を理解いただける成果を挙げた。	A	順調
4574-4	4) 学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうばっく」の研究・開発を引き続き実施する。	4) 学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうばっく」の研究・開発を引き続き実施する 小学校・中学校・高等学校などさまざまな校種において「きゅうばっく」が活用され、教科や単元においても、歴史学習にとどまらず、「道徳」や「総合的な学習の時間」の郷土学習、異文化理解学習での活用がみられた。活用形態も、博物館訪問の事前学習として活用する例、長期休業中の学習活動への導入として組み込む例など多様な形態での活用が確認できた。また、新シリーズを構成する資料について候補の選定、収集を進めた。	A	順調

5 文化財保護に関する国際協力の推進

【中期目標】文化財の保護に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図り、我が国の国際貢献に寄与すること。

(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

【中期目標】研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保護協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。	
【中期計画】 (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。	【主な計画上の評価指標】 ○情報の収集・分析及びその提供を行うこと。 ○国際協力のネットワークを構築すること。 ○アジア地域を主とする諸外国において、文化財保護事業を進めること。 【22年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
5111	文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。 ① ユネスコ、ICOMOS、ICOM等が行う主要な国際会合へ出席し、情報の収集を行うとともに、アジア地域の文化財保護に関わる機関等とも連携して文化遺産国際ワークショップを行い、当該地域における文化財情報の収集に努めるとともに、今後の協力関係を築く基礎とする。	(1) ① 文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 パリにおいて開催された世界遺産委員会に出席する等、各国の文化遺産に関する情報収集を行ったほか、文化財保護関連の法令の収集・分析および翻訳作業を実施し、データベースを充実するとともに、対訳法令集シリーズとして刊行した。また、バーミヤーン遺跡保存に関するシンポジウムを開催し、国際協力の推進と協力成果の一般への普及広報を図った。	A	順調

(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

【中期目標】-----	
【中期計画】 (2) 国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。	【主な計画上の評価指標】

		【22 年度評価における主な指摘事項】 ○東南アジア、中国、西アジアにおける文化財修復事業に積極的に参画し、成果を挙げている。 ○かつて戦域であった地域の文化財修復には、我が国の協力が不可欠であることから、今後もアジアに向けての人材育成等の一層の推進が期待される。		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
5211	(2) 国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。 ① 文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 ア 敦煌莫高窟壁画及び陝西省墳墓壁画を始めとする中国の文化遺産の保存修復のための共同研究を実施する。また、モンゴルの文化財保存修復事業に協力する。	(2) ①-ア 東アジア諸国文化遺産保存修復協力 敦煌莫高窟及び陝西省墳墓壁画を対象とする共同研究を実施するため、中国側各機関との調整を行うと共に、実質的な調査研究活動に着手した。	A	順調
5212-1	イ 東南アジア地域における文化財保存修復協力事業及び調査研究等を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ寺院遺跡及びタ・ネイ遺跡等）、ベトナム・タンロン皇城遺跡、タイ・スコータイ遺跡等において建築史的、考古学的、保存科学的調査を実施する。	①-イ-1 東南アジア諸国文化遺産保存修復協力 カンボジア、タイを対象とする共同研究およびインドネシアでの協力事業を実施するため、各国の関係各機関との調整を行うとともに、カンボジアにおいて実質的な調査研究活動に着手した。	A	順調
5212-2		①-イ-2 カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査 ・西トップ遺跡に関し、今年度より新たな第三期中期計画を開始した。今後の計画の中心となるのが修復計画である。従来から検討してきた修復計画をさらに実質的なものにするとともに、国際調整委員会で計画についての発表をおこなった。 ・タンロン皇城遺跡に関しては、昨年度に引き続き発掘現場における発掘技術研修を実施した。木製品の保存科学的処理については、担当者 2 人を招聘して、奈良文化財研究所の機材を用いた研修をおこなった。	A	順調
5213	ウ アフガニスタン（主としてバミヤーン）及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施する。また、併せて周辺地域（西アジア諸国等）の文化財調査研究及び保存修復協力事業を実施する。	①-ウ 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 ・アフガニスタン：バミヤーン遺跡保存事業に関する専門家会議の開催・出席、報告書の作成・出版 ・西アジア周辺諸国の文化遺産の調査研究・保護への協力：トルコ、タジキスタン、インド、中央アジア諸国、エジプト	A	順調
5214	エ 上記各事業と連携しつつ、文化財の保存修復手法に関するワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。	①-エ 文化財保存修復手法の国際的研究 「海外における日本の装こう修理技術利用に関する研究会」をテーマとして国	A	順調

		際研究会を開催した。講演会および検討会の参加者は 31 名であった。またそれに付随して、文化財の修復に使用される日本の伝統的な製法による刷毛の製作工場の視察、調査を行った。		
--	--	--	--	--

(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

【中期目標】 -----				
【中期計画】 (3) 文化財保護の担当者や学芸員並びに保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。		【主な計画上の評価指標】 ○諸外国への文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進めること。 【22 年度評価における主な指摘事項】 ○文化財に関する国際貢献については、あまり一般に知られていない。その成果公開を国内で推進すること、すなわち文化財に関する日本の技術等が世界に発信しうる内容のものである事実を、国内で周知することも、今後、海外だけでなく、国内における後継者育成を推進する上で必要である。		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
5311	(3) 文化財保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。 ① 諸外国の考古学、建造物、歴史資料及び保存科学等の文化財保護に係る専門家の人材育成を国内または現地で実施する。 ② 国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。	(3) ○ 諸外国の文化財保護に係る人材育成 2012 年 2 月 27 日～3 月 20 日の日程で敦煌研究院保護研究所の研究員 3 名を日本に招へいし、研修を行った。	A	ほぼ 順調
5331	③ 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力を行う。	③ ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力 集団研修ではアジア太平洋諸国 16 ヶ国、16 名の研修生に対して、木造建造物の保存修復についての研修をおこなった。また個人研修ではインドネシア人専門家 3 名に対して、木造建造物の保存修復についての研修をおこなった。こうした研修を行なうことにより、各国の人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助ともなった。また国内における国際協力関係の諸機関との連携を強化することができた。	A	順調

(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

【中期目標】平成23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを開設し、同地域における無形文化遺産保護に寄与すること。				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(2) 23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。		○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うこと。		
		【22年度評価における主な指摘事項】		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
5411	(4)アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。	(4) ○ アジア太平洋無形文化遺産研究センターの設置、およびアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究 10月にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、文化庁受託事業「平成23年度 無形文化遺産保護パートナーシッププログラム」および文部科学省受託事業「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」を実施した。	A	順調

6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

【中期目標】国際化の推進を図るためインターネット等による情報発信を強化し、調査・研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。

(1) 情報基盤の整備充実

【中期目標】 -----				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。 また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。		○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。 ○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。		
		【22年度評価における主な指摘事項】		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6111	以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、国内外の研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。 (1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。 ① ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。	(1) ①-1 ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実 基幹ネットワークシステムの更新及びウイルス対策ソフトを更新することによりセキュリティの強化を図った。また、サーバ及び情報端末をネットワークに接続することにより情報基盤システムの整備・充実を行った。	A	順調
6112		①-2 文化財情報基盤の整備 保守期限切れを迎えるネットワーク機器の更新を実施するとともに、リモートアクセスが可能なVPNを導入し、利便性を向上させた。また、広報関係ではホームページのレイアウトを更新し、毎月の活動報告（和英）の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジンによる情報発信を行った。	A	順調

6121	② 文化財に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。	②-1 専門的アーカイブの充実（資料閲覧室運営） ・公開用 SQL データの更新・運用 ・画像資料のデジタル化 ・近現代美術関係文献等のデータベース化 ・朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化	A	順調
6122		②-2 無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 昨年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理を行った。所蔵 S P レコードの内、特殊な再生装置が必要な初期音盤の一部について、内容確認および媒体変換を行った。	A	順調
6123		②-3 文化財に関するデータベースの充実 文化財情報電子化の研究を通じて、GIS を活用した文化遺産情報の取得・管理に関する最新の手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表している。開発・改良を継続している各種データベースについて、業務用とともに公開用についても、記載方法の標準化をすすめながらデータの充実を図った。	A	順調
6131	③ 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。	③ 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集を行い、整理された資料をデータベースに蓄積してインターネットに公開した。	A	順調

(2) 研究所の研究成果の発信

【中期目標】 ———				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。		○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。 ○ウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図ること。 【22 年度評価における主な指摘事項】		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6211	(2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数の統一を図り、アクセス件数の向上を図る。 ① 定期刊行物の刊行	(2) ①-1 広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）	A	順調

6212	○『東京文化財研究所年報』 ○『東京文化財研究所概要』 ○『東文研ニュース』 ○『美術研究』（年 3 冊） ○『日本美術年鑑』（年 1 冊） ○『無形文化遺産研究報告』（年 1 冊）	年報 2010 年度版、概要 2011 年度版を編集、発行した。また、東文研ニュースを年 4 回、東文研ニュースダイジェスト（英語）を年 2 回発行した。		
6213	○『無形民俗文化財研究協議会報告書』（年 1 冊） ○『保存科学』（年 1 冊） ○『奈良文化財研究所紀要』 ○『奈良文化財研究所概要』 ○『奈文研ニュース』 ○『埋蔵文化財ニュース』	①-2 「平成 22 年度版 日本美術年鑑」・「美術研究」の刊行 今年度は『平成 22 年版 日本美術年鑑』及び、『美術研究』404～406 号を刊行することができた。	A	順調
6214		①-3 「無形文化遺産研究報告」・「無形民俗文化財研究協議会報告書」の刊行 ・主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 6 号の刊行。 ・平成 23 年 12 月 16 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 6 回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。	A	順調
6215		①-4 「保存科学」51 号の刊行 今年度の投稿件数は 28 件であった。全投稿原稿に対して、査読委員による査読を実施し、報文 7 件、報告 20 件、計 27 件の掲載を決定した。版型 B5 版、総ページ数 300 頁、発行部数 650 部、関係諸機関に約 580 部配布。	A	順調
6216		①-5 第 34 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会報告書の刊行 上記研究集会に係る報告書（日本語および英語の各国語版）を編集・刊行した。	A	順調
6221	② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等 ○国際シンポジウムの開催（年 1 回） ○公開講座（オープンレクチャー）（年 1 回） ○公開講演会 ○現地説明会	①-6 定期刊行物の刊行 紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、合計 10 点を刊行した。 ②-1 平成 23 年度オープンレクチャー 第 45 回企画情報部オープンレクチャー「モノノイメージとの対話」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した（参加者数：236 人、アンケートによる満足度：89%（回収率：80%）。	A	順調
6222		②-2 第 35 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 無形文化遺産分野の工芸技術、中でも染織技術分野をテーマとする初めての開催であり、参加者数、満足度ともに高い評価を得た。また今後の当該分野における研究ネットワーク構築の第 1 ステップなり得る成果が得られた。	A	順調
6223		②-3 公開講演会、現地説明会等の開催 ・公開講演会は、定例公開講演会を 2 回、特別講演会（東京会場）を 1 回、飛鳥資料館特別展記念講演会を 3 回、計 6 回開催した。 ・また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計 6 回実施した。 ・このことにより調査研究成果を適時適切に国民に公開公表することが出来、事業としては順調に実施できた。	A	順調
6231	③ ウェブサイトの充実 ア アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。	③-ア ホームページの運用 ホームページのレイアウトを更新し、毎月の活動報告（和英）の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジン	A	順調

6232	イ アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。	による情報発信を行った。 ③-イ ウェブサイトの内容の充実 ・奈良文化財研究所ホームページの完全リニューアルを行った。 ・『墨書土器字典』データベースを公開した。	A	順調
------	-----------------------------------	--	---	----

(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

【中期目標】 -----				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(3) 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。		○来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上を確保すること。		
【22年度評価における主な指摘事項】				
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6311	(3) 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。	(3)		
	① 平城宮跡資料館における展示・公開 常設展（月曜日、年末年始休館） 特別展（年1回） 企画展（年2回） 年間目標来館者数 85,300人	① 平城宮跡資料館における展示公開 常設展示に、新たに「考古科学コーナー」を増設した。入口ロビーにて、「文化財レスキュー事業の紹介」の展示をおこなった。秋期企画展「地下の正倉院展—コトバと木簡」、春期企画展「発掘速報展 平城2011／文化財レスキュー展」を開催した。	A	順調
6321	② 飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催 常設展示（月曜日、年末年始休館 有料公開 ただし平成23年4月1日～5月13日まで無料） 特別展示（年2回） 企画展の開催（年1回） 年間目標来館者数 48,800人	② 飛鳥資料館における展示公開 ・春期特別展「星々と日月の考古学」を4月16日～5月29日に開催し、記念講演会を5月14日におこなった。 ・夏期企画展「鋳造技術の考古学—東アジアにひろがる鋳物師のわざ—」を8月2日～9月4日に開催した。 ・秋期特別展「飛鳥遺珍—のこされた至宝たち—」を10月14日～11月27日に開催し、記念講演会を11月6日におこなうとともに、ギャラリートークを2回開催した。 ・冬期企画展「飛鳥の考古学2011」を1月20日～2月26日に開催するとともに、写真コンテストを主催した。	A	順調
6331	③ 藤原宮跡資料室における展示・公開 常設展（土・日曜日、祝日、休日、年末年始休館 無料公開）	③ 藤原宮跡資料室における展示公開 常設展示および発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実	A	順調

年間目標来館者数　４，４００人	を図った。庁舎エントランスに発掘調査成果を速やかに公開するための速報展示コーナーを設け、多様な成果を継続的に公開した。あわせて、職員による展示解説、展示のための各種資料制作、パンフレットなどの企画と制作、各地の博物館などへの文化財の貸与をおこなった。				
	定量評価	23 年度	22 年度	目標値	評定
	来館者数				
	平城宮跡資料館	132,295	354,346	85,300	S
	飛鳥資料館	42,479	133,312	48,800	B
	藤原宮跡資料室	2,971	4,815	4,509	B

(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

【中期目標】 -----				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(4) 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者や文化財及び奈良文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。		○文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動支援を行うこと。		
【22年度評価における主な指摘事項】				
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6411	(4) 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び奈良文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。 ① 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ○ 文化庁平城宮跡等管理事務所の運営への協力	(4) ①-1 文化庁平城宮跡等管理事務所の運営への協力 ・平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。 ・文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援、協力及び関係機関等との調整を行った。 ・関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備事業	A	順調

		平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を実施した。 ○平城宮跡〔対象面積：915,150 m ² 〕 ○藤原宮跡〔対象面積：257,840 m ² 〕		
6412	○ 国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力	①-2 国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力 第一次大極殿院復原検討会を18回開催し、そのための資料収集と整理、国内外の類例調査などをおこなった。また平城宮跡の整備・活用に向けての基礎的な資料の収集と、整備施工に対しての事前立会調査等をおこない、遺跡の保護・保全といった観点を含めて、十分に対応することができた。	A	順調
6413	○ 国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	①-3 国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力 展示基本設計の策定に必要な、展示テーマや展示内容案を作成し、展示構成および展示手法について、設計業者と協議を重ねた。その展示計画案に基づき、展示物の立案、検索や調査、リスト化をおこなった。また設計業者の要望に応じて、展示設計上参考となる図面や画像などの多様な参考資料を、用意し提供した。	A	順調
6414	○ 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	①-4 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力 国営飛鳥歴史公園事務所が開催した「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」（平成24年3月7日）に出席し、体験学習館の基本設計（案）作成に協力した。	A	順調
6421	② 平城宮跡解説ボランティア事業の実施	② 平城宮跡解説ボランティア事業の実施 高い知識に基づく解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。	A	順調
6431	③ 平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加	③ 平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加 平城宮跡来訪者に平城宮跡内でのマナーの向上や防災・防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。	A	順調
6441	④ NPO法人等への支援	④ NPO法人等への支援 ボランティア団体への支援は、その育成につながった。	A	順調

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

【中期目標】我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。				
【中期計画】 我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 (1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。 (2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。		【主な計画上の評価指標】 ○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。 ○地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施すること。また、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施すること。 【22年度評価における主な指摘事項】		
処理番号	年度計画	主な実績		自己評価 年度 中期
7111-1	我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 (1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。	(1)-1 無形文化遺産に関する助言 平成23年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等について、文化庁文化財部伝統文化課に対し無形文化遺産保護条約に関する助言をはじめ、32件の助言を実施した。		A 順調
7111-2		(1)-2 文化財の修復及び整備に関する調査・助言 今年度は、件数として33件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。		A 順調
7111	① 地方公共団体等からの要請に応じ、それへの協力・助言・専門的知識の提供等を実施する。	(1)-①-1 地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言 平成23年度は、平城京域において、個人住宅・集合住宅等の建設にともなう計5件の発掘調査を実施した。その結果、平城京右京三条一坊一坪で奈良時代とみられる柱穴などを検出した。また、海龍王寺旧境内でも調査をおこなったが、奈良時代の遺構は確認できなかった。このほか、西大寺旧境内（薬師金堂付近）では薬師金堂の基壇が削平を受けており、調査地には遺存していないことが判明した。また左京三条一坊十坪では、奈良時代の柱穴を数基検出している。		A 順調

7112		(1)-①-2 地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言 藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は13件あり、主に現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、藤原宮跡東面大垣の調査(168-2次)では、極めて遺存状態の良い門遺構とそれに接続する大垣を確認した。	A	順調		
7113		(1)-①-3 地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。	A	順調		
7121	② これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を実施する。	(1)-② 他機関等との共同研究及び受託研究を実施 地方公共団体等がおこなう文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等をおこなった。	A	順調		
7131	③ 災害により被災した文化財の保護のため、文化庁の要請を受け、国立文化財機構は東京文化財研究所に事務局を設置し、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業(文化財レスキュー事業)を実施する等、地方公共団体等に対する支援・協力を行う。	(1)-③ 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業(文化財レスキュー事業) ・東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を設置した。 ・被災文化財レスキュー事業を実施した。	A	順調		
7211	(2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。 ① 埋蔵文化財担当者研修の実施 専門研修13課程、研修人数延べ160人	(2)-① 埋蔵文化財担当者研修の実施 ・遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修13課程の研修を実施し、延べ136名が受講した。 ・研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。	A	順調		
7221	② 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修の実施 期間2週間、受講生25名程度	(2)-② 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 第28回保存担当学芸員研修、保存担当学芸員フォローアップ研修、第16回資料保存地域研修を、それぞれの趣旨に沿ったプログラムのもとで実施し、非常に高い満足度を得た。	A	順調		
7231	③ 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進 ○ 東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学) ○ 京都大学：共生文明学(文化・地域環境論)	(2)-③-1 連携大学院教育 東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学) 保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また、実習である文化財保存学演習を1コマ担当した。	A	順調		
7232	○ 奈良女子大学：比較文化学(文化史論)	(2)-③-2 京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進 ・京都大学大学院人間・環境学研究科において5名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において3名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。 ・なお、平成23年度の受入学生数は京都大学75名、奈良女子大学5名であった。	A	順調		
		定量評価	23年度	22年度	目標値	評定
		埋蔵文化財担当者研修 課程数(課程)	13	11	13	A
		研修受講者数(人)	136	137	延べ160	B
		保存担当学芸員研修 期間(週間)	2	2	2	A
		受講生(名)	27	33	25程度	A

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 一般管理費等の削減

【中期目標】業務運営に関しては、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日開議決定）等を踏まえ、国立文化財機構の活性化が損なわれないよう十分配慮しつつ、一層の業務の効率化を推進することにより、文化財購入等の効率化になじまない特殊要因経費を除き、中期目標の期間中、一般管理費については 1 5 % 以上、業務経費についても 5 % 以上の効率化を図ること。ただし、人件費については次項に基づいた効率化を図る。				
なお、1 9 年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成 2 3 年度までの統合後 5 年間で、1 9 年度一般管理費（物件費）の 1 0 % 相当の経費削減を図ること。				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
1 中期目標の期間中、一般管理費については 1 5 % 以上、業務経費については 5 % 以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。 なお 1 9 年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成 2 3 年度までの統合後 5 年間で、1 9 年度一般管理費（物件費）の 1 0 % 相当の経費を削減する。 このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。 具体的には下記の措置を講じる。 (1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化 (2) 計画的なアウトソーシング (3) 使用資源の減少 ・省エネルギー（エネルギー使用量は、5 年計画期間中に 5 % 削減） ・廃棄物減量化 ・リサイクルの推進		○中期目標の期間中、一般管理費 15%以上、業務経費 5 % 以上の業務の効率化を図ること。 ○共通的な事務の一元化を図ること。 ○計画的なアウトソーシングを図ること。 ○エネルギー使用量は、5 年計画期間中に 5 % の削減を図ること。 ○廃棄物の減量化を図ること。 ○リサイクルの推進を図ること。 ○競争性のある契約への移行を推進すること。 ○民間競争入札等の推進を図ること。		
		【22 年度評価における主な指摘事項】		
		○今後も財務会計システムの更新等により一層の業務の効率化を図ることが望まれる。 ○民間委託については、文化財保護という重要な業務を担う中、着実に推進していると判断できる。今後は、民間委託が人件費・経費の削減や業務の効率化にどれだけ資するか検証する必要がある。		
処理 番号	年度計画	主な実績		自己評価 年度 中期
9110	1 一般管理費の削減 (1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化 1) 財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。 2) 国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。 3) 新設されるアジア太平洋無形文化遺産研究センターを含めたネットワークの共通化及び機構全体のグループウェアの共通化を図り、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。	1 一般管理費の削減 (1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化 1)web 給与明細システムを23年5月給与より正式運用開始した。機構全体で職員の45.6%(858人のうち391人、24年3月給与支給日現在)について紙媒体での給与明細配布を終了し、給与事務の効率化を図った。 また新財務会計システム更新について、24年4月正式運用開始に向けて準備を進めた。現行では別システムまたは紙により処理している購入依頼、科学研究費、旅費処理等の会計処理・管理を一元化する予定であり、財務会計事務の効率化が見込まれる。 2) 国立博物館各館および各研究成果公開施設における23～27年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を2回開催し、連絡・調整を行った。 3) アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、23 年 9 月の LAN 新設時に機構 VPN(Virtual		A 順調

		Private Network)に接続した。また、機構共通グループウェア「サイボウズ」の機構全体での運用を継続し、機構内の連絡調整・情報共有を推進した。																											
9120	(2) 計画的なアウトソーシング 以下の業務の外部委託を継続して実施する。 (東京国立博物館) ・資料館業務の一部 (京都国立博物館) ・看視案内業務及び設備保全業務の一部 ・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務 ・情報システムの運用・管理・開発業務の一部 (奈良国立博物館) ・建物設備の運転・管理業務 ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務 (九州国立博物館) ・建物設備の運転・管理業務等 ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務 (東京文化財研究所・奈良文化財研究所) ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等	(2) 計画的なアウトソーシング ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を外部委託している。また、研究所は警備業務の全てを外部委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。 ・東京国立博物館及び東京文化財研究所における施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）及び東京国立博物館展示場における来館者等対応業務について民間競争入札を実施している。	A	順調																									
9130	(3) 使用資源の減少 ・省エネルギー 1) 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き削減に努める。 (エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減) ・廃棄物減量化 1) 使用資源の削減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。 ・リサイクルの推進 1) 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。	(3) 使用資源の減少 ・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。 ・廃棄物削減では、ミスコピーの防止及び両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を引き続き行っている。 ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙受け渡し、再生紙の発注等） 使用資源の推移等 光熱水料金 <table><tr><th>事項</th><th>22年度</th><th>23年度</th><th>差額</th><th>増減率</th></tr><tr><td>電気料</td><td>350,947</td><td>359,663</td><td>8,716</td><td>2.48%</td></tr><tr><td>水道料</td><td>79,777</td><td>82,330</td><td>2,553</td><td>3.20%</td></tr><tr><td>ガス料</td><td>98,213</td><td>127,175</td><td>28,962</td><td>29.49%</td></tr><tr><td>計</td><td>528,937</td><td>569,168</td><td>40,231</td><td>7.61%</td></tr></table> ※電気料は全体として使用量ベースでは減少したが、原料高騰による契約単価および燃料調整費の上昇により使用料金ベースで増額となった。	事項	22年度	23年度	差額	増減率	電気料	350,947	359,663	8,716	2.48%	水道料	79,777	82,330	2,553	3.20%	ガス料	98,213	127,175	28,962	29.49%	計	528,937	569,168	40,231	7.61%	A	順調
事項	22年度	23年度	差額	増減率																									
電気料	350,947	359,663	8,716	2.48%																									
水道料	79,777	82,330	2,553	3.20%																									
ガス料	98,213	127,175	28,962	29.49%																									
計	528,937	569,168	40,231	7.61%																									

																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

9140

(4) 自己収入の増大

独立行政法人整理合理化計画（19 年 12 月 24 日閣議決定）の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。

1）機構全体において、入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1．16%の増加を目指す。

2）機構全体において、寄附金 226 件及び科学研究費補助金 76 件の確保を目指す。

(4) 自己収入の増大

1) 定量的目標を設定した自己収入については、下表のとおり△8.17%となり、目標を下回った。
(単位：千円)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
自己収入基準額	874,112	884,252	894,510
自己収入目標額	884,252	894,510	904,886
自己収入実績額	949,900	1,002,524	821,470
増 加 率	8.67%	13.38%	△8.17%

※ 受託研究・受託事業を除く。

※ 自己収入目標額は、前年度の目標額から 1.16%増加した場合の額。

※ 増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。

2) 下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

	目標値	平成 23 年度
寄附金	226 件	393 件
科学研究費補助金	76 件	76 件

B

一部
要注意

定量評価	23 年度	22 年度	目標値	評定
一般管理費の効率化(対前年度比%)	4.75%減	5.53%減	3.20%	A
業務経費の効率化(対前年度比%)	7.53%減	7.61%増 (特殊要因を考慮した 場合 6.05%減)	1.03%	S
光熱水料費の削減(対前年度比%)	1.58%減	4.24%減 (特殊要因を考慮した 場合 5.65%減)	1.03%	S
自己収入増加率	8.17%減	13.38%	1.16%	C
寄附金件数	393 件	314 件	226 件	A
科学研究費採択件数	76 件	81 件	76 件	A

2 給与水準の適正化等

【中期目標】 給与水準については、「公務員の給与改定に関する取扱いについて」（平成 22 年 11 月 1 日閣議決定）を踏まえ、国家公務員の給与水準等を十分考慮して、検証したうえで、業務の特殊性を踏まえた適切な目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取組むとともに、検証結果や取組状況を公表すること。 総人件費についても、平成 23 年度はこれまでの人件費改革の取組を引き続き着実に実施するとともに、平成 2 4 年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜的な見直しを踏まえ、厳しく見直すこと。													
【中期計画】 2 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、对国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成 2 3 年度まで継続するとともに、平成 2 4 年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。 なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。					【主な計画上の評価指標】 ○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行うこと。 【22 年度評価における主な指摘事項】 ○人件費削減 過年度から引き続き、人件費の削減は順調に実施されており、大変な努力がなされていると評価する。今後は、優秀な人材を確保・育成することにより、組織の活性化を図る必要がある。 ○諸手当・法定外福利費 国とは異なる諸手当はないが、引き続き、法人の事務・事業の公共性、業務運営の効率性等の観点から、必要に応じて見直しを行うことが望まれる。								
処理 番号	年度計画		主な実績							自己評価			
										年度	中期		
9210	2 給与水準の適正化等 国家公務員の給与水準や手当を考慮した役職員の給与の適正化を計画的に取り組む。またこれまでの人件費改革の取り組みを平成 2 3 年度まで継続する。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については総人件費改革の削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。 その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。		2 給与水準の適正化等 ・人件費削減実績							A	順調		
				17 年度 (A 分類 実績ベース)	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度			23 年度	23 年度目標値 (17 年度に比して △6.00%)
			実績(千円)	2,878,750	2,789,360	2,773,688	2,745,389	2,688,829	2,619,439			2,607,399	2,706,025
			前年度に対する削減率	—	△3.11%	△0.56%	△1.02%	△2.06%	△2.58%			△0.46%	—
			17 年度に対する削減率	—	△3.11%	△3.65%	△4.63%	△6.60%	△9.01%			△9.43%	—
			17 年度に対する削減率 (補正值)	—	△3.11%	△4.35%	△5.33%	△4.90%	△5.81%			△6.03%	—
			・人事給与統合システムが平成 20 年 4 月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。 ・地域手当について、平成 23 年度においても平成 21 年度の率を据え置く方針が決定された。										

3 契約の適正化の推進

【中期目標】 契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成21年11月17日閣議決定）に基づく取組を着実に実施し、一層の競争性と透明性の確保に努め、契約の適正化を推進するとともに外部委託の活用等により、定型的な管理・運営業務の効率化を図ること。													
【中期計画】 3 「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成21年11月17日閣議決定）に基づき引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月7日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。		【主な計画上の評価指標】 ○情報セキュリティに配慮した情報化・電子化に取り組むこと。 ○情報セキュリティ対策の向上・改善のための定期監査等を実施すること。 【22年度評価における主な指摘事項】											
処理 番号	年度計画	主な実績		自己評価									
				年度	中期								
9310	3 契約の適正化の推進 1) 契約監視委員会を実施する。 2) 施設内店舗の賃付について企画競争を導入する。 3) 民間競争入札を推進する。 (東京国立博物館・東京文化財研究所) ・施設管理・運営業務を継続して外部委託を行う。 (東京国立博物館) ・展示場における来館者応対等業務を継続して外部委託を行う。	3 契約の適正化の推進 1) 「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて（平成21年11月17日閣議決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が平成22年度に締結した契約の点検・見直しを行った。 第1回契約監視委員会（平成23年12月3日開催） 第2回契約監視委員会（平成24年6月4日開催予定） 2) 京都国立博物館（レストラン）奈良文化財研究所平城宮跡資料館（ミュージアムショップ）において、企画競争を実施した。また、東京国立博物館（レストラン）及び奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）については既に企画競争を実施済み。 今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 3) ・総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画（平成19年12月24日閣議決定）」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、引き続き競争契約に移行している。 ・より多くの競争参加者を募るため、公告期間をこれまでの「10日間以上」から自主的措置として20日間以上確保するように努めた。 ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。 一般競争入札件数 <table><tr><td>年度</td><td>22年度</td><td>23年度</td><td>増減</td></tr><tr><td>件数</td><td>175件</td><td>132件</td><td>△43件</td></tr></table>		年度	22年度	23年度	増減	件数	175件	132件	△43件	A	順調
年度	22年度	23年度	増減										
件数	175件	132件	△43件										

		※随意契約を含めた全体の契約件数は、平成 22 年度の 341 件に対して、平成 23 年度は 230 件と大幅に減少しているが、総契約件数に占める一般競争件数の割合は上昇している。					
		(参考) 総契約件数に占める一般競争入札件数の割合					
		年度		22 年度	23 年度	増減	
		件数割合		51%	55%	4%	
		※一般競争入札にかかる契約金額は 22 年度比で 39.3%増となっている。					
		(参考) 一般競争入札にかかる契約金額				(単位: 千円)	
		年度		22 年度	23 年度	増減	
		金額		1, 959, 701	3, 438, 898	1, 479, 197	

4 保有資産の有効利用の推進

【中期目標】保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、本来業務に支障のない範囲で有効利用の推進を図ること。				
【中期計画】 4 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。		【主な計画上の評価指標】 ○対国家公務員指数について、現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表すること。		
		【22 年度評価における主な指摘事項】		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9411	4 保有資産の有効利用の推進 (博物館 4 施設) 1) 講座・講演会等を開催する。 2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。 3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。	4 保有資産の有効利用の推進 【東京国立博物館】 1) 月例講演会等の他、友の会サービスの講演会として「東大寺講演会」(9月9日・共催 東大寺)を実施した。 2) 撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト(ロケなび!)への登録を継続した。 3) ・定期的にコンサート、寄席などの文化イベントを開催した。 ・「国際博物館の日」を記念して上野地区の機関と連携し、ガイドツアーなどを実施した。 ・「留学生の日」イベントを行い、ガイドツアーや茶道体験など日本文化の紹介を行った。 【京都国立博物館】 1) 平常展示館建替工事期間中のため、展覧会等に関する講演会、土曜講座等は館外の施設を利用して開催した。 2) 平常展示館建替工事期間中で講堂を使用できないため、庭園を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸出を積極的に行った。 3) 来館者の拡大を目的としたコンサートや映画野外上映会を実施し、施設の有効利用を図った。	A	順調
9412			A	順調

9413		【奈良国立博物館】 1) 公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 2) 奈良市教育委員会と連携し、市内の小学校5年生を対象とした世界遺産学習を実施した。 3) 地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。 (財)奈良県ビジターズビューロー等と連携し、国際学会のエクスカーションとして、なら仏像館を閉館後に観覧する特別鑑賞会(有料)を6回行った。	A	順調																												
9414		【九州国立博物館】 1) 文化交流展示室を紹介する講座の開催や各特別展に関連する講演会を開催した。 2) ミュージアムホール、エントランスホール、研修室、茶室等において、館主催事業及び各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室、茶室の貸出を行った。 3) 国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。また、ガムランワークショップや茶道体験、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。	A	順調																												
9415	(文化財研究所2施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。	【東京文化財研究所】 ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを毎年秋に開催。また、このレクチャーは、台東区との連携事業として「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムの一つとしても企画された。	A	順調																												
9416		【奈良文化財研究所】 <table><tr><th>施設名</th><th colspan="3">平成23年度</th></tr><tr><td>平城宮跡資料館講堂</td><td>105件</td><td>(内 有償貸与</td><td>3件)</td></tr><tr><td>平城宮跡資料館小講堂</td><td>144件</td><td>(内 有償貸与</td><td>15件)</td></tr><tr><td>寄宿舍施設</td><td>1,116件</td><td>(内 有償貸与</td><td>21件)</td></tr><tr><td>飛鳥資料館講堂</td><td>67件</td><td>(内 有償貸与</td><td>0件)</td></tr><tr><td>その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)</td><td>17件</td><td>(内 有償貸与</td><td>13件)</td></tr><tr><td>合計</td><td>1,449件</td><td>(内 有償貸与</td><td>52件)</td></tr></table> ・一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、HP上での施設利用紹介等による積極的有效利用(貸付等)の促進を図った。 ・奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。 ・上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ(売店)の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。	施設名	平成23年度			平城宮跡資料館講堂	105件	(内 有償貸与	3件)	平城宮跡資料館小講堂	144件	(内 有償貸与	15件)	寄宿舍施設	1,116件	(内 有償貸与	21件)	飛鳥資料館講堂	67件	(内 有償貸与	0件)	その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)	17件	(内 有償貸与	13件)	合計	1,449件	(内 有償貸与	52件)	A	順調
施設名	平成23年度																															
平城宮跡資料館講堂	105件	(内 有償貸与	3件)																													
平城宮跡資料館小講堂	144件	(内 有償貸与	15件)																													
寄宿舍施設	1,116件	(内 有償貸与	21件)																													
飛鳥資料館講堂	67件	(内 有償貸与	0件)																													
その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)	17件	(内 有償貸与	13件)																													
合計	1,449件	(内 有償貸与	52件)																													

5 内部統制の充実・強化
(1) 理事長のマネジメント強化

【中期目標】法令等を遵守するとともに、業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、内部統制の充実・強化を図ること。				
【中期計画】 5 (1) 理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。		【主な計画上の評価指標】 【22年度評価における主な指摘事項】		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9510	5 (1) 理事長のマネジメント強化 1) モニタリングの実施 ・自己点検評価を行う。 ・監事監査を行う。 ・内部監査を行う。 2) リスクマネジメントの実施 ・関連する諸規程を整備する。 ・危機管理マニュアルの見直し等を随時行う。	5 (1) 理事長のマネジメント強化 1) モニタリングの実施 ・自己点検評価を行い、『平成22年度 独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』を作成(23年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。 ・監事による定期監査(23年6月22日)を行った他、臨時監査を奈良文化財研究所(24年2月2日)、奈良国立博物館(24年2月3日)を対象に行った。 ・内部監査を、23年11月25日から12月22日の日程で、本部および各施設を対象に順次行った。 2) リスクマネジメントの実施 ・理事長からの指示に基づき、関連する諸規程の整備を進め、東京国立博物館防災管理規則の改正(室名等・防火担当責任者・火元責任者の見直し)を行った。 ・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直し等を随時行い、京都国立博物館では地震発生時の広域避難所として敷地及び施設を開放する旨を明記した。また、奈良文化財研究所では所内の事務文書規程に合わせた危機管理マニュアルの修正を行った。	A	順調

(2) 外部有識者による事業評価

【中期目標】外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させること。				
【中期計画】 5 (2) 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。		【主な計画上の評価指標】 【22年度評価における主な指摘事項】 ○事務事業改善 引き続き研修や運営改善コンクルのフォローアップ等を行い、事務事業の改善を図ることが望まれる。 ○コンプライアンス体制 コンプライアンス及び内部統制の整備・運用については、規程に基づき個人情報保護監査を行う等、有効に機能していると評価できる。今後も、業務の有効性及び効率性、財務報告の信頼性、事業活動に関わる法令等の遵守並びに資産の保全に努めることが望まれる。 ○法人のミッションの役職員への周知徹底		

役員会を通じてだけではミッションを役職員により深く浸透させることは十分ではないため、各種会議への役職員の参加や、朝礼及び機関誌等を利用することにより、すべての役職員への周知徹底を図ることが必要である。				
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9520	5 (2) 外部有識者による事業評価 1) 運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 2) 職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。	5 (2) 外部有識者による事業評価 1) 運営委員会(23年8月3日)、外部評価委員会(研究所調査研究等部会：23年4月20日、博物館調査研究等部会：4月27日、総会：5月25日)を実施し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。 2) (各種研修について詳しくは処理番号 0230 参照)	A	順調

(3) 情報セキュリティ対策の向上と改善

【中期目標】管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進し、必要な措置をとること。				
【中期計画】 5 (3) 管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。		【主な計画上の評価指標】 【22年度評価における主な指摘事項】 ○情報セキュリティ監査を活用し、セキュリティの弱点の把握とその改善を検討することが望まれる。 ○なお、東日本大震災の経験から、データやシステムのバックアップが十分か検証する必要がある。		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9530	5 (3) 情報セキュリティ対策の向上と改善 1) 情報セキュリティについて定期監査等を実施する。	5 (3) 情報セキュリティ対策の向上と改善 1) ・保有個人情報管理監査を、奈良文化財研究所(24年2月2日)、奈良国立博物館(24年2月3日)を対象に実施した。 ・情報システム監査を、京都国立博物館(23年9月7日)、九州国立博物館(23年9月9日)を対象に実施した。	A	順調

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

【中期目標】入場料収入、寄付金等による自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。 1 自己収入の増加 入場料収入、寄付金等の外部資金、本来業務に支障のない範囲で施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めること。 また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。 2 固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。			
【中期計画】管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を行う。 また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、入場料収入、寄付や賛助会員等への加入者の増加、募金箱の設置などによる外部資金、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなど、施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めることにより、計画的な収支計画による運営を行う。		【主な計画上の評価指標】 ○当期総利益（又は当期総損失）の発生要因が明らかにすること。また、当期総利益（又は当期総損失）の発生要因の分析を行った上で、当該要因が法人の業務運営に問題等があることによるものかを検証し、業務運営に問題等があることが判明した場合には当該問題等を踏まえた評価を行うこと。 ○利益剰余金が計上されている場合、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から実施されることが必要な業務を遂行するという法人の性格に照らし過大な利益となっていないかについて評価を行うこと。 ○繰越欠損金が計上されている場合、その解消計画の妥当性について評価すること。当該計画が策定されていない場合、未策定の理由の妥当性について検証を行うこと。（既に過年度において繰越欠損金の解消計画が策定されている場合の、同計画の見直しの必要性又は見直し後の計画の妥当性についての評価を含む）。さらに、当該計画に従い解消が進んでいるかどうかについて評価を行うこと。 ○当該年度に交付された運営費交付金の当該年度における未執行率が高い場合において、運営費交付金が未執行となっている理由を明らかにすること。 ○運営費交付金債務（運営費交付金の未執行）と業務運営との関係についての分析を行った上で、当該業務に係る実績評価を適切に行うこと。 【22年度評価における主な指摘事項】 ○定量的な目標の設定 自己収入の増大及び外部資金の確保については、定量的な目標は上回っており評価できる。今後も着実な目標達成を期待している。 ○展示事業等収入 展示事業等収入は、21年度と比較すると、来館者数の減少に伴って減少している。今後は国民のニーズを捉えつつ、ナショナルセンターの機能としてふさわしい優れた企画を期待するとともに、中長期的に来館者数の増減に左右されない財務体質の構築が望まれる。	
処理	年度計画	主な実績	自己評価

番号			年度	中期		
	予算					
	(単位：百万円)					
	区 分	金 額				
	収入					
	運営費交付金	7,941				
	施設整備費補助金	4,792				
	展示事業等収入	1,188				
	受託収入	26				
	計	13,947				
	支出					
	管理経費	1,502				
	うち人件費	668				
	うち一般管理費	834				
	業務経費	7,627				
	うち人件費	2,450				
	うち調査研究事業費	1,297				
	うち情報公開事業費	169				
	うち研修事業費	18				
	うち国際研究協力事業費	245				
	うち展示出版事業費	187				
	うち展覧事業費	3,206				
	うち教育普及事業費	55				
	施設整備費	4,792				
	受託事業費	26				
	計	13,947				
	収支計画					
	(単位：百万円)					
	区 分	金 額				
	費用の部	6,907				
	経常経費	6,907				
	管理経費	1,084				
	うち人件費	668				

		うち一般管理費	416			
		業務経費	5,414			
		うち人件費	2,450			
		うち調査研究事業費	743			
		うち情報公開事業費	95			
		うち研修事業費	11			
		うち国際研究協力事業費	138			
		うち展示出版事業費	113			
		うち展覧事業費	1,833			
		うち教育普及事業費	31			
		受託事業費	26			
		減価償却費	383			
		収益の部	6,907			
		運営費交付金収益	5,310			
		展示事業等の収入	1,188			
		受託収入	26			
		資産見返運営費交付金戻入	326			
		資産見返物品受贈額戻入	57			
		資金計画				
			(単位：百万円)			
		区 分	金 額			
		資金支出	13,947			
		業務活動による支出	6,524			
		投資活動による支出	7,423			
		資金収入	13,947			
		業務活動による収入	9,155			
		運営費交付金による収入	7,941			
		展示事業等による収入	1,188			
		受託収入	26			
		投資活動による収入	4,792			
		施設整備費補助金による収入	4,792			

Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

【中期目標】 1 施設・設備に関する計画 各施設の安全かつ良好な施設環境を維持するとともに、業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画、研究機器の整備・更新計画を作成し、整備を図ること。 2 人事に関する計画 人事管理、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図り、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。また機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を図ること。	
【中期計画】 1 施設・設備に関する計画 施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙4のと通りの施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。 2 人事計画に関する計画 (1)方針 ①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。 ②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。 ③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。 (2)人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。 中期目標期間中の人件費総額見込額 13,087百万円 但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。 3 中期目標期間を超える債務負担 中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。 4 積立金の使途 前中期目標期間の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。	【主な計画上の評価指標】 ○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ること。 ○人事交流の促進、職員への研修機会の提供等を図ること。 ○専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行うこと 【22年度評価における主な指摘事項】 ○アソシエイトフェロー制度は、安定的な継続が担保できないため、将来的にはあり方を見直す機会を設ける必要がある。

処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価					
			年度	中期				
	1 施設・設備に関する計画 別紙のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。	1 施設・設備に関する計画 (京都国立博物館平常展示館建替工事について詳細は、処理番号 1222 を参照)						
	施設・設備に関する計画 (単位：百万円)							
	<table><tr><th>施設・整備の内容</th><th>予定額</th><th>財 源</th></tr><tr><td>京都国立博物館 平常展示館建替工事 (19 年度～24 年度)</td><td>4,792</td><td>施設整備費補助金</td></tr></table>	施設・整備の内容	予定額	財 源	京都国立博物館 平常展示館建替工事 (19 年度～24 年度)	4,792	施設整備費補助金	
施設・整備の内容	予定額	財 源						
京都国立博物館 平常展示館建替工事 (19 年度～24 年度)	4,792	施設整備費補助金						

処理 番号	年度計画	主な実績							自己評価		
0210	2 人事計画に関する計画 (1) 職員の能力や業績を適切に反映 できる人事・給与制度を検討する。	2 人事計画に関する計画 平成 20 年度において、機構として統一的な運用及び規程を整備し、勤務評定制度を開始した。給与へは昇給及び 勤勉手当に反映しているが、実施時期についてより適切に反映できるよう検討していく。 (事務系職員) ・本部事務局及び各施設において、文化庁、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から 受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。 ・機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間（計 12 人）における交流を行っている。							A	順調	
0220	(2) 近隣大学等との交流を進め、優 秀な人材を確保する。								A	順調	
		年度	本部・東京 国立博物館	京都 国立博物館	奈良 国立博物館	九州 国立博物館	東京文化財 研究所	奈良文化財 研究所	アジア太平洋無形 文化遺産研究セン ター	年度計 (人)	
		19	18（東大、 医 科 歯 科 大、西美、 政研大）	11（京大）	9（阪大、京 大、阪教大、 奈良大）	7（九大、東 大、九大）	5（東大、医 科歯科大、 千葉大）	8（京大、阪 大、滋賀大、 滋 賀 医 科 大）	—	58	
		20	16（東大、 西美、政研 大）	10（京大、 民博）	10（文化庁 阪大、京大、 北 九 州 高 専）	8（九大、九 工大）	6（東大、医 科歯科大）	7（京大、阪 大、滋賀大、 総地研）	—	57	

		<table><tr><td>21</td><td>18(文化庁、東大、東近美、政研大、京博)</td><td>13(京大、民博、奈良博、東博)</td><td>10(文化庁、阪大、京大、北九州高専、京博)</td><td>11(九大、九工大、本部)</td><td>8(東大、医科歯科大、東博、奈文研)</td><td>8(京大、阪大、滋賀大、総地研、奈女大)</td><td>—</td><td>68(8)</td></tr><tr><td>22</td><td>18(東大、東近美、政研大、京博)</td><td>14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)</td><td>8(文化庁、阪大、京大、京博)</td><td>8(九大、本部)</td><td>5(医科歯科大、東博、奈文研)</td><td>11(京大、阪大、総地研、奈女大)</td><td>—</td><td>64(9)</td></tr><tr><td>23</td><td>17(東大、東近美、政研大、奈文研)</td><td>14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)</td><td>12(阪大、京大、京博、本部)</td><td>8(九大、本部)</td><td>6(医科歯科大、東博、本部)</td><td>12(文化庁、京大、阪大、奈女大)</td><td>1(奈文研)</td><td>70(12)</td></tr></table> ※表中の人事交流者の人数は、各年度末現在でカウントした。(機構に受け入れている人数) ※平成21年度から機構内の人事交流中の人数を含めた。合計欄の()内の人数。 ・職員としての適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を13人採用した。 ・また、文化庁から9人の受け入れ及び文化庁への出向を14人行っている。 ・機構内での人事交流を図るため、各施設間にて計7人の交流を行っている。	21	18(文化庁、東大、東近美、政研大、京博)	13(京大、民博、奈良博、東博)	10(文化庁、阪大、京大、北九州高専、京博)	11(九大、九工大、本部)	8(東大、医科歯科大、東博、奈文研)	8(京大、阪大、滋賀大、総地研、奈女大)	—	68(8)	22	18(東大、東近美、政研大、京博)	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	8(文化庁、阪大、京大、京博)	8(九大、本部)	5(医科歯科大、東博、奈文研)	11(京大、阪大、総地研、奈女大)	—	64(9)	23	17(東大、東近美、政研大、奈文研)	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	12(阪大、京大、京博、本部)	8(九大、本部)	6(医科歯科大、東博、本部)	12(文化庁、京大、阪大、奈女大)	1(奈文研)	70(12)			
21	18(文化庁、東大、東近美、政研大、京博)	13(京大、民博、奈良博、東博)	10(文化庁、阪大、京大、北九州高専、京博)	11(九大、九工大、本部)	8(東大、医科歯科大、東博、奈文研)	8(京大、阪大、滋賀大、総地研、奈女大)	—	68(8)																								
22	18(東大、東近美、政研大、京博)	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	8(文化庁、阪大、京大、京博)	8(九大、本部)	5(医科歯科大、東博、奈文研)	11(京大、阪大、総地研、奈女大)	—	64(9)																								
23	17(東大、東近美、政研大、奈文研)	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	12(阪大、京大、京博、本部)	8(九大、本部)	6(医科歯科大、東博、本部)	12(文化庁、京大、阪大、奈女大)	1(奈文研)	70(12)																								
0230	(3) 各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。	・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修(3件)、施設系の職員を対象とした研修(1件)、個人情報保護に関する研修(1件)及びハラスメントに関する研修(1件)を行った。 ・その他、他機関で実施する研修にも積極的に参加した。 <table><tr><th>研修名称</th><th>日程</th><th>受講対象者</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>新任職員研修会</td><td>23年7月20日～ 23年7月22日</td><td>平成22年度以降の新任職員等</td><td>34人</td></tr><tr><td>接遇研修</td><td>23年7月20日</td><td>平成22年度以降の新任職員等</td><td>34人</td></tr><tr><td>個人情報保護についての講演会</td><td>23年7月21日</td><td>平成22年度以降の新任職員等及び本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員</td><td>約100人</td></tr><tr><td>施設系職員研修会</td><td>23年8月25日～ 23年8月26日</td><td>機構内の施設系職員</td><td>11人</td></tr><tr><td>個人情報保護研修会</td><td>24年1月17日、20日、 23日、26日</td><td>関西地区・九州地区の各施設職員</td><td>102人</td></tr><tr><td>ハラスメントに関する研修会</td><td>23年7月22日など</td><td>各施設の職員、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等</td><td>約200人</td></tr></table>	研修名称	日程	受講対象者	受講者数	新任職員研修会	23年7月20日～ 23年7月22日	平成22年度以降の新任職員等	34人	接遇研修	23年7月20日	平成22年度以降の新任職員等	34人	個人情報保護についての講演会	23年7月21日	平成22年度以降の新任職員等及び本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員	約100人	施設系職員研修会	23年8月25日～ 23年8月26日	機構内の施設系職員	11人	個人情報保護研修会	24年1月17日、20日、 23日、26日	関西地区・九州地区の各施設職員	102人	ハラスメントに関する研修会	23年7月22日など	各施設の職員、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等	約200人	A	順調
研修名称	日程	受講対象者	受講者数																													
新任職員研修会	23年7月20日～ 23年7月22日	平成22年度以降の新任職員等	34人																													
接遇研修	23年7月20日	平成22年度以降の新任職員等	34人																													
個人情報保護についての講演会	23年7月21日	平成22年度以降の新任職員等及び本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員	約100人																													
施設系職員研修会	23年8月25日～ 23年8月26日	機構内の施設系職員	11人																													
個人情報保護研修会	24年1月17日、20日、 23日、26日	関西地区・九州地区の各施設職員	102人																													
ハラスメントに関する研修会	23年7月22日など	各施設の職員、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等	約200人																													

0240	(4) 非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。	・平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、当面対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行い、平成 20 年度に施設の維持管理を行う職員を適用範囲とした。 ・平成 20 年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度（アソシエイト・フェロー）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とした。平成 23 年度は東京国立博物館で 7 人、東京文化財研究所で 6 人、奈良文化財研究所で 3 人及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターで 2 人を採用した。（計 18 人）	A	順調
0250	(5) 専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。	高度の専門的知識経験又は優れた識見を一定の期間活用して行うことが必要と認める業務に雇用する者とした任期付専門員制度を活用し、平成23年度において1人採用した。今後、「独立行政法人の制度及び組織の見直しの基本方針」（平成24年1月20日閣議決定）に対応するため、検討を進める。	A	順調